

自立した女と男を 人間らしい生活を 差別のない社会を  
育み 創り出す

新しい家庭科

# We

ウイ



# 5

1991

特集

いま 少年・少女の現在

逐次刊行物

平成3年4月17日

国立婦人教育会館

婦人教育情報センター



木 蓮

初蟬や  
いまも雪峰を  
仰ぎつつ

	アンケート	
	私たちの現在 <sup>いま</sup>	
	「十代の一七四人」は……	2
	飾りたてた繁栄のなかの少年・少女たち	16
	横川和夫	
	メディアが育てる少年・少女	20
	井上輝子	
	「セーラー服を脱がさないで」のイメージから	24
	少年・少女は変わったのか	
	村瀬学	
	本当の十代の話をしよう	29
	高野生	
	「大地塾」での出会い	33
	黒岩秩子	
	「女だから……それがどーした!」	36
	——女子高校生の発言——	
	坂本ななえ	
	生きている小さな弥生田んぼ	38
	若竹キミイ	
	パレスチナについての夫婦の対話	41
	村田直文	
	(資料) 湾岸危機発生後の主な動き	46

連載

荒野のバラ 「雑草」という草はない	田中裕一	64
家族と家庭科		
「家族」から「家庭」への大転換 酒井はるみ		68
男性学への契機／魔男の宅急便	異化すハンド天国 諸橋泰樹	70
精田の夢 続・静謐ということについて	武田秀夫	72
あかきたな ウンコ・タイム	福田 緑・加藤由美子	74
買うて来て使う 菜切庖丁	山本謙吉	77
波 「立ち止まる子」の可能性	半田たつ子	78
○ひと 加藤由美子さん		40
・私のすすめの一冊	62	編集室からあなたに
・イキイキぐるうぶ	76	・今月の読書から
・わたくしからあなたに	83	・十字路
・編集後記	88	・アンテナ
		86

表紙／長野ヒデ子 季節のうた／仙田敬子  
 特集イラスト／降矢奈々

新しい家庭科を創るために

●小学校	子どもの現在にかみ合う家庭科を	村上邦彦	48
●中学校	少年・少女の現在にかみ合う家庭科を	森 陽子	52
●高等学校	まず授業を楽しむところから	蔵本佳子	57

# アンケート

## 私たちの現在いま

“10代の174人”は……

現在、日本でくらす少年・少女たち  
その素顔を浮かび上がらせたアンケート  
ご協力下さった方たちに、大きな声で

あ・り・が・と・う!

回答者のプロフィールは14・15頁に。この回答者ナンバーを、アンケートのお答えにのせました。背番号みたいでゴメン。スペースの関係で許してね。(編集部)



Q1 どんなとき、友達って  
イイなあって思う?

- ・ 楽しく遊んでいる時 4 7 8 10 11 18 22 23 33
- 35 44 49 52 54 55 80 82 104 122 124 144 147 149 153 162 166 171
- ・ 相談ののってくれた時 14 19 21 25 26 34 42 46
- 54 61 65 66 71 74 75 79 90 95 100 111 119 131 155 161
- ・ 困ってる時にやさしくしてくれる、頼れる
- 2 17 40 41 43 53 56 60 62 81 105 116 135 138 139 165 169 172
- ・ 悩みごとや話し相手になってくれる 27 30
- 68 70 72 84 92 96 99 102 105 126 145 146 151 160
- ・ たすけてもらった時 5 20 28 29 36 37 38 50 76
- 78 87 137 167 174
- ・ 一人でいるのがさびしい時 94 104 110 112 123 136
- 107 109 118 141 170

- ・ 悲しい時に励まし、おちこんでいる時 慰
- めてくれる時 31 57 64 69 77 106 114 115 163 168
- ・ おごってくれる時、プレゼントをくれた時
- 1 3 7 16 86 97 108 132 134 138
- ・ 一緒にの気持ちになって楽しい時 9 24 67 73 84
- 92 108 120 140 142 150
- ・ 知らないことを教えてくれた 85 88 89 93 154
- ・ 宿題やノートを写させてくれる時 15 83 156
- ・ 自分を特別に思ってくれると感じる時、好
- きだよと言ってくれた時 58 86 103
- ・ お金や物を貸してくれた時 39 117 125 148
- ・ 親に言いにくい相談をできた時 32 157
- ・ 一人ではできない時、協力する時 45 63 136
- ・ やさしく誠実な時 121 158 173
- ・ 本物の友情を感じた時 12 130 159
- ・ 自分のことを心配してくれた時 101 164

- ・ 親切にしてくれた時 48
- ・ 自分を見せられる相手がいるってこと
- ・ すぐく腹へった時、パンを一口食べさせて
- くれた時 6
- ・ 自分を待っていてくれたりする時 51
- ・ しつこく聞いてこない時 59
- ・ 気晴しがしたい時 107
- ・ 悪いことをする時 113
- ・ けちをつけれない時 127
- ・ 趣味が同じとわかった時 129
- ・ いったってイイもんさ 133
- ・ 学校生活の中で 152
- ・ なし 47

Q2 どんなとき、友達って  
イヤだなあって思う?



- ・ うらぎられた時 3 16 65 77 79 82 100 105 118 130 152
- ・ やくそくをやぶった時 5 32 44 66 129
- ・ ケンカした時 18 19 20 23 39 45 48 64 75 149 156 160 169
- ・ 自分勝手な行動 28 38 60 78 107 141 147 150 161
- ・ 悪口ばかり言う時 2 14 15 27 50 53 73 76 103
- ・ 悪口を言われたり、無視されたりする 26
- 41 42 49 55 74 143 145 154 166 168
- ・ 気にしていることを言われた時 25 46 62 67

- 71 105 120 142 163
- ごとくにひたりたい時うるさい 2 40 54 84
- 87 98 99 106 116 136
- まじめに話しているのにふざける 31 77 119 144
- 本人がいる時いない時で態度が違う 58 101
- しつこい時 10 59 109 155 165
- うっとうしい時 35 159 162
- ウソつかれた時 7 17 22 118
- 親しき仲にも礼儀ありを忘れた時 63 104 140
- 仲間はずれにされた時 8 123 134 164
- プライバシーに踏み込む時 24 61 81 88 94 138
- 自分の意見を押しつけ高圧的 86 170 172
- イヤ味を言われた時 102 148 174
- いじわるされた時 47 57 • 冷たい時 134 158
- こっちが信じていて、向うが信じてなかつた時、誤解された時 9 102
- あらぬ噂をながれさる時 56 92
- ずうずうしくて横から口を出す友達 52 127
- なにか競っていて負けた時 11
- 失ったり傷付く可能性を思い出した時 12
- 好きな人が同じ人の時 36
- 変なことを言ったりしてくる時 37
- あらゆる条件の中でイヤだと感じた時 1
- イヤがらせをする時 29
- 自分をバカにする時 51

- 心のさぐりあいをしてるなあと思う時 95 151
- 金を貸してくれない時 125
- 悩んだ時 105
- 秘密をバラされた時 139
- 自分の思うほどの人でないと思った時 103
- すぐく腹へった時、パンを一口食べさしてもらわなかった時 6
- 授業でねていて、善意で起こす時 83
- 理解してくれなかった時 72 79
- いじくらしい時 90 • らんぼう 43
- 自分は望んでいない時間をとられる時 96
- ちょっとしたこと怒る時 146
- まじめくさったやつ 167
- 自まん話をするやつ 97
- いたずらされた時 33
- だまくらかされた時 107 108
- パンリにされた時 112
- 自分がいない時他言された時 113
- イヤだと思うなら友達なんてやっつけない 110
- ない 21 30 34 68 70 80 85 93 106 115 124 126 133 153 157

Q 3 今まで、親に言われてうれしかったコトバ



- 「よくガンバッタなあ」 18 27 28 37 44 50 51 53
- 「おめでとー」 39 70 80
- 「やさしいねえ」 9 21 92
- 「すごいなあ」とか「えらい」とか 26 159 174
- 「成積上がったナ」 29 149 157
- 「大きくなったなあ」 38 79 82
- 「やればできる」 32 156
- 「一番の宝は子供」 74 168
- 「早くねなさい」 83 125
- 「あなたの自由に生きていいわよ」 86 112
- 「勝手にしなさい」「好きにしろ」 103 127
- 「母さんはあんたを信じてる」 14 104
- 「○○ちゃんがいると助かる」 145 153
- 「あんたは、ええ心もつとる」 20
- 「あなたという時が一番おちつくわ」 84
- 「才能がある」 172
- 「絵がうまいねえ」 114
- 「塾に行ってもいい」 151
- 「浪人してもいいよ」 138
- 「シューレに行ってもいい」 7
- 「受験料出してやる」 69
- 64 66 68 72 75 78 93 116 140 143 147 148 150 155 164 169 170 173
- 「ありがとー」 38 52 58 62 76 77 99 106 142 161 170 173
- 「今度はがんばれ!!」 36 100 109 135 154
- 「おこづかいあげよう」 6 59 89 108 129
- 「えらい!!」 95 98 121

- ・お菓子を作ったら「おいしい」と言った 19
- ・「お前は便利だねー」 113
- ・「無理をしなくてもいい」 138
- ・「しっかりしている」 137
- ・「どこか、あそびに行こう」 23
- ・「今日は外食だ！」 2
- ・「素直ないい子に育った」 71
- ・「親こうこう」 56 ・「かわいい」 54
- ・「しかってくれた時の言葉「あなたのためを思って」 40
- ・「中学三年間野球を続けて「ようやった」 65
- ・「あなたを生んでよかった」 67
- ・「あら、かたい子や」 87
- ・「ごはんですよ、いってらっしゃい、おかえりなさい」 101
- ・「大好きだよ」 105
- ・「ほめてくれることば 46 57 60 85 139 158 162 163 165
- ・「はげましのことばがうれしかった 42 81 106
- ・言葉ではない 73 134
- ・「幾つかあると思うが思い出せない 1 12 120
- ・「おぼえがない 22 25 35 96 115 131
- ・「ない 3 10 11 13 15 16 17 24 30 31 33 34 41 43 45 47
- ・「49 61 63 88 90 94 97 102 107 110 117 118 119 123 126 130 134 136 141
- ・「144 146 153 160
- ・「? 48 107 111 122

Q 4 今まで、親に言われて

頭にきたコトバ



- ・「たくさんありすぎてわからん 1 50 63 64 65
- ・「77 97 106 107 149 169
- ・「あほ」「バカ」「バカじゃない？」 16 26 40
- ・「49 100 119 121 134 135 159
- ・「○君のほうがあなたより」 31 38 139 143 155 165
- ・「勉強しなくてもいいの？」 19 27 78 90 101 137
- ・「成績悪いなあ」 47 153 161
- ・「頭が悪いんだから勉強しなさい」 163 170
- ・「勉強もしないで」を連発する 67 118
- ・「勉強せな、高校行けねんぞ」 29
- ・「勉強ばかりできてなんにもならん」 92
- ・「ちゃんと学校に行きなさい」 7
- ・「国立の大学へ行け」 139
- ・「絵なんか勉強して何になるの？」 114
- ・「こんなんじゃどこにも就職できんよ」 145
- ・「子供（高校生）のくせに」 24 72 98 130
- ・「うるせー、だまってろ」 109 129 142 150
- ・「この家から出てけ！」 25 136 154
- ・「お前には何を言ってもむだだ！」 36 39 66
- ・「お前は何考えとんか」 80 157 168
- ・「早く……しなさい！」 87 148 171
- ・「はよ、起きんかー」 69 83 125
- ・「やっぱり何してもとろいなあー」 34 116
- ・「ちゃっちゃっとしろ」 88
- ・「何してるの！」 99
- ・「もっとしっかりやれアホ」 37
- ・「ダメや」「ダメ」 95 105
- ・「うどの大木」 88 ・「役立たず」 76 105
- ・「そんなこともできないの」 51
- ・「どうしてこんな子に育ったのかねえ」 136
- ・「私の嫌いな人に似ている」 55
- ・「そんな子は家の子じゃない」 23
- ・「あなたは苦労も知らん」 74
- ・「あなたは本当にどうしようもない」 54
- ・「あなた、そんな事も知らないの？ 恥ずかしいわね」 12 ・「愛想つきたわ」 104
- ・「だからあなたは嫌われるんだよ」 103
- ・「もういい」とか「聞きたくない」 58
- ・「何を生意気な！」 59
- ・「親に向かって！」 90
- ・「お前は個人とと思っているかもしれないが、家族なんだ。お前の自由じゃない」 86
- ・「あんたんことやけ、またやったんやろ」 147
- ・「時間ルーズ」 22
- ・「いつもいい加減なんだから」 62 71 96
- ・「性格悪い、自分勝手、わがまま」 79

- ・「やればできるんやから」 61
- ・「がまんするしかない」 127
- ・「それでも女の子なんねえ！」 163
- ・「背が伸びないわネエ」 122
- ・「足が太い」 106 ・「バカ、チビ」 108
- ・「ふとってきたんとちがう？」 75
- ・「整形してホクロをとったら」 82
- ・「いちいち口をはさむな！」 52
- ・親の虚栄心からの言葉 123
- ・自分の好きなものにケチをつける 120 162
- ・悪くないのにおこられること 46
- ・自分勝手 53
- ・何回もしつこく言うコトバ 172
- ・人間的に欠陥があると言われた時 130
- ・気にしていることを言われた時 20
- ・ことばというか、信じてくれない時 22
- ・家で無視された時 18
- ・自分の言ったことが伝わらなかった時 5
- ・兄妹でえこひいきされた時 3
- ・？ 48 81 107 111 113 151
- ・全て言い返すから無い 112
- ・きおくにない・忘れた 8 9 35 60 85 93
- ・ない 6 11 13 14 15 17 21 30 33 41 42 43 44 45 50 56
- 57 70 73 84 89 94 102 110 115 117 126 133 138 140 141 146 152 158 160
- 164 166 173

Q 5

今まで、先生に言われ  
てうれしかったコトバ



- ・「よくがんばったな」 4 15 18 21 33 36 50 51 59
- 64 66 70 71 72 77 78 81 82 86 95 96 101 104 105 129 151 154 156
- 159 160 162 163 173
- ・「がんばればできる」 32 52 62 80
- ・「よくやった」 125 135 137 ・「えらい」 111 121 171
- ・「ありがとう」 55 109 149 ・「おめでとう」 75 76 99
- ・「成績あがったな」 98 170
- ・「君ならできる」 97 100
- ・「いやあ、いい子ですよおー」 84 114
- ・「頭いいね！」 6 ・「よかったな」 39
- ・「期待している」 53 ・「やるやんけ！」 69
- ・「あなたには文才がある」 54
- ・「かわいくなった」 22
- ・「まあまあかな」（成績がよかった時） 93
- ・「コソコソ努力するタイプやね」 92
- ・「人の痛みがわかる人だね」 106
- ・「誠実な人間」 113
- ・「卒業したら肉おごったるぞ」 65
- ・「今度一緒にマラソンせえへんか」 67
- ・「今日は自習です」 108
- ・「かほうはねてまで」 127

Q 6 今まで、先生に言われて

頭にきたコトバ



- ・「おつかれさま」 74 148 ・「やさしいね」 172
- ・「すごいなあ」 150 ・「考え方が大人やね」 168
- ・「君が中心になってこの組をひっぱってや  
らな」 152 ・「励ましのことば」 143
- ・何でもほめられたらうれしい 40 46 60 118 138
- ・何にも言われないのが一番うれしい 89
- ・そんなことあったかも知れんが覚えてない  
12 25 26 42 48 107 120 ・あるわけない 136
- ない 1 2 3 5 7 8 10 11 13 14 16 17 19 20 23 24
- 27 28 29 30 31 34 35 37 38 41 43 44 45 47 49 56 57 58 61
- 63 68 73 83 85 87 88 90 94 102 106 110 112 115 117 123 126 131 133
- 134 139 140 141 144 145 146 153 155 157 158 164 165 166 169
- ・「馬鹿だねえ」 4 13 104 119 121 129 134 145 155
- ・「なんでこんなことがわから(でき)ないの  
か、それぐらい常識だ」 14 51 89 99 151 156 171
- ・「頭わるいね！」 6 127
- ・人を見下す言葉と顔 123 164
- ・「この字読めないよ」「お前字が汚ねえな  
ー」 108 109
- ・「うるさい！」「だまっとき！」 80 150
- ・「なんで学校にこないんだ」 7

- ・「お前らしんけんにしとんのか？」 22
- ・「やる気あんのか？」 52 64
- ・「もうちょっとしっかりやれ」 27 101
- ・「お前何せつとんのね！ アホやな」 29
- ・「何回みんなに迷惑かけたら気がすむのか」 163
- ・「200字！」（書けよって意味） 8
- ・「お前がわるい」 39
- ・「お前の目は輝きがないのう」 41
- ・「お前らみたいなの相手なんか、好きでしてらんじゃない」 54
- ・「お前はこのクラスでワースト3」 65
- ・「アホな奴はとことん落ちるところまで落ちればいい！」 67
- ・「学校やめてまえ！」 69
- ・「お前、なんや！」 みたいな言葉 74
- ・「立ち直らせてみせますから」 75
- ・「何をしてるんや！」 76 95
- ・「入試の前日「落ちる、落ちる」と連発」 77
- ・「無理だらうけど、受けてみるのもいいんじゃない」（小学校の時、中学受験で） 104
- ・「喜ぶのは90点とってから！」 148
- ・「自分で考えないで、人と同じにするからだ」 62
- ・「静かにしろ！」 66 154
- ・「お前はチャラチャラしている」 79
- ・「もっと自分のことを考えてみなさい」 81 105
- ・「大学行ったら思う存分遊べるよ」 82

- ・「はあーい〇〇君、ねないでね」（授業中、皆の前で） 83
- ・「ねるな！」 138
- ・「悩みごと、あまりないように見える」 84
- ・「お前の母親はまちがっている」 86
- ・「友達がいらないんじゃないかな」 88
- ・「無理でしょう」 92
- ・「常識ないんじゃないか？」 97
- ・「だら」 100
- ・「お前ら、貴様ら」 131
- ・「君は先生をおとし入れようとしたのかい？」（全然悪気がなかったのに） 106
- ・「おかしい人やね」 108
- ・「子供らしくない」 130
- ・「はあ？」 ちっともわからん 159
- ・「ようちなことをやりなさんな」 174
- ・卒業証明書を発行してもらいに学校に行った時「あなたの家族は公共の教育にアイソつかしたから来なかつたんでしょう？」と関係ない先生にインネンつけられた 12
- ・目の覚めるようなギャグに怒った 87
- ・星の教ほであるのでここにかくことはふかのう 2 5 10 44 63 94 133 153
- ・教師は教師、教師の言うことを気になけない。頭にくることを言われたら、一瞬は怒るが、その人をあわれんでしまう 103
- ・先生のやつあたり 118
- ・いちいちうるさい 143 153

- ・どつちかというと、私の方がそういう言葉を先生になげつけていた 9
  - ・自分一人だけが悪いように言う時 170
  - ・ことばより暴力をつかうこと 24 167
  - ・ひいきする先生はイヤだ 72
  - ・やってもないのに、やったという 32 37
  - ・言葉ではないが無視された 152
  - ・気にしていることを言われた時 20
  - ・同じことを何回も言うこと（説教） 40
  - ・ちゃんとしているのに、ちゃんとしろと言われた時 18 172
  - ・冷たい言葉 42
  - ・怒られた時の言葉 16
  - ・うそばかり言ったり、自分はいらいと思
  - ・い込み、生徒に命令する 46 162
  - ・？ 48 113
  - ・記憶にない 25 26 93 96 107 120
  - ・特になし 1 3 11 15 17 19 21 23 28 30 31 33 34 35
  - 36 38 43 45 47 49 50 53 55 56 57 58 60 61 68 70 71 73 78
  - 98 102 107 110 112 115 116 117 126 137 138 139 140 141 146 149 157 158 160
  - 165 166 169 173
- Q 7 女(男)に生まれてよかったと思う？ それとも男(女)に生まれてよかった？
- ★女子
- ・女に生まれてよかった 14 17 21 22 24 26 28 32



34 36 38 40 42 46 50 62 64 70 75 76 79 80 81 84 86 90 92  
 98 99 104 105 106 108 110 114 116 120 122 124 126 128 130 134 141 147 149  
 151 155 157 165 169 170 172

・男に生まれたかった 1 3 48 54 55 58 71 77 88  
 94 96 101 102 118 139 143 145 153 163 168 171  
 ・女でよかったが、男に生まれたかった 19  
 36 57 66 72 73 74

・女に生まれてよかったと思うのは、ガキを生めること、でも男でもよかった 12  
 ・男に生まれたかった。その方がもう少し幸福だったかも。女である自分は大嫌い 13  
 ・よかったって思わずにはやりきれないものがあるが、男に生まれたかった 82  
 ・よかったと思う時思わない時あり 68 100 159  
 ・どっちでもない 4 30 60 112 161  
 ・わからない 107

★男子  
 ・男に生まれてよかった 2 5 6 8 10 11 15 16  
 18 20 23 25 27 29 31 33 35 39 41 43 44 45 47 49 52 53 59  
 61 63 65 67 69 78 83 91 93 95 97 105 107 109 111 115 117 119 121  
 123 125 127 129 131 135 137 138 140 142 146 148 152 154 156 158 160 162 164  
 166 174

・男でよかったが、女にもなってみたくない 113  
 ・女になってみなければ何とも言えない 85  
 ・特に考えたことはないが、女には生まれて

みたかった 7 ・思わない 87 150  
 ・どっちでもいい、時によって違う 9 89  
 ・別に何も思わない 37 51  
 ・好きな時に選べたらよい 136



Q 8 それは何故？

★女子

〈女でよかった〉  
 ・女の子だからってのがえられることが多いから 46 57 64 108 114 120 130  
 ・なんとなく 17 24 134 165 167 169  
 ・今のままで十分満足 28 63 84 92  
 ・昔は女子は何も参加できなかったの今は何でも参加できるから 42 62 99 105  
 ・女でよかったと思うことが沢山 26 86 157  
 ・女にしかできないことがたくさんあると思

うから 14 98 151  
 ・子どもを産めるから 75 80 106  
 ・男の人より世間に出てくから 21 83 147  
 ・家族を養わなくてすむ 106 155 170  
 ・「女の子だから」ってやさしくしてもらえ

る 32 36 57 79  
 ・現代の女性のぎゃくくたいに対抗するチャン

ス 81

・住めば都(男に生まれても同じ) 104  
 ・男のほうが流れに流される 106  
 ・家事をしながら社会で働ける 70  
 ・おしゃれが楽しめる 66  
 ・女の幸せを感じてみたいから 76  
 ・カッコイイ男の子を好きになれるから  
 ・ミーハーが許される 122  
 ・男にはなんか足りない気がする 50  
 ・どちらでも性別にあったよい面がある 128  
 ・ホモになりたくない 110  
 ・人それぞれ 106 ・別に 34 141 ・秘密！ 48  
 〈女なんてイヤ、男のほうがいい〉  
 ・男はともかく男の子の持つる世界の方が  
 女の子の世界よりも素敵だと思うから 12  
 44 73 78 102 118 139 143  
 ・性格がサッパリしているから 56 71 74 145  
 ・男の子は元気に遊べてけんがができる 163  
 168 171

・今、恋愛に対して困っていることが全部なくなる。男尊女卑をふりかざせる。妊娠および子供を産まなくてすむ 13 149  
 ・生理があるし、子供にかんして大変な面が多いと思うから女はヤだ！ 1 3  
 ・夜道がこわくない 男物の服装が好き 55  
 ・兄のいる弟になりたかった 58

- ・仕事でバリバリ働けるから 77
- ・損ばかり。男のほうが可能が大 82 96 101
- ・これから先の人生が不安定 94
- ・男なら美少年になるのに、女だと並みだから 54・どっちもそんなとくがある 4 100
- ・「女の子でしょ！」聞きあきた言葉 88
- ・男の子みたいに授業中さわげない 153
- ・礼儀正しくなくてもいいから 160
- 〈男でも、女でもいい、いや〉
- ・女に生まれたのでおしゃれができる。男に生まれていたら野球ができる 19 159
- ・今更変えられないし、最終的には自分のが ンぱり次第だから 60
- ・どちらでもメリット、デメリットあり 68 161
- ・結婚して幸せになりたいし、仕事をバリバリしたい 72
- ・いやなことばかりだから 37
- ・別に 51・わからない 107

★男子

〈男でよかった〉

- ・いいことが沢山ある(できる) 27 140 156 158 162
- ・信じるものがあれば、無限パワーをはっきできる。男のほうが自由 2 127 146 148
- ・男のほうが気楽だから 5 41 109 111

- ・いろいろなスポーツができる 65 154
- ・体力があるから 166 174
- ・走ることが好き、スピード感 133
- ・今、男だから、男の生活になじんだから 25 135 156
- ・考えないから、今の自分に満足 9 138
- ・心おきなく仕事にうちこめる 93 95
- ・ケンカができる 16 61
- ・すいじ、洗たくをしなくてよいから 29 35
- ・親がうるさくないから 138
- ・周りの視線を気にせず生きられる 123
- ・化粧しなくていい 125
- ・おなががいたくならない 11
- ・女はいろいろめんどうくない 69
- ・夜遊びができる 119
- ・えらいから 121
- ・女に生まれてブスだと処置なし、今、いい せんいつてるから 152
- ・男でいて、それなりに楽しいと思うから、でも女も面白そう 8
- ・平気でおならとかできる 67
- ・秘密 115 137・ウッシッシッシ 131
- ・女の子だったたら、朝学校でロッカーの所で まっとなあかんから 59
- ・どっちともそんなとくがある 4 47

- ・生きている以上、それで満足 20
- ・別に 18 33 43 49 53
- ・なんとなく 15 31 39 45 107 113 164
- 〈女でもよかった〉
- ・女の生活(人生)も体験したい 7
- ・どっちもいいから 136
- 〈男でよかったと思わない〉
- ・たいてい不自由とは思わない 87
- ・時によってちがう 89・わかんない 6

Q9 「世の中間達っている」と思ふこと



- ・むいみな戦争をすること 1 7 15 16 17 18 19
- 22 23 26 40 42 43 47 50 54 55 59 64 72 75 76 77 79 80 110
- 120 122 134 137 138 139 143 147 156 161 166 171
- ・イラクのフセイン体制 89 97 118 124 138
- ・90億ドル出さなければいけないこと 35 152
- ・自衛隊の存在、派兵 53 148
- ・核兵器、原子力発電所 7 111 154
- ・他国に金を出し日本の困っている人を救わない 159
- ・日本の物価が高い!! 3 7 10 11
- ・政治家のおしよく、政治が悪い 7 71 93 137
- ・自民党政権が続きすぎること 54 104

- ・言論の自由が空洞化している 58
- ・細かいこと言えばきりが無いが、まず「国体」(国民体育大会じゃ無いよ) 8
- ・消費税が強行採決され、それをくつがえすのは代案が必要なこと 9 55
- ・税金を無駄にしている 163
- ・人間性がへんな方向に発達した 12
- ・豊田商事のように老人に悪いことをする 74
- ・お金が万能の世の中 78 160
- ・石川県知事が8選になったこと 81
- ・大人だけに選挙権がある 170
- ・有能な女には損で、無能な男には得なようにできている 101
- ・男は強く、女は弱いという考え 90
- ・男は仕事、女は家庭 70
- ・女性が働くことに対して、政府が批判的なこと、同様に對して世間の目が冷いこと 102
- ・男らしさ、女らしさでなく人間らしさを 106
- ・人種差別、色々な差別 25 56 60 68 72 79 151 156 158
- ・人の生命の大切さがわかっていない 168
- ・自然破壊 38 79 164 171
- ・平気で人殺しができること 106 172
- ・暴力団の存在 116
- ・古いものを大切にしない 162
- ・金がすべての世の中 133 140 150

- ・いじめや争いがあること!! 149 153
- ・日本人が必死で英会話を覚えること 119
- ・大学の授業料が高すぎる 114
- ・学歴社会、偏見、すべて大人社会に共通するいやらしさ、身勝手さ 82 92 130 133
- ・受験戦争、日本の教育制度 55 57 61 107 155
- ・子どもを勉強、勉強でしぼりつける 46 88
- ・学力だけで判断されること 21 41 67 157
- ・やる気のない人が先生になる 57
- ・能力のない奴がいっぱっている 92
- ・努力しても報われないことがある 95
- ・富んでいる国、貧しい国がある 96
- ・人のなりふりをけなしたりして笑うこと 100
- ・言いたいことが本気で言えない 105
- ・人間らしい生き方ができない 109
- ・正しいことが一つじゃない 99
- ・オバタリアンがわが物顔に町を歩いていること 94
- ・人をバカにする奴がのさばって、一生懸命生きてる人がソンのする 86 123
- ・一人の人間が何も悪いことをしていないのに周りの状況で加害者になる世の中 13
- ・理想と現実のギャップ 127
- ・銭湯に男湯女湯しかないこと 132
- ・バイトの時給が高校生というだけで低い 108

- ・勝負に負けた時 129
  - ・暴力によって解決すること 44
  - ・運動クラブの封建性 55
  - ・俺に彼女おらん 69
  - ・大人はよくて小人はいけない時 49 62
  - ・自分の思い通りにいかない時 49
  - ・子どものことを信じてもらえない 14
  - ・何かすると、子どもでしょーと言われる 32
  - ・アッシー君、ナッシー君の存在 66
  - ・私がおこにしていること 130
  - ・芥川賞 55
  - ・世界各国の言葉が違うこと 52
  - ・ありすぎる 4 112 135・全部 5 63 65 98 115 131
  - ・アンケート用紙に再生紙を使わないこと 2
  - ・変なことがおこった時 37
  - ・いっぱいあるけど秘密!! 48
  - ・別に 36 84
  - ・考えたことがない 126
  - ・わからない 20 30 39 85 165 169
  - ・特別なない 24 29 31 33 34 45 87 113
- Q 10 今、何をしても許されるとしたら、何をしたい？
- ・フセインとブッシュを減す 54 88
  - ・フセインとブッシュにけりを入れる 114



- ・フセインを殺す 75 97
- ・ブッシュを殺しホワイトハウスに住む 81 88
- ・フセインと友達になる 77 106
- ・首相や大臣を暗殺したい 160
- ・地球を一生なくさない 145
- ・日本の政治を改革したい 137
- ・海部総理に会いたい 106
- ・渡辺美智雄を無人島に流し、私は中国に旅行 55
- ・世界の指導者を殺す 4
- ・世界をせいふくする、自分が世界をあやつり、平和にする 7 39 76 156
- ・防衛大に体験入学し、パトリオットでミサイルを実際うってみたい 104
- ・原爆を投下してみたい 47
- ・人類を皆殺しにする 6
- ・人殺し、強盗 6 127 147
- ・腹立つ奴の顔をどつきたい 80
- ・一番憎い奴を殺し、とりあえず何億の金を銀行強盗する 3
- ・銀行強盗 18 64 77 79 110 119
- ・法にふれる犯罪をめいっばいやる 1 138
- ・放火 2
- ・火器の保持 61
- ・規則を破りながら生活したい 70
- ・ほしいものを全部引き取る 9 44 60 152
- ・ぜいたく 129 150
- ・お金がほしい 23 149
- ・好きなだけ金をつかって遊ぶ 20 25 157
- ・お金を払わずに自由に遊びたい 126
- ・いっばいふくをかいたたい 34
- ・今持っている欲求をすべて満たす 63 65
- ・結婚 67 72
- ・かわいい女をおそう 10
- ・女の子を……！ やめとこう。山ほどあるぞ。そうだ！ 世界せいふく・それから死んでみたい。でも生き返れなきやいや 8
- ・その場のひらめき 106
- ・高校一年生にもどりたたい 107
- ・過去にもどつていろんなことをやり直す 147
- ・ぐっすり眠りたい 83 87 89 98 102 103 107 123 130
- ・遊びほうけたい 93 95 102 134 135 138 139 161 164 168 170
- ・バイクに乗りたたい・あばれたたい 16 122 162
- ・ホラーの出演者になつて人を追っかける 108
- ・透明人間にならたたい 113
- ・一日だけどつかの国の王様にならたたい 116
- ・飛行機の運転 121
- ・一度出したハミガキ粉をチューブにつめ直す 132
- ・アズマイーストに乗つて東京競馬場をかけること 124
- ・国会図書館ののっとり 115
- ・日本の国家予算をもらう 112
- ・好きな人には好き、嫌いな人には嫌い、はつきり言いたたい 105 140
- ・人の心をつかむこと、苦勞せず誰からも受け入れられる人になる手段がほしい 86
- ・テレビを見る、読書、遊ぶ 87
- ・東京に行きたたい、そして一人ぐらしをして先パイに会いたたい 90
- ・一人で遠くに行きたたい。新しい出会いがほしい 92 146
- ・やりたい研究のための勉強がしたたい 101
- ・学校を貸し切りにして暴れたい 14
- ・学校の窓ガラスを全部割つてみたたい 31 152
- ・みんなも嫌つてゐる先生をなぐる 49 153
- ・まず先生に不満をぶちまけたたい！ 41
- ・制服を私服にして学校にお菓子を持つてきて、バイクで通学したたい 163
- ・学校でお菓子を食へたたい 167
- ・受験せず高校に行きたたい 42
- ・志望大学に合格したたい 57 71
- ・専門学校じゃなく大学入試をしてみたたい 62
- ・留学 81 159
- ・ドイツニールランドを貸切る 57
- ・たくさんの動物を飼つて一日中遊ぶ 56
- ・ほけん所の犬をみんなにがす、原子力発電所をとめる。ほしい物をもらう 4
- ・したい事だけをして生活してみたたい 58 73

- ・とりあえず何でもやってみる 131
- ・おいしい物を食べたり、買い物したい 100
- ・スカイダイビング 99
- ・好きなアーティストのライブに行きまくる 48 64
- ・都庁をぶっこわす 111
- ・東京都庁のてっぺんから、ロープを伝って地上までのロープクライムダウンするか、さんそボンベと安全綱つけて、国際線のひこーぎの翼の上から世界鑑賞したい 12
- ・美空ひばりの豪邸をのぞく 66
- ・人の心をのぞく 68
- ・宇宙旅行 99
- ・海外に行きまくる 74 154
- ・旅行 85 100 102 109 120 151 ・山を買う 69
- ・誰かから許しを得てやるなんて無意味 82
- ・何もしたくない 91 94 ・何でもいい 125
- ・別になし 78 118 133 155 158 166 169 172 173
- ・わかりません 96 165

Q11 あなたの夢はなんですか？



- ・一国の指導者大統領 8 119 137
- ・歴史に名を残す位有名になること 87
- ・世界征服・宇宙征服 54 97 117 124
- ・自由な国になること 174
- ・航空会社のグランドホステス 22 60 153
- ・パイロットになること 2 108 117
- ・ラジコンのメカニックマンになること 5
- ・プロサッカーの選手 154
- ・野球選手 7 40 152 ・お笑いの人 154
- ・プログラマー 11
- ・ニュースキャスター 19 42
- ・アニメーターになること 30
- ・スポーツ選手 33
- ・保母さん 34 74 75 143 153 157
- ・調理士・料理人 23 53 72
- ・看護婦になって人助けをする 159
- ・インテリア関係につとめること 64
- ・数式を完全にマスターする 9
- ・報道関係の仕事 101
- ・通訳、世界の中の人って感じの 46
- ・英語かんけいの仕事につく 50
- ・声優の仕事をする 58
- ・教師 116 156 160 172
- ・小学校の教師が、一流会社の社長 149
- ・世の中のしくみをすべて理解する 158
- ・色々な物事を学び・知って楽しむ 96
- ・世界のマフィアのドンになる 110
- ・サダムフセインと組み天皇・北尾組をやっつける 132
- ・世界の遺跡発掘 61 見て歩く 98
- ・世界中平和に互いに認め合ってくらす 106
- ・勇気ある人間になること 95
- ・どきどきときめいた幸せな一生 86
- ・不安のない人生を送る 94
- ・強い魔法使いになること 136
- ・音楽関係の仕事 66
- ・セントラルパークでコンサートを開く 93
- ・バンドを組んで有名な歌手になる 138
- ・医者になって無医村に行く 102
- ・生命工学・宇宙物理学を学ぶ 101
- ・科学者 127 研究する人 35
- ・いろいろな資格をとること 56
- ・まんが家と歯科衛生士 62
- ・夢がなんでもかなう人になる 112
- ・趣味と実益をかねた職業をもつてくらす 114
- ・カナダに少しの間住む 118
- ・エッセイスト 73 印税生活を送る 129
- ・新発明をしたい 131
- ・宇宙のなぞを解明する 109
- ・宇宙旅行 14 101 171 ・世界旅行 15 26 49 173

- ・放浪者になること 103
- ・友達と旅行したい 17 36 40 44
- ・日本一周 15
- ・アフリカの奥地へ行き冒険する 145
- ・海に囲まれた島で自由にくらす 146
- ・ツアーコンダクター 24
- ・海外をとびまわること 77
- ・勉強を忘れ遊びまくる 27 28 29 30 32 33 46 51
- 52 53
- ・大学に行きたい 69
- ・志望大学に入ってDJになる 147
- ・幸せになればそれでいい 63
- ・好きなお菓子とか食べまくる 50
- ・玉のこしにのること 57
- ・大金持ち 47 134 138 148
- ・広い土地を持ちたい 31
- ・動物たちとすごす 29
- ・良い結果のテストを片手に熟睡する 83
- ・警察官 37
- ・今習っている格闘技をいかし刑事になる 18
- ・C・W・ニコルさんのようになりたい 115
- ・好きな人と両思いがずーっと続くこと 163
- ・好きな人と結婚すること 21 22 36 76 101
- ・おとうさん 113
- ・やさしいお母さんになりたい 15 143

- ・土井たか子さんのようになりたい 104
- ・一人前の女性として世の中で役立つような人になりたい 70
- ・仕事と家庭を両立したい 71
- ・テレビドラマのようにかっこいいキャリアウーマンになること 80 100
- ・あたたかい My house をもつこと 67 120
- 133 168
- ・早く結婚して親の面倒をみる 84
- ・自立して母親と旅行すること 92
- ・ランボルギーニカウンタックに乗る 10
- ・バイクに乗りたいたい、あばれたいたい 16 44 162
- ・車にのりたいたい 43 162
- ・お父さんのあとをつぐこと 20
- ・自分のやりたいことを生かせることのできる仕事につきたい 32 52
- ・仕事につければ何でもよい 38 126
- ・某職業 81
- ・喫茶店を開くこと 65
- ・研究者になり、北海道に住む 123
- ・人類のためになるようなものを作る 39
- ・バカな人類を皆殺しにする 6
- ・自分の探しているもの全部手に入れて、至上の幸福の内に納得して死ぬこと 12
- ・自由になりたい 幸せになりたい 好きな人から愛されたいたい 13 27

- ・好きなことをする 37
  - ・生きること 28
  - ・社会人 40
  - ・美空ひばりの豪邸をのぞく 66
  - ・てきとーに遊んで苦しまずに死ぬ 1 88 105
  - ・ふつうの人がいい 165
  - ・お金を気にせず遊ぶだけ遊んで、ねたくなつたらねて、死ぬこと 3
  - ・70歳まで生きたい 78
  - ・あと80年生きることに 125
  - ・いろいろ 35 135
  - ・夢をもつこと 82 91
  - ・思いつかない 26
  - ・わからない 45 130
  - ・まだきまっていない 164 167
  - ・あるけど言いたくない 85 90
  - ・教わるわきゃねーだろ、ばか！ 121
  - ・何もしたくない 21
  - ・ないしょ 106
  - ?! 48 107
  - ・特にない 4 11 24 25 41 45 51 107 139 165 170
- Q 12 あなたにとって「現在」とは？
- ・夢にむかって走っている途中 22 120 133
  - ・将来への希望にみらあふれている 80
  - ・将来の目標へのステップ 81 87
  - ・意識する必要もない自然的世界 103 110



- ・「生きる」ということの答えを見つけた  
めの過程 63
- ・明日へのステップ 93 131
- ・人生の初期段階 94 113
- ・過去と未来の相違を認識して、漸進する空間 97
- ・私自身である時 99
- ・子供として過ごせる二度とない時期 138
- ・立ちどまって「自分」や「世の中」「社会」を見つめる時 106
- ・大人になるまでの訓練期間 51 69 82 92 101 153
- ・ずっと続いてほしい時 115
- ・なんでも好きなことができる時 122
- ・努力しつづけること 127
- ・一日一日を充実して過ごす 14 71 72 77
- ・けっこう楽しく幸せ 4 17 18 33 34 38 52 75 152
- ・美しい 84 ・自由 27
- ・若く、楽しくもあること 135 170
- ・生きている 28 44 50 65 125
- ・恋です 36 167 ・青春 40 67 156
- ・すごく幸せだけど、人が傷つけあうとつまらない 42
- ・いい時、大事な時期 19 59 62 78 79 100 116 139 149
- ・可能性 58 161
- ・今を正しく生きること 172
- ・友達と仲よく楽しく過ごす 151
- ・いま自分がここに存在すること 88 90 108
- ・未来でも過去でもないもの 6 91 112 138
- ・まあまあ楽しい、すごしやすい 64
- ・とてもすばらしい生き方をしてる 70
- ・全力をもって生きること 76
- ・ピチピチぎやる、ふふふっつ 66
- ・「現在」とは「現在」さ♥ 1 89 106 130 165
- ・人生の一部 2 145 153
- ・歴史の中の一秒 150
- ・オゾン層のハカイ、森林のハカイなど騒いでいる中、たくましく生きるでしょう 3
- ・機械などが発達している 146 159
- ・輪廻の一時期 123 ・転かんき 9
- ・ふつう 5 ・平凡にすごすこと 73
- ・もどってこないもの 124
- ・バイトして遊んでいる 74
- ・後になって「過去」になるもの 8
- ・be singingで表せるもの 129
- ・おさなりにしてかまってあげてないもの 55
- ・平成三年の日本 29 35
- ・いつのまにか過ぎ去るもの 96
- ・ちょうどいい湯加減のお風呂 104
- ・高校生 107 134
- ・親に勉強勉強といわれて少し苦しい 21 31
- ・勉強ばかりでつらい、あつという間に過ぎていく 32 46 137 154
- ・三年生に向けて勉強 45
- ・勉強というつけものの中 51
- ・遊びに行ったり、家にいたりして楽しむこと 56 136
- ・睡魔とのたたかい 83 ・暗やみ 109
- ・忘却であり、記憶である 54
- ・見えないもの 60
- ・地獄・ 10 111 霧の中のガケつぶち 114
- ・こまったもんだ…… 11
- ・未来永却死ねまで続くもの 12
- ・ストレス、不自由、緊迫 13 26
- ・とてもいそがしい、つかれる 15 30 39 105
- ・難しいこと 95 ・不可解なもの 85
- ・大学へ行くための苦しい生活 102
- ・つまらない日々の連続 57 61 98 118 155 162 168
- ・正しいことが通らない 106
- ・底なし沼に吸いこまれるような時 160
- ・戦争、非常に乱れている 119 148
- ・アンケートに頭をしぼっている時 56
- ・超ハイパー、ウルトラワカらない 86
- ・何でもない 47 ・考えたことがない 25 37
- ・わからん、?! 16 43 48 53 68 107 157 164 169
- ・ないのよ 121 173

回答者No	年齢	性別	回答者名 (ニックネーム可)	都道府県	回答者No	年齢	性別	回答者名 (ニックネーム可)	都道府県
87	17	男	?	石川	132	18	女	ジークジオン	東京
88	17	女	ORANGE CRUSH	〃	133	18	男	細貝和義	〃
89	17	男	私はふざけていない	〃	134	18	男	S. N.	〃
90	17	女	アリッサ	〃	135	18	男	G. N.	〃
91	17	男	ニックネーム可	〃	136	18	男	弾條	〃
92	17	女	time-3	〃	137	18	男	趙子龍	〃
93	17	男	レノン	〃	138	12	男	BAD TOY	福岡
94	17	女	?	〃	139	?	女	うっちゃん	〃
95	17	男	つらい	〃	140	12	男	ミッキー	〃
96	17	女	まゆみ	〃	141	?	女	M. Y.	〃
97	17	男	ハビット	〃	142	13	男	竹かん	〃
98	17	女	?	〃	143	13	女	M. N.	〃
99	17	女	?	〃	144	13	男	?	〃
100	17	女	?	〃	145	13	女	みけ	〃
101	17	女	野里子	〃	146	13	男	ナイト オブ ゴールド アンド レッド ミラージュ	〃
102	17	女	中村穂波	〃	147	13	女	?	〃
103	17	女	あやめ	〃	148	13	男	とんも	〃
104	17	女	?	東京	149	13	女	あっこちゃん	〃
105	17	男	鈴木拓	〃	150	13	男	かっちゃん	〃
106	18	女	岸田今日子	〃	151	13	女	はるちゃん	〃
107	?	男	?	〃	152	13	男	モテル市長	〃
108	18	女	西村のぞみ	〃	153	13	女	ふつーの女の子	〃
109	18	男	H. H.	〃	154	?	男	ひー君	〃
110	18	女	辺見マリ	〃	155	13	女	Q P	〃
111	18	男	アラアクバル	〃	156	13	男	くわクワえいじ	〃
112	18	女	中村ザトウクジラ	〃	157	13	女	おはちゃん	〃
113	18	男	つれづれなる奴	〃	158	13	男	出口大樹	〃
114	?	女	5・10・7	〃	159	13	女	Y	〃
115	18	男	?	〃	160	13	男	T. M.	〃
116	18	女	Arre	〃	161	13	女	ふくちゃん	〃
117	18	男	?	〃	162	13	男	ヤクモ	〃
118	?	女	dog	〃	163	13	女	Y. T.	〃
119	?	男	とーむ	〃	164	?	男	?	〃
120	18	女	グッピー	〃	165	13	女	おさと	〃
121	18	男	秋川市引田の清ちゃん	〃	166	?	男	こうじ	〃
122	18	女	丸山浩子	〃	167	13	女	真理加	〃
123	18	男	パビゴン	〃	168	13	女	Y. N.	〃
124	18	女	ジュリー・クローン	〃	169	13	女	F. M.	〃
125	18	男	ケン	〃	170	?	女	J. M.	〃
126	18	女	カールちゃん	〃	171	13	女	A. K.	〃
127	18	男	中核派	〃	172	13	女	N. F.	〃
128	18	女	?	〃	173	13	女	M. T.	〃
129	18	女	鮫歳	〃	174	14	男	くそぶたくぼろはなつぶれ	〃
130	18	女	かめりろ	〃					
131	18	男	腹へった	〃					

# “10代の174人”

## 回答者一覧

回答者No	年齢	性別	回答者名 (ニックネーム可)	都道府県	回答者No	年齢	性別	回答者名 (ニックネーム可)	都道府県
1	14	女	多江子	千葉	44	14	女	H. Y.	三重
2	14	男	アルベルトフジモリパン?		45	14	男	松井智和	〃
3	14	女	君波梢	千葉	46	14	女	リバーズ	〃
4	15	女	永田麻衣子	神奈川	47	14	男	M. F.	〃
5	15	男	堀内武明	千葉	48	14	女	Yuki	〃
6	15	男	奥地暁生	〃	49	14	男	お伝	〃
7	16	男	柴田誠	東京	50	?	女	ユウちゃん	〃
8	16	男	中沢	千葉	51	14	男	チーヤン	〃
9	17	男	曲豆田上	東京	52	14	男	マツチャン	〃
10	17	男	サダムフセイン	〃	53	14	男	山本政信	〃
11	17	男	ゼナ男	?	54	17	女	悟空貴神様	大阪
12	19	女	てやんでい	千葉	55	17	女	越弥假米	〃
13	19	女	鱈子	神奈川	56	17	女	KAWA	〃
14	13	女	さちこ	三重	57	17	女	瀬川るり	〃
15	13	男	川合宏和	〃	58	17	女	Mikan	〃
16	13	男	石村ゆうじ	〃	59	18	男	カワチのコロッケ	〃
17	14	女	㊦	〃	60	18	女	?	〃
18	14	男	ウッキー山田太郎	〃	61	18	男	フージー	〃
19	14	女	せーたかのっぼ	〃	62	18	女	とくめい希望の18歳	〃
20	14	男	ひさFREX	〃	63	18	男	THE HEART LAND	〃
21	14	女	リンダ	〃	64	18	女	彼氏のいない彼女	〃
22	14	女	えりchan	〃	65	18	男	F. O. ハマー	〃
23	14	男	ランコ	〃	66	18	女	和己の女	〃
24	14	女	BAKU命	〃	67	18	男	海太郎	〃
25	14	男	T. A.	〃	68	18	女	パビヨン	〃
26	14	女	りかしちゃん	〃	69	18	男	おさるさん大好き!	〃
27	14	男	ジュンスカ	〃	70	18	女	まじめな私より	〃
28	14	女	チューリップCHAN	〃	71	18	女	THUYOSI	〃
29	14	男	中津文彰	〃	72	18	女	ミル太郎	〃
30	14	女	倉光幸子	〃	73	18	女	さとこ	〃
31	14	男	北村智樹	〃	74	18	女	ペコちゃん	〃
32	14	女	舞姫	〃	75	18	女	ピーチャン	〃
33	14	男	勝田剛司	〃	76	18	女	KEIRIKU	〃
34	14	女	玉ちゃん	〃	77	18	女	どんこ	〃
35	14	男	Y. T.	〃	78	18	男	ベ	〃
36	14	女	圭ちゃん	〃	79	18	女	N	〃
37	14	男	青春	〃	80	18	女	バタ子さん	〃
38	14	女	Music 大好き	〃	81	16	女	?	石川
39	14	男	男はつらいよ	〃	82	17	女	いまいちびりこ	〃
40	14	女	ちびまる子2	〃	83	17	男	?	〃
41	14	男	ゴンちゃん	〃	84	17	女	日神悠美	〃
42	14	女	まるちゃん	〃	85	17	男	Grop	〃
43	14	男	テツ	〃	86	17	女	かやのゆは	〃

## 少年・少女の

現在

飾りたてた

繁栄のなかの

少年・少女たち

●横川 和夫



いです」と涙を流しながら述べたのを忘れることができない。二十歳になろうとする若者が、思い続けていたことが「甘えたい」ということは、生まれてからの短い彼の人生は、実に寂しく、孤独だったにちがいない。

おそらく、他の三人の少年も同じ気持ちだっただろうと考え、経済的に繁栄して、物質的には豊かな日本社会であるにもかかわらず、子どもたちは、親と子どもとの人間関係は、実に希薄で、貧しいということではなかったか。

よく考えて見ると、私たち大人は、経済成長達成のために何の疑問もなしに採用してきた偏差値的な価値観、つまりコンピュータで計算できるだけの狭い枠内に限定された物差しで、多様な人間の価値を計ることを、人間の尊厳を否定し、破壊するものであるにもかかわらず、許容してきたのである。

その結果、子どもたちまでが、飾りたてた繁栄の犠牲者に

東京・綾瀬の女子高生監禁殺人事件の四人の少年たちの軌跡を追った『かげろうの家』（共同通信社刊）は、法廷での少年と父母たちの生の証言を軸に、なぜ、あのような残酷なことができたのか、その深部に取材のメスを入れるのが一つの狙いでもあった。

東京地裁の法廷で二十数回にわたって開かれた審理を、後ろの傍聴席で取材したが、毎回が驚きの連続だった。

特にサブリーダー格のB少年（当時十七歳）が、最後の段階で、弁護士から「お母さんにしてもらいたいことがあったら言ってください」と質問され、しばらく考えた後に「甘えた

なつて、孤独な世界の寂しさを、性の世界でまぎらわそうと  
しているように見える。

主犯格のA少年（当時十八歳）の家族は、異常とも思える  
猛烈企業人間の父親とピアノ教室の先生の母親、そして五歳  
下の妹の四人家族である。

父親と母親は見合い結婚で、「純真で、しっかりしていて、  
目が澄んでいて、一目ぼれでした」という父親だが、新婚一  
週間に無断外泊して、母親の不安と不信は、早くも芽生え  
始める。A少年が生まれた年の正月休みに父親がスキーに出  
掛けた留守に、母親のところに見知らぬ女性から「あんなな  
んか別れなさいよ。幸せにできないんだから」という電話が  
毎日のかかり、母親は八カ月になる赤ちゃんを抱いて、  
荒川放水路の土手に行き、飛び込もうかどうか迷う。

「もし自分が死んで、赤ちゃんだけが助かって、オッパイ」  
と言ったらどうしよう」などと考えると、結局、命を絶つこ  
とができず、家庭にもどることにする。

そんな寂しさと、夫への不満、不信を、母親は、A少年の  
教育に情熱をそそぎ込むことで紛らわす。ものすごい量の宿  
題を出して、やらないと幼児虐待と思われる体罰を繰り返  
す。そんななかで育ったA少年は、甘えられず、その寂しさを  
を小学六年生ごろから、母親への家庭内暴力と年上の女の子

の交際で解消しようとする。

企業戦士で家庭を省みない父親に対するA少年の復讐でも  
あるのだが、両親は、それに気がつかない。

小学五年生の時、ハンバーガーショップで、髪を黄色に染  
めた一年上の六年生の女の子に「かわい顔してるね」と声  
をかけられ、付き合いが始まる。それから友達の子の中学一  
年生の家に泊まり込み、一緒にお風呂に入ったり、「B」ま  
で進む。そんなA少年が、裁判所に提出した上申書に綿々と  
つづっている女の子との交際ぶりを読んで、私たちは驚かさ  
れた。

中学三年の五月に、同じ学年の女の子とホテルで初めてセ  
ックスするのだが、そのいきさつは次のようだ。

「女の子と付き合いなかった時期というのは、女の子と別れ  
て、次の女の子に行くまで一カ月ありませんでした。（女の  
子と付き合っていないと）なにか寂しいというか、エッチが好  
きとかじゃなくて、自分の話をよく聞いてくれる人が（いる  
と）落ち着くというか」。

「F子がナンパされて、どうも妊娠してみたからだから、僕に  
産婦人科に付き合ってほしいと言われ、F子と、彼女の友達  
と僕と、柔道部の後輩の四人で産婦人科に行ったのですが、  
F子は病院に入りたがらないので、わけを聞いてみると、僕  
とデートしたいからウソをついたと言っていました。しょうが

ないから、僕は四人でデートしました」。

後樂園の遊園地で乗り物に乗っていたら、F子とF子の友達「気分が悪くなったから休みたい」とベンチに座り、しばらくすると今度は「横になりたい」と言い出した。

F子の友達と男の子二人が、戸惑っている、F子が「あそこにホテルがあるからホテルで休みたい」と誘ってきた。

「僕はお金がない」とA少年が答えると、F子は「今日は、いっぱい持っているから、お金のことは心配しないで」と笑い、ホテルに入ると、二人とも元気になり、ビールを飲み始め、F子の友達と後輩は、別の部屋に行き、A少年はF子と二人になってしまう。

「僕は、どうしていいかわからなくなり、テレビをつけたら、エッチなビデオが流れてきて、テレビを消して、音楽でも聞こうと思い、したら、女の人の悶えている声が出てきて、とんでもないことになったと思いました」。

実は、Aは、一カ月前に、付き合っているJ子から「私のパージンをA君にあげる。それがA君への誕生日プレゼント」みたいなことを言われていたので、F子とはセックスまではせず、「B」で我慢した。

そして、数日後に、J子と同じホテルに行き、初めてのセックスをした。F子は「パージンはAでなきゃ駄目だ」というので、F子ともセックスした。それから八月まで、学校の

帰りには、A少年は、J子と一緒に帰り、自分の部屋でセックスする毎日が続く。

付き合った女の子は、中学時代だけで、十数人にのぼる。それも、A少年よりも女の子の方が積極的にアプローチしてくるという事態に、私たちは愕然とさせられた。

A少年と付き合っていた女の子のなかには、その後、有名私立女子高校に進学している者もいるというから、特殊な家庭での出来事と片付けるわけにはいかない。

企業戦士である父親の頭の中は、会社の利潤をどうしたらあげることができるかということではない。ゆつたりと家族で散歩したり、妻と豊かな会話を交わす時間がない。

精神的にも肉体的にも疲れた状態で、サラリーマンの多くは、裏ビデオやセックス漫画によるゆがんだ性で、その疲れを癒す貧しい文化が日本では主流である。

その男本位のゆがんだ性情報が、子どもたちに与える影響は、はかりしれない。

大人がつくりあげた大量消費社会も同様である。そのため一年ごとに流行を変えては、若者たちの購買意欲をそそのめる。幼少時から、そんな消費社会の虚構の渦に巻き込まれて育った若者たちを、私たち大人は責めることができるだろうか。むしろ、若者たちは、私たち大人がつくりあげた経済効率優先の貧しい社会の犠牲者ではないだろうか。

そんな思いにかられながら、こうした奔放な十代の若者の性を、どうとらえたらよいか迷い、広島の産婦人科医・河野美代子先生を訪ねた。

「私のところで見ていると、愛情いっぱい、しつかりと抱きしめてという子育てじゃなくて、ものすごく管理され、しつけられて、命令とか指示とか、しつけ優先の子育てを、あの時期までしてきた。そして、勉強も、あいさつもきちっとできて、すごくいい子だった子が、思春期に自我が芽生えて、一気に爆発するように異性を求めたり、不登校になったり、拒食症になったりするケースがよくありますよ」。

「厳しい管理のなかで、寂しいんですよ。愛されていないという気が先行するから。いいコミュニケーションができていないというか。だから端から見たんじゃわかんない。そのなかで育った子が実感しているんですね。少年たちと一緒に寂しいんですよ。家の中でグチグチ言われたり、たたかれたりするよりは、優しくしてくれる男の子の傍らにいる方が、ずっとくつろげるんです」。

河野先生の話の聞いていると「お母さんに甘えたい」と、涙を流したB少年の姿が思い出されてくる。

同時に、四年前に、取材で出会った少女のことが浮かんできた。彼女は、当時、十八歳で、私立女子高校三年生。まり子さんと呼ぶことにしよう。

彼女と出会ったのは、高校三年の三学期になったころだ。彼女は妊娠中絶をして、まだ一カ月しかたっていないかった。「まだ腰が痛むんです」という言葉からは、想像もできないほど、彼女の表情は明るかった。髪も染めておらず、普通の女子高生の感じだったが、話を聞くにつれ、彼女は大人が何年かかっても経験することができないような人生の苦しみを、わずかに数年の間に通り抜けてきたことがわかった。

小学四年の時、父親をがんで失い、二年後に母親に同居人ができたこと。反抗して中学三年の時、原宿のロックンローラーと半同棲、高校に入学してからは二十歳の男と家庭生活の真似ごとをしたが、その夢が破れてからは、十数人の男たちと性を遍歴、そのなかの一人である高校生の子をみごもって、おろしたばかりというのだった。

彼女の性の遍歴は、人間として生き続けるための人間存在の証でもあった。もしも、彼女から性の遍歴を奪ってしまっていたら、彼女はおそらく自らの命を絶つていただろうと思う。そんな彼女の生きざまを見ると、性の非行とはいったい何かを考えてしまう。

飾り立てた虚構の社会で、寂しく、孤独に生きる若者たち。偏差値で競争させられ、豊かな人間関係を結べず、自立できない若者たち。それを現代の病と呼ぶのだろうか。

(よこかわ かずお・共同通信記者)

## 少年・少女の

### 現在

# メディアが育てる

## 少年・少女



● 井上輝子

現代の少年少女たちにとって、テレビを始めとするマスメディアは、なくてはならない生活必需品であり、メディアをぬきにして少年少女たちの生活と人生を語ることはできない。現代の少年少女たちは、テレビが日本中の家庭にくまなく普及し、絵本や雑誌のマーケットが低年齢層を組みこむに至った一九七〇年代以降に、生まれ育った世代である。生まれた時からテレビに接し、三歳頃になると「おかあさんといっしょ」や「ひらけ！ ポンキッキ」の「習慣的視聴者」であり、うき子ちゃんシリーズや「ねないこだれだ」の絵本にすでに出合っている子どもたちである。

の子どもたちの自我形成は、大きく異なるにちがいない。

### 一、肥大化するメディアの影響力

人間の自我形成ないし社会化にとつての影響源として、家庭と学校のほかにマスメディアを加えることが、今では一つの常識となつてゐる。だが私が言いたいのは、その程度のことではない。現代では、マスメディアは数ある影響源の一つというに留まらず、むしろ支配的な影響源になつてゐる点に着目する必要がある。

従来、子どもの社会化を考える場合、両親や教師、友人などのパーソナルな人間関係の中で、子どもの物の見方や考え

一般に、言語の習得及び男女別のアイデンティティの形成は、三歳頃までになされるといわれる。現代の子どもたちは、ちょうどこの時期に、メディア接触の習慣も形成するのである。言語能力やアイデンティティがある程度形成された段階で、マスメディアに接触する経験を付加してきた昔の子どもたちに比べて、人生の出発点からメディアに囲まれて育つた現代

方、行動様式などが形成されると考えられてきた。だから、子どもがマスメディアに接するとしても、メディアの情報はこうしたパーソナルな相互作用によって濾過されるために、メディアの影響は相対化されるとみなされてきた。たとえば子どもが暴力シーンの多いテレビ番組を見たとしても、親と一緒に見ながら、「暴力はいけなよ」「この話はおかしいね」と、感想や意見を伝えることで、その番組の子どもに対する影響力は緩和されると考えてきたのである。

けれども、七〇年代以後のマスコミ文化の浸透状況を見ると、そのような楽観的見方は吹きとんでしまう。アメリカのマスコミ研究の成果をもとに書かれた藤竹暁『テレビメディアの社会力』の中に、「テレビによる家庭支配」への言及がある。それによれば一つには、子どもは親の統制を離れて、勝手にテレビを見ることができると、また二つには、現代の急激な社会変動とテレビ文化の発達で、親の情報受容能力をこえてしまった点で、親の子どもに対する情報独占体制が崩壊した。親子の会話によって、子どもに対するメディアの影響をコントロールできるといふ甘い期待は、もはや幻想ではない。

学校生活についても同様のことがいえるだろう。学校や教師がメディアの影響を免れて、自律的に子どもへの教育力を発揮することは、かなり難しくなりつつあるのではないだろ

うか。

## 二、テレビによる情報の一元化

子どもの社会化に及ぼす影響源として、メディアの力が増してきたわけだが、なかでもテレビの影響力が強大である。テレビは活字メディアに比して、格段に接近しやすいメディアである。自宅にいてリモコンを押せば映るといふ物理的接近しやすさだけではない。予備知識がなくとも、特別の努力をしなくとも、とりあえず映像と音声を楽しむことができるという、内容的な接近しやすさの点でも、テレビは抜きん出ている。だから、本を嫌う子どもたちでも、テレビの受像機の前をなかなか動かないのである。

加えて、テレビを軸にして、日本のメディアが相互に系列化、提携化しているという事情がある。いわゆるメディア・ミックスの状況が、最近ではテレビ主導の形で進められることが多い。たとえば、テレビで人気を得たアニメが、映画化されたり、そのまま絵本になったり、あるいは主題歌がレコード化されるといった形で。雑誌の系列化も進んでいる。たとえば榎田馨らの調査によれば、すでに一九八一年に、テレビのアニメキャラクターは、小学館系と講談社系の幼児向け月刊誌に系列化されていたという。この連携はさらに、玩具業界や食品業界にも及んでいる。テレビの人気に便乗した、キャラクター玩具や菓子が氾濫していることは、周知の通り

である。

こうしてテレビの内容は、他の複数のメディアを通じて、くり返し伝播され、反復されていく。さらに歌やお絵描き、ごっこ遊びなどを通じて、子どもの遊びの世界にもテレビの影響は着実に浸透する。この稿の題は「メディアが育てる少年少女」であるが、むしろ「テレビが育てる少年少女」とおきかえてもいいほどである。

テレビ主導の下に子ども向けメディアの世界が動いている結果、生じる問題として、とりあえず情報の画一化、平均化、広告化という三つの点を指摘しておきたい。電波が有限であること、また時間的制限があることの故に、放送メディアの提供する情報の選択肢は、印刷メディアに比してきわめて狭い。子どもが学校から帰ってテレビに向かう時、放送中の番組を多少つまらないと思っても、他の局では大人向けの番組しかやっていないなかったり、自分の好みに合う番組がなかったりすれば、結局は最初に合わせたチャンネルに戻るしかない。どこかの局の番組に人気が出ると、他の放送局も争って類似の企画を組むので、選択肢はますます制限される。限られたいくつかの番組を、全国の同年齢層の子どもたちが、一斉に見ながら育つことになる。

大学生に、各自のメディア接触史をふり返って、印象に残った作品を記述してもらったことがある。本については各自

の好みは千差万別で、一割以上の人が共通に挙げる本というのは見出せなかった。ところがテレビ番組については、男女合わせた回答者の七―八割が「仮面ライダーシリーズ」と「ウルトラマンシリーズ」を挙げたのを始めとして、二割以上の人が共通してノミネートしたものが、「ママとあそぼうピンポンパン」「アルプスの少女ハイジ」など二十五番組もあった。「仮面ライダー」をはじめとする人気番組の登場人物が、きまりきった描かれ方をしていることは、すでに多くの人々が指摘している。顔立ちも端正で、戦闘能力に優れた「正義の味方」の男性ヒーローと、怪獣や怪物として醜悪に描かれる敵役、そして可愛いだけで無能な女性たちが、悪の犠牲者として登場する。女の子向けの名作物や魔女っ子物にも、同様のパターン化した人物像が描かれる。ステレオタイプ的な男女像といい、勧善懲悪のストーリー展開といい、子ども向けテレビの人気番組の送るメッセージは、きわめて単純である。単純だからこそ支持もされるし、反復もされるわけだが、それにしても日本中の子どもたちが、この単純化した人物描写に、大量に、しかも繰返し接しつづけている状況は不気味でさえある。

日本のテレビは、NHKを除いて、他はスポンサーからの広告料に依存する商業放送である。このことは、番組間、ないし番組内に挿入されるCMの洪水に、子どもたちが浸され

ているという以上の意味をもっている。すなわち、放送される番組の内容にも、スポンサーないし企業社会の論理が貫徹していることを意味しよう。画一化し、単純化した情報が、資本の意向に添った、許容範囲内の情報に限定されていることは否定できない。

### 三、強化される性役割文化

テレビ文化の浸透を性役割文化の観点からみると、いうまでもなく、男女のステレオタイプ化した役割モデルの流布を意味する。FCT（子どものテレビの会）の調査などが明らかにしてきたように、テレビの描く男女像（とりわけ子ども向け番組のそれ）は、男女の伝統的な役割分業を強調し、女性に対する男性の支配を促す方向で、パターン化している。子どもたちは、メディアを通じて共通の人間としての生き方モデルを提供されるのではなく、むしろ少年として少女として性別を意識し、性別の自我形成・社会化を促されるのである。

ここで考えておきたいのは、性役割の社会化の主導権が親よりもメディア、とりわけテレビにあることのもつ問題性である。性別役割分業社会においては、いつの時代でも、子どもたちは何らかの形で性役割を習得して大人になってきた。一定のモデルが提示され、子どもたち個々人の個性が性別の類型の中とくし込まれてきたことは疑いない。けれどもこうした社会化の仕事が、主として家族や身近かな人間関係に

ゆだねられている限りにおいては、子どもにおける性役割の獲得は、ある程度融通性があったと考えられる。ステレオタイプ化した性別の理想像をそのまま演じる大人は、現実にはめったにいないものではない。子どもたちは、たとえ学校や友人や絵本から、理想の女性像、男性像を学んだとしても、自分の両親や兄弟、隣人などを見れば、理想像とは異なっており、現実にはいろいろな男女関係や男女像があることを、自ずと学ぶことができたはずである。だから、ステレオタイプは、各自の頭のなかで様々に変形させ、修正することが可能だったのである。

けれども、生まれた時からテレビに接し、テレビの中の画一化され、単純化された男女像をモデルにして育ってきた、現代の少年少女たちには、そのモデルを相対化できる条件が乏しいように思われる。親も教師も、メディアの男女像や家庭像を基準に身を処している状況の中では、なおさらそうである。もし自分の父や母がステレオタイプからはずれた生き方をしていることに気づいた時、子どもたちは、自分の家庭を基盤にして、メディアの情報を割引いて考えるだろうか。むしろ、メディアの流すステレオタイプを基準にして、子どもたちが、身の回りの大人たちを批判し、糾弾する側に立つ可能性が高いのではないだろうか。だからなおのこと、テレビの流す男女像が怖いのである。（いのうえ てるこ・和光大学）

## 少年・少女の

現在

『セーラー服を

脱がさないで』の

イメージから

—少年・少女は変わったのか—



●村瀬 学

み み ど し ま

お勉強してるのよ あー毎日  
友達より早く エッチをしたいけど  
キスから先に進めない 臆病すぎるの  
週刊誌みたいな エッチをしたいけど  
全てをあげてしまうのは  
もったいないから……あげない♪

（『セーラー服を脱がさないで』  
秋元 康 作詩 佐藤 準 作曲）

'85年にヒットした曲だから、こんな歌は今ではもう古い曲になってるのかも知れない。しかし、この曲がヒットした時、いい歌が流行っていると、私はしみじみと感じていた。中年のスケベなオッサンの気に入りそう

な歌だったからか。それもあつたのかも知れないが、とにかく今は、いい歌が流行る御時世なんだなあ」とストリートに感じたのを私はよく覚えてる。一体この歌のどこがよかったのか。

理屈抜きにおもしろいと感じたのは、「セーラー服」に代表される「女学生」と「性への関心」が、こんなふうにアツケラカンと「歌」になっていることのおもしろさである。こ

♪セーラー服を脱がさないで  
今はだめよガマンなさって  
セーラー服を脱がさないで  
いやだめよ こんな所じゃ  
女の子はいつでも

1

の「娘」と「性」と「アツケラカン」の組み合わせは、『黄色いさくらんぼ』（星野哲郎作詩・作曲）以来かも知れない。しかし、後者の方は明らかに二十代の女性であるのに、『セーラー服を脱がさないで』の方は、どこからどう見ても十代の、しかも「女学生」の歌であった。私はその辺をすごくおろしろうと思ったのである。

私の当時の「感想」はそのくらいにして、私がこの「歌」にちよつとした深読みのイメージをもっていたことがあった。その深読みをもう一度たどり直して、私に今回与えられている「少年・少女は変わったのか」の問いをできたら考えてみたいと思う。

## 2

この歌の基本的なイメージは、「セーラー服」を着ている「何者か」である。歌の全体は、「セーラー服」のイメージから主人公を当然のごとく「女子学生」や「少女」として連想させているのだが、しかし、この歌が流行したという現象の中には、つまり多くの人がこの歌を聞いておもしろいと思った背景には、何かしら「みんな」に關係するようなイメージが含まれているからではないかと私は思っていたのである。私はそれを「制服」のイメージに關係する何事かとして考えたいと思っている。

たとえば、舟木一夫の『高校三年生』が流行ったのが、63年、安達明の『女学生』が、64年頃であるうか。この時代にはまさに舟木一夫の着る「学生服」に異和感はなかったし、安達明の歌う『女学生』（北村公一作詞 越部信義作曲）も

♪セーラー服に朝霧が

流れていった丘の道

赤いカパーのラケットを

そつと小脇にかかえてた

君は明るい 君は明るい女学生♪

と歌ってた。ここでは「制服」はそれだけで茶化しがたいイメージをもっていた。

ところがあれから二十年たって、セーラー服に朝霧は流れなくなり、

セーラー服を脱がさないで／胸のリボンほどかないで

デートに誘われて／パーズンじゃつまらない

という歌詞に取って変わってしまった。これは一体どうしたことなのだろうか。この二十年間に何が起きてしまったというのだろうか。

歌の表面だけを見たら、歌詞が露骨になってしまったと、平気でセックスを描写するようになってきたというふうにし

か見られないかも知れない。しかし、そういう印象は実は本当は当たっていないのである。

実際のところ、単に露骨な歌、平気なセックス描写の歌などは、茶の間のブラウン管を通して流行したりはしないのである。下品なだけの歌は、ヒットしたりはしない。しかし、『セーラー服を脱がさないで』はヒットした。ここにはそれなりの理由があるはずなのだ。

私はこの歌から人々は、次のようなイメージを感じとっていたのだと思う。



ここには「制服＝セーラー服」と、それを「着ている者」の分立のイメージが見られる。このことは、もう少し一般化して言うと、「正規の姿」と「正規でない姿」のイメージの分立とも言えるだろうか。私たちはこの歌を聞きながら、この歌の主人公が単に性的でエッチでというようなイメージをもつより以前に、まず「セーラー服を着ている時の主人公」と、「セーラー服を脱いだ時の主人公」が全く違っているというイメージをもつのである。そして実際にこの二つの主人公の

「あいだ」にいる少女のイメージを人々は感じとるのである。むろん作詞家は、歌詞のテクニクとしてエッチをしたがっている少女たちといった俗っぽいイメージをつくり出し、大衆受けをねらっていたわけであるが、そうした俗うけをねらう前に、大衆の感性にマッチしたのは、この「セーラー服（制服）を着る人間」と「セーラー服（制服）を脱いだ人間」のイメージの落差の方であった。

### 3

私たちが、この二十年の変化の中で確実に変化していると思えるものがある。それは「正規なもの」を特別視しなくなった感覚である。たとえば警察官が暴力団からワイロをもらっていたり、自衛隊員が強盗をしたり、教師が殺人を犯したりというような事件をよく新聞でみかける。そういう例は一番わかりやすいものかも知れない。まさにこんな「制服」を着ている人が、こんなことをするわけがないといった感じである。

私はこうしたセンセーショナルな例とは別に、むしろふつう一般のサラリーマンの変化のことを今考えているのである。それは週休二日制の導入がはじまった中で、「会社に勤める正規の自分」と「会社以外ですごす自由な自分」の間に、かなり「分立」したイメージをもち出してきた世代のイメー

ジについてである。何のコミーシャルだったか忘れたが、

ガンバッテ ガンバッテ しごとノ

ガンバッテ ガンバッテ あそびノ

というのがある。「仕事人」と「遊び人」の両立のイメージ。つまり、そうしなければならぬ「正規の生き方」とそれにしぼられない「随意的生き方」とを、サラリーマン生活の中でも両立させようというイメージがここで歌われている。ひと昔前であれば、こういうことは芸術指向の強い人か、あるいは芸人指向の強い人たちしか求めないものであった。

けれども80年代の後半から「週休二日制」が認められるにつれて、フツウのサラリーマンでも、それを表現する時間的な枠が現実に取り出してきたのである。今では求人広告の中で若い人々が真先に見るのは、その会社が「週休二日制」になつていくかどうかだという。ここにきて「正規の姿」と「恣意の姿」の両方に対等な重心が置ける時代が幕を開けはじめてきたのである。

こうした時代の中で人々の「正規なもの」「権威あるもの」に対する見方は、「軽く」なつてきている。このことは、警察官などの「制服」を着る人たちに対する見方や、聖職とされる先生などを見る見方に、端的に表れてきている。特に学校では、教師を友達扱いにしたり、小馬鹿にするような風潮はすでに小学校から出てきている。

こうした現象を、その上面だけ見れば、子どもが生意気になつてきた、大人びてきた、教師がだらしなくなつてきた、というようにしか見えないのかも知れないが、決してそういうことではなかつたのである。それはサラリーマンが、「仕事日」の他に具体的に「連続して休める日」を手に入れてきたように、たとえば「勉強」の他に勉強以外の情勢が確実に子どもの手に具体的に入りはじめているからである。マニアやオタクというスタイルの情報収集が流行するように、教師も顔まけの細かで具体的な情報を、子どもたちはどこからか手に入れてきている。

『セーラー服を脱がさないで』の歌詞も、こう歌っていた。

♪女の子はいつでも

みみどしま

お勉強してるのよ 毎日♪

私はこの辺の歌詞がすごいと思つて聞いていた。ここには、「正規の勉強」以外に「べつなお勉強」している子どもたちの様子がよく描写されている。だから歌詞の主人公は「女の子」であるが、これは別に「男の子」でもよかつたし、男の子が聞いても自分のことを歌っていると感じたはずなのである。

つまり、ここにテレビ、映画、雑誌、音楽等のマス・メデ

イアを通して、「正規の勉強」以外の「裏のお勉強」を、両方同じような重さで感じとっている子どもたちの姿を私は見るのである。二十年前にも、確かに「裏のお勉強」はあった。いつの時代にも「表の（正規の）勉強」以外に、そういう勉強はしなくてはならなかった。けれども、それはいつもこっそりするものであった。していることを公言するようなものではなかった。

しかし時代は「仕事」の他に「余暇」を生き方の枠組の中にきちんと位置づけることを強要しはじめたように、高度情報社会の出現の中では「表の勉強」の他に「裏の勉強」もいやおうなく、シャワーのようにあびざるを得なくなってきた。この時代とともに生まれた生活感覚を背景にして、はじめて『セーラー服を脱がさないで』のような歌がヒットすることになったのだと私は思ってきたのである。

そういうふうにもみるなら、私は「少年・少女は変わったか」と問われたら、変わったと考えたいと思ってきた。彼らの「親」や「大人」や「教師」を見る尺度はずい分変わってきていると私は思っている。しかし、彼らが「自分」というものを「正規の姿」と「裏の姿」の間に立たせて、どういうふうに分をキメて行ったらいいか迷いつつ生きているという状態は、今も昔もそんなに変わらないのではないか、とも感じている。（むらせ まなぶ・心身障害児通園施設職員）

## 今年、東西で初夏のつどい開催

— 5月12日（日曜日） —

〈東〉

We'91年一月号「性役割の固定化は揺らいだか」をテーマに拡大読者会。執筆者にも参加していただく予定。

● 5月12日（日）一時三十分～五時

● 会場 東京都婦人情報センター（JR・地下鉄飯田橋下車）  
スグ） ☎03-3235-1140

● 主催 Weの会

● 問合せ先 武田秀夫 ☎0428-31-6947

〈西〉

NON と言える関係 「ヨメ」「ムコ」「シユートメ」スクランブル。「ヨメ」の立場から、「シユートメ」の立場からそれぞれけんけんがくがく議論の予定。

● 5月12日（日）一時三十分～四時三十分

● 会場 神戸学生青年センター（阪急・六甲下車スグ）  
☎078-651-2760

● 主催 We大阪の会 We兵庫の会

● 問合せ先 吉田清彦 ☎078-801-4652

〈夏季フォーラム〉のお知らせ

八月二～四日（於八王子 大学セミナー・ハウス）開催にむけて準備中です。今年は規模を縮小（宿泊大人130名 子ども20名）して、内容の濃いものを計画中です。次号にチラシをはさみます。ご期待下さい。

# 本当の十代の 話をしよう



● 高野 生

『本当の戦争の話。それはラブ・ストリーじゃない。それはゴースト・ストリーじゃない』と。僕には彼の表情が見える。僕はいま、テレビを聴きながら、この雑誌のこのページに眼を凝らす君にこの手紙を書いている。まだ十代の君は、最近なにをしているのか。どんなことを考えているのか。

ニュースでは、湾岸の戦争の話がずっと流れている。君は画面を切り換えて、お気にいりのソフトをカセットに差し込んで、ファミコンを楽しもうとしているのかもしれない。君は戦争のゲームを始めるかもしれない。戦争を知らない世代の君は、それで戦争を知るだろうか。

いや、そうではないんだ。君はもう戦争を知っているんだ。君の毎日は戦争なんだ。受験戦争は若者の青春を真夜中に閉じ込めている。交通戦争は子供たちの肺を傷つけている。環境はどんどん、ひどくなってきている。この冬は不気味に温かいし、人間の心は冷たく鈍くなった。政治家のモラルは歳をとってもそれだけ成長していない。

僕はさつき一冊の本を読み終えた。表紙には、夕陽に照らされた土煙がオレンジ・レッドに染められたスクリーンに、軍用トラックに寄り添う兵士たちのシルエツトが浮かんでいる。とても綺麗だ。なんて美しい光景だろう。けれども、そこに戦う彼らの表情は見えない。

『本当の戦争の話をしよう』（村上春樹訳・文芸春秋刊）は、二十代のはじめに末端の兵士としてベトナム戦争に従軍した、ティム・オブライエンが書いた。彼は自らの体験を小説の形で発表し続けている。その主人公は常に自分自身だ。そして彼は、物語の中に登場する彼は、こう言うのだ。

僕は二十五歳だ。十代が終わって五年がたった。僕は少年、一九九一年の少年ではない。だから僕は、リアルに十代を語れない。そしてそんな必要はない。おせっかいというのも。僕は僕の話をしたい。君に僕の話しよう。

ちょうど十年前、僕は中学を中退した。僕がこんなふうに言うと、君は信用しないかもしれない。確かに信じてもらえないことだってけっこうある。そうした人々はきまってる。中学中退だって？ そんなことあるもんか。そんなことが出来るもんか？ 法律違反じゃないのか？ 生きてゆけるの？ 結婚できないでしょう。まともに暮らしてないな。嘘だつ、嘘をつくな……。最後に僕は答える。いいえ、僕は中学中退なんです。

君は僕の言葉を信じて欲しい。信じてくれるかい？ ならもっと続きを話そう。僕が義務教育を終えずに学校を辞めたのは、そこが戦場だったからだ。学校が戦場だったからなんだ。僕は殺される、と思った。僕は殺してしまおう、と思った。なぜ、どうして、君は僕がそう考えたことを理解できるだろうか。君は僕にその理由の説明を求めようか。僕は君に解説なんかしたくない。君がわかるなら、わかる。君がわからないなら、わからない。それだけの出来事だ。そして僕は、君がわかってくれると思ってる。君ならすでに気づいていると思ってる。いまさら、評論家なんか学者なんかい

らない。ニュース・ステーションみたいにフリップなんか見せなくても、君にはわかるはずだ。なぜって、君はいま十代を生きているからだ。

そうだ。誰もが初恋の女性を忘れないように、僕は少年のことを覚えてる。僕は十九歳で、彼は十二歳だった。『テスト戦争』という詩を遺して彼は大空に飛んだ。いま、彼は死に、僕は生きてる。その差はなにか。僕は毎晩、ベッドの中で考える。彼には勇気があったのか。それも違う。彼は戦場において、僕は戦場にいなかったのか。やはり違う。

僕は僕であるために、彼は彼でありたかった。そのために生きた、そして死んだ。そうなんだ、そういうこと、ただそれだけのことだ。そしてその事実が若者の未来を決めた。

だから僕は、生きてることを毎日のように実感している。生き残れたことに感謝している。生き延びて二十代に暮らしながら、自分の世代の戦争をたかいたながら、まだ続いている十代の戦争に、そこで戦っている君にこうして手紙を書いている。どうか僕を誤解しないでくれ。僕は卑怯者で、膝や歯茎をガタガタ震わせながら脱走したわけじゃない。僕は同世代のほとんどがいる戦場を離れたが、僕がいた場所もまたやはり戦場だったのだ。しかしそこでは、ライセンスはまるで与えられなかった。

日本という超学歴・管理社会で、中学を中退した十五歳の少年が今日まで十年間、僕がどんな気持ちで日々を暮らしてきたか。君に想像できるかい？ 人間は体験しなくても認識するという行為によって体験できる。ジョン・レノンの歌のように、だ。でも、僕は君に苦労話を聞かせて泣いてくれと頼みたくはない。理解しあうことが必要だと思っている。

そう、学校に行く者も行かない者も、世代をわかちあい、世代をこえてわかちあい、批判しあうことをはじめよう。最近はとて聞討ちが流行っているからだ。

もちろん、君が背中から撃つようなアン・フェアな人間だとは言わない。しかし僕は許せないことを忘れはしない。高校生の女の子が教師によって校門に挟まれて殺された翌日、朝礼で校長がこう言ったのだ。『もうちょっと早く来てくれれば、死なずにすんだのに』と。その瞬間、その場所で、それを聞いていた、誰ひとり何も言わずに黙っていた十代の奴らを、僕は許すことができない。彼女を殺したのは、沈黙する仲間たちだ。彼女は二度も殺された。

本当の話は実際にそうなのだ。僕はまた、あのことも覚えている。とっさに録画したものだ。それは、騙され犯され監禁されて、最後にはコンクリート詰めにした少女を殺した少年たちの裁判だった。テレビのインタビューに答えていた、僕の知っている、学校教育を批判している二十五歳のフリー

ライターは、こうコメントしたんだ。『彼らには責任はない。裁かれるべきは社会の有様だ』と。なんだって？ おまえはどっちの味方なんだ。罪もなく死んだ方か、裁かれるべき殺した方か。何も言えない少女を守るのか、言い逃れる少年たちをかばうのか。彼女を殺したのは、彼らと、彼らを評論する彼なんだ。彼女は二度も同世代に侮辱され殺された。

僕は悔しい。僕は怒っている。十代の代弁者たちが十代の人権を冒瀆しているんだ。学校という十代の戦争の戦闘に参加していない人々が、傍観者の立場で生徒や教師や親を批判している。一度でもユートピアであったためしがない学校を、ユートピアであったと決めつけ、ユートピアでなくなつたのは、オマエらのせいだ、と金切り声をあげている。

そうした人々に警告したい。あなたがたに本当の戦争はわからない。あなたがたに本当の十代はわからない。あなたがたは血を流していないからだ。

ねえ君、僕はおかしいだろうか。こんふうに感じる僕は、どこかしら間違っているだろうか。僕はなにか特別なイデオロギーを君に押しつけるつもりはない。それどころか、まるで単純に、自然に、素直に人間として怒りを感じているだけだ。そうなんだ、僕はこうして感じていたい、あたりまえのことに、あたりまえの気持ちをもって生きていたい、君と話をしたい。そのために、僕は学校を辞めたんだ。

だから僕はちつとも偉くもなんともない。これは本当だ。君に正直に話そう。僕は中学を中退しますと、校長室のドアを開け、校長と担任にむかってそのことを告げた瞬間、もう生きられない、殺されてしまおうと脅えたんだ。義務教育終了という最低の資格すら持たない現実の壁の前で僕は立ち尽くした。これから自分がどうやって生きてゆけばいいか自信も地図も羅針盤もなく、海と地平線だけがはっきり見えた。船はもう岸辺から遠く、もどれもしないしどる気もなかった。どこへ向かうのか、まるでわからない。どこにいるのか、さっぱりだ。だけど僕の心の帆には、強い風が吹いていた。

この十年間、十五歳で中学を中退してから、僕は四冊の本を書き、ひとつの雑誌を創刊した。僕が知っている人たちは僕のことを作家と呼ぶ。無職と言われるのは嫌だから僕はそれに従っているが、特別な仕事をしている気分はない。パン屋さんがパンを焼き、農家が米や野菜を作るように、僕は文字と言葉に携わっている。公教育を肯定する人も拒否する人も、問われているのは、生き方の選択なのだ。

それはマラソンを始めるスタート・ラインだろう。ゴールに着けるかどうかかわからなくても、出発点に立つことは誰にもできる。僕の旅立ちはマイナスだった。いじめ、登校拒否、中学中退……しかしマイナスは財産だ。ためらうとき、

ふとふりかえれば、過ぎ去った時間のなかで、失った友人や恋人の胸の痛みが、僕の右足をいつも前に動かす。そう。だから今でも、僕はいつばいの風を浴びている。僕の心の帆には十五歳のそのおなじ風が強く吹いている。

僕は昨年十一月に『追い風に吹かれて』（朝日新聞社刊）を書いた。このタイトルにはふたつの意味があるんだ。ひとつは、僕が日本社会党で選挙活動に参加した記録という意味。もうひとつは、ムーヴメントによって、ひとは生きていくということ。誰もが自分の信じることに動かされている。それはヒトかもしれない。それはモノかもしれない。それはカネかもしれない。君は何を信じているだろう。君はムーヴメントを抱えているか。僕にとっては出会ってきた人々、人間の顔が最高の財産であり教科書だ。なぜって、僕が生きていることは闘うこと、そして学び続けることの航海だから。

僕は君に追伸は書かない。もうこの便箋に余白はない。できるなら、僕は君の返事が欲しい。君に話をして欲しい。本当の十代の話をしてくれ。本当の十代の話をしよう。そこから、君の本当の戦争が始まる。そこから、君たちの世代の本当の平和が始まる。僕も君と約束する。僕は僕の世代の話をしよう。本当の二十代の話をしよう。そしてそれをいつかぼくたちの未来で人類の歴史の話としよう。

(たかの せい・フリーライター)

# 発言

## 「大地塾」での出会い

黒岩 秩子

十九年間の保母生活をやめ、五十歳にして昨年五月大地塾を開いた。我が家の子どもたちがいなくなつて空いた二部屋をぶちぬいて、車椅子の入れる玄関をつけた。

「遊びに料理に英語に数学に、野山もかけめぐる大地塾」「障害児も登校拒否児も受験生も、私を含めた大人も、お互いを育て合う場」としてスタートした。

昼間部、夕方部、夜間部と三部制になっている。昼間部は登校拒否の子どもたち、夕方部は障害児者、学童保育、夜間部は学習塾が主流だが、昼間学校にいかないで、夜になると元気になる子や、かつて登校拒否していた子もきている。どれでも共通していることは、私の方から教えることはせず、子どもの主体性を重んじるということ。

こんな塾の中で出会ってきた子どもたち、予想をはるかにこえたすごい子たちがいる。

### ◆ たった一人で闘う

小学校六年生のおりちゃん。五年の三月から学校に通っていない。昨年暮からバスに電車にと乗りついで大地塾に通っている。小学校一年の頃から自分の考えは人とはちがうということに気付いたから、人の前では自分の意見をいわないようにしてきたという。「私の涙を理解してくれる人はいないから、家でも学校でも人前では泣かない」といいながら、大粒の涙をポタポタと落とした。「あなたの味方誰かいる……？」ときいた時も、ただうつむいて涙を落としたのみだった。まだ十二年しか生きていない彼女が、親も教師も、そして大人が作った社会そのものをも敵にまわして一人で闘っていると思えた。小さい頃から「どうして？」という唯一の武器をもって大人社会の常識と闘ってきた自分の姿と重なり合つて、出会ったその日から同志感を持つてしまった私である。

### ◆「学力」とは？

中学一年の二学期から、いじめと体罰により、命からがら家に逃げ込んだ中三のたかし君、大地塾ができた時「こんな子捨てみたいなどころ、僕くるのいやだ。昔僕がいやがるのに親がムリヤリつれていった学習塾と同じ」とけなしていた大地塾に彼が姿を現わしたのは、開塾直後のことだった。

「高校にも大学にも行きたいから勉強する」といって、中一の問題集を買ってきて、「勉強」を始めた。小学校低学年の頃親が教育ママ教育パパだったため、すっかり勉強ぎらいになったと言って、九九が途中までしかできない、という「学力」だった。二回ほど「勉強」したあと彼は言った。「こんなことやめた。今の僕には全然必要がない。必要になった時やればいいんだ」。それっきり、問題集をやめ、以後、塾にきては私と二人で心ゆくまで語り合っていた。その頃作った彼の詩の一部を紹介しよう。

がまんは、するものではない、

おぼえるものなのに、今の子どもはがまんする。

がまんすれば、くろうしなくていい、

でも、くろうしないとがまんをおぼえられない。(後略)

彼は「がまん」に二種類あることを発見し、「するがまん」と「覚えるがまん」と名付けた。おそらく「するがまん」と

いうのは、自己主張のようなのを押えることだと思われ  
る。「覚えるがまん」の方はなかなかむずかしい。何かをや  
りとげるにあたっては様々な困難をがまんして乗りきるとい  
うようなこととか、人どちがう道を選ぶ時の孤独に耐える  
というようなことなどであろうか？

この詩、ほとんど漢字を使っていない。読めることは読め  
るけど、書けないのだという。九九や漢字がわからない人  
が、こんな詩を書いてしまう。学校に行っている子は、一日  
の大半を他人の作った予定表によって行動させられてしま  
う。だが、学校に行かないと、一日二十四時間が彼の自由時  
間だ。だから、その中で、徹底的にモノを考えることもでき  
てしまう。だから、このような作品は学校に行っていないから  
こそ作りうる作品ともいえる。九九や漢字というのは、ワー  
プロなどという機械がしてくれるようになってしまっている  
現在、必要度もうすれてきている。そのようなものを「学  
力」と考えることも見直す必要がありそうだ。

### ◆親を告発しつづける少女

なおりさん（十七歳）とはほとんど電話でのつき合いだ。

中一の二学期から学校に行かず、四年間家にこもっていた。

昨春秋、お母さんに電話をかけさせてこう言った。「今まで  
の私は人に合わせてきただけの私で、うその私だった。これ

からは自分の言葉でしゃべります」。その後両親を朝八時から夜八時まで家から追い出して、彼女は一人で家にこもることにした。両親(特に父親)への告発文を私宛に送ってくる。

私はそれを親宛に送る。でも一向に親たちに心が届かず、親はかわる気配がない。彼女は父親を大地塾に派遣した。「お父さんを元気なまま返さないで下さい」という手紙付きだった。大地塾大人部(八年前から集まりつづけてきた「共に育つ会」のメンバー)十人位集まって父親と話し合いを持った。「親子であれ、夫婦であれ、人と人とはわかり合えるということではないのだから、娘といえど、なおりに手を貸すことはできない」といい、「なおりがどんなになろうと、私は自分の職場では、かわらず仕事を つづけてきた」という。彼は高校の社会科の教師。彼が出勤する時は家族みんなが玄関で見送るという家庭のありようだ。「登校拒否児の家庭は父親不在」との俗説を破る、父親が一切を支配している家庭で、家の中で学校以上に「学校」のようだ。

なおりさんは、小さい頃から泣いてもわめいても誰も手を貸してくれずほっておかれた。人は皆死ぬ時は一人なのだから、一人で生きていかななくてはならない、という父親の価値感が支配していたからだという。父親は「私の教育方針は、人の痛みと共に泣ける人になつてもらう」ということという。「なおりちゃんと共に泣きましたか?」ときくと、「そ

んなことはなかったですええ」と平然という。建て前と実際の乖離がはなはだしい。いかにも教師という父親だった。

大地塾にきた時、少々とり乱した様子はあつたけれど、その後又元にもどつて一向に変わろうとしない父親にいらだち、私に家に来てくれと、駒をまた一つすすめた彼女。四年間家族としか出会うことのなかった彼女の「四年ぶりに会う他人」として、私は新幹線で四十分の新潟市まで出向いた。

「私のために食事を作るな、二階にあがってくるな、私と顔を合わせるな」などのはり紙のほか、両親が生活している一階は壁という壁に両親を告発する彼女の叫びが書きなぐられている。二階の二間は彼女のすみかで、食べ物の残ったのを含めて食器類、ちり紙、本にスケッチブックなど、しきつばなしの布団のまわりに、畳は全く見えない状態で散らかっている。カーテンをしめつきりにして、人の目を避けている彼女。その日の夜、私がおぼけになつて出てきて呑み込まれそうでこわかつたという。彼女の家族は、二人の姉を含めて五人共言いはすべて胸にしまつて、遠慮し合いながら暮らしてきた。だから黒岩さんにはなれないという。

自分の外にあつた父母への告発から、今や、内なる父母の告発に向かい始めた彼女は、いつまでトンネルの中の生活がつづくのだろうか。毎日電話の向こうの心を聞きとることに  
精魂を傾けている。

# 発言

「女だから……それがどーした!」

## 女子高校生が発言

坂本ななえ

「私が私であるってことを、女だからといってじやましない  
でほしいです。そういうのはすごくくやししいし、だから一言  
で言うと、自分のために男女差別の問題にかかわっていき  
いたと思っています」。

これは高校一年生の発言である。わずか十五・六歳の少女  
から、なぜこんなことばが出てくるのだろう。二月十六日、  
行動する女たちの会主催の集会「女だから……それがどーし  
た!」でのこと。そろって高一の四人の元気なパネラーは鮮  
やかに、しかも明るく楽しく、次々と差別社会を斬っていっ  
た。都立高が一人に私立女子高三人。私は自分自身の高校時  
代と比較して、彼女たちのことばのひとつひとつに目を覚ま  
される思いだった。印象に残る発言の数々から、ほんの一部  
を紹介したい。まずは学校に対して。

「私の高校は世間では名が通っているようだけど、女の子な  
んで装飾品、みたいなどころがあります。授業でも保健など

一面的で、「女は丸くなるんだ、男は筋肉がつくんだけ」って感  
じで頭にきます。男はこうだ、みたいな言い方がイヤです」。  
「受験のとき、みんながたるんでると先生から「男子はなに  
がなんでも社会に出なきゃいけないんだからがんばれ。女子  
は家庭に入ればすぐに家事なんかできるようになるからいい  
けど」と言われました。私が文句言ったら謝ってきたけど、  
その謝りかたもひどくて「女子の表現のしかたがいけなかつ  
たみたいで……」と言うんです。男子への表現もまちがって  
るのに、全然わかっていないんです」。

「古文で「春はあけぼの」とかやりますよね。花は美しい、  
とかそういうとき、「女ならこういうの、わかるわよね」っ  
て言われるのはヘンです。「女の子は単語を覚えてこいと  
言ったら真面目にやるけど、男の子はやらない」とか、固定観  
念で物を言うのもおかしい……」。

厳しい目は生徒にも、そして自分自身にも飛ばず。

「中学では生徒会長は当たり前のように男子だったんです。それが今女子高にきて、女子の会長でなにひとつ不足なことはありません。中学でのことはなんだったのか、と思います」。

「女子にはニヤケる先生がいて、私はそういうのが頭にくるんだけど、他の女子はかえってうまく利用して甘えてるところがあります。『今度のテスト、難しいですかあ？』簡単にしてください」とか。こびてるんですよ」。

「中学で調理実習は男女いっしょだったのに、男の子はやらないし、女の子もやらせないんですね。女の子もいけないし、男の子がそれで平気なのは家でそういう生活をしているからだと思います」。

「まわりの雰囲気に合わせてしまっただけで、自分でもくやしいくらい女子といるときと男子といるとき態度が違っちゃったんです。目立つことも男子にゆずったり、今になっていけないかな、と思ってます」。

皆かなりリベラルな家庭で育ったようだが、批判の目は当然親にも注がれるのだ。

「両親が共働きなんで、小さいころ『うちは進歩的なんだ』と思ってたけど、実は家事をやっているのは母だけです。父に教えるより自分でやったほうが早い、と言うけど、それなら死ぬまで自分がやらなくちゃいけないのに。男の人は既得権は譲らないし、言わなければやらないのは当たり前です」。

「父は料理などよくやりますけど、『家事をやってる』と自分で認めようとしません。なにか言い訳しながらやってます」。

「保護者会には母が当然のように出て、母は仕事を始めてがんばっているのに子供の教育のことでチャンスを決められて、場を与えられなくなっていると思います」。

これらの発言が少しも肩ヒジ張らず、素直に伸びやかに語られたのは驚きだった。そういえば彼女たちが生まれたのは国際婦人年以降。男女平等の洗礼を受けて育った世代なのだ。

といって、これら自分の意識をコトバ化できる女の子がまだまだ少数派なのも事実である。この四人でさえ、あとで口々に「学校では孤立しているので今日は勇気が出た」「みんなの話に刺激を受けた」と言い合っていたほどだ。大多数の女の子は未だモヤモヤとした不安を抱き、周囲の強いる「女らしさ」と「私らしさ」の葛藤の中にいる。その子たちこそ、なんとかして「あなたらしく、がんばってね」と伝えたい。

この集会は中高生向けのフェミニズムの本「がんばれ女の子シリーズ」の一卷、『女だから「のふしぎ」』（遙書房）の出版を記念して開かれたものである。集会在、そして本が、たくさんの女の子を励ますエールになれば、と願っている。

# 発言

## 生きている小さな弥生田ンぼ

若竹キミイ

こういうのはザラにある話なのか、そうでないのか、とにかく私はびっくりしたのです。冬のある日、誘われて加わったハイキングで、かわいらしい田ンぼに出会いました。

「これは、弥生時代からの水田で、ほぼ原型のまま、初期水田の特徴を残して、耕し継がれています」。

私のところからは電車で一時間ばかり、武蔵五日市町横沢入、多摩川支流の秋川の、更に支流の上。午前中は沢に沿ったり離れたりの山道を楽しく歩きました。途々は地質の話、水や山の木、草、とりやけものや虫の話。林道をぬけた日だまりの草ッ原でお昼になり、腰をおろした目の前に、それは絵のようにありました。「八ッ田」と呼ばれます。

どのくらいの広さといったらよいか、まん中にこたつを置いてみたいほどの小ささが段々と重なって数枚、半開きの扇状に谷あいをお占めています。ここを両サイドから抱く小山の片方は雑木、もう一方は半分ヒノキの濃淡で。山裾と田を

分ける溝を走る清水、田の面にもチロチロ。セリ、ハコベの萌える丸っこい畦、ロゼット達はまだ少し赤味です。

大抵の人にとってそうだと思うのですが、私にとっての弥生時代なんて、つなぎようもないほどに遠く埋もれた彼方で済んでいました。本のページにある写真やさし絵、番組としてつくりあげられたTVの画面、触れてはいけなないショーケースの中、等々に、疾つくに収まっている世界です。遺跡と呼び、遺物と扱い、関心しだいでは資料なんて言って、間に横たわる時間を一足飛びに交信するには、沢山の解説に頼って……そんなものでした。

ところが目の前に春待ち顔の田ンぼは、ケロリ現役だというのです。ごく短かくとっても千年の余、コメを食べる人の営為をつないで、現代に日常をお占めているのです。ずうっと現役だったから、きょうも現役、何とあたり前なことでしょう

う。これを成立させているのは、何の由緒も度外視の嘗々、ここにコメを作って食べ、食べつつ耕しての脈々、暑い日や寒い風の気配だって、思えば途切れずに伝わっているのでしたけれど。今を生きるに必要な回路しか動かししていない私の軀が、奥の方から温まり、反応をはじめるようでした。

昨秋のイネの刈り跡に、そこに手を下した方にただ、敬意の千年分、表したいけどただ絶句！ という出会いでした。

帰宅してランドサット衛星のフォトマップを拡げると、東西に長い東京の西寄り、人里と丘陵の際がそのあたりです。いまの地名五日市は、中世に栄えた定期市が由来だそうです。が、その前段はるか縄文のそのまた前から人の住んだ証が出土する由。水の豊かな山ふところの暮らしよさが想像されたことでした。ずうっと時代が下ってからは、石材、木材、燃料等山の産品が、時の経済と呼吸を合わせることができた分だけ、榮え、休み、くり返して今は、「水と緑の清浄都市」の自負と、たとえば羽田空港へ行くのに、福岡の人よりも時間がかかるといった種類の悩みが、重層的に混在するまち。人口二万二千人、あと五千人増をと、町の長期総合開発、パンフレットにありました。

旬日の後、また田ンぼに会いに行きました。いきなり、夢のようであった出会いからこちら、だんだんに私を醒ます気がかりがつのっていました。娘のつれあいが、軽く同行して

くれました。午さがりの八ツ田は、やっぱり絵のようにかわいらしく陽をあびていました。チロチロの水たまりは、湧いたようにカエルの卵がいっぱいでした。春早く、目ざめて産卵して、またすぐに眠ってしまうという話のアカガエルのものでしょう。

郷土館を訪ねている教えていただき、また心あたりの方々を煩わせて見えてきたところはこうです。

稲作文化がこの地にもたらされたのは、弥生も後期、ここの横沢の田もその頃からであろう。実際に使われている田なので、学術調査の対象等になったことはなく、いわゆるお墨付きはないが、すでに遺跡となっている周辺の調査から、関連は明らかにされている。

多摩地域にはいま数カ所、弥生の姿をとどめる田があるが、地型や水利の条件や併せて初期水田の特徴を八ツ田ほどに備えるものはない。さらに、水田だけでなく、ここにコメを作りつつ衣食住の用を充たし、生活の全体を成立させ来たった自然丸ごとという小山がセットとして残る。なお驚くべきは、キツネ、タヌキ等を食物連鎖の頂点とする動植物の生態系がバランスを壊さず生きている等々。

縄文から前の延々を当然土台にしながらも、私たちの営みの虚実ともども、山の自然に働きかけ、恵みをひき出し、山の水にイネを培う技を文化とし得た節目、その弥生時代あつ

てのことでした。とすれば、ここに生きのびている八ツ田は、日本人の文化を最も深いところで束ねる原型であり、これを無視できる軀も、そこに宿るものも考えられません。言え、きわめて広く総合的な意味での文化財に他なりません。

しかし現実として、「このようなものが残っている地域は今」はなかなか大変です。さきの「地域開発総合計画」は、

都の「緑のフィンガープラン」や「マイタウン構想」と重なりながらジリジリと、当然動いています。信じたいのは地域の意志を主体にという都方針。

地域の文化や自然を愛し、地味な調査活動等続けている住民の多い土地柄という印象を好ましく、頼もしく思いつつ、近所となりからの貢献策としたら何が考えられるか、です。

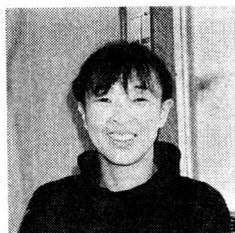
今回は『あかさたな』で登場の加藤由美子さん。『ひと』には、三回目で「もう私なんか話すこと何もないわよ」と言いながら、「おもしろいものを見せてあげようか」と出してきたのが、何と二年半にわたって毎晩撮り続けたという夕飯の献立写真。普段ろくに家事ができないからせめて夕飯だけはと頑張っているのに、食べてしまうと跡形も残らないのが何とも悔しくて写真に撮って置くことを思いついたという。最初の頃は撮ることを忘れて食べてしまい、「あっ写真」と気がついて

を並べたり、めったに買わない蟹を買って来た時には姿形がなくならない前にと、蟹を主人公に写してあげる心遣い。鍋やおたま、湯気まで写っているのも暖かく微笑ましい。

に婚家で初めて十数人分のお雑煮を作った時には、大きなお鍋におモチを縦に入れ、こんな固いものはとろ火で一時間も煮なければダメだろうと、張り切ったのに大失敗。

みんなでシユンノ習慣になると、アレンジが始まって、今日は緑がない、緑のものはないかと必死で探して生のハウレン草

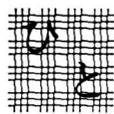
結婚するまではご飯の炊き方も知らず、カレーと炊き込みご飯を同時に作ってしまい、慌てて近くに住むお母さんの所へボールを抱えて「白いご飯」を貰いに走ったり、お正月



〈あかさたな〉  
の  
加藤由美子さん

「中二と小六の娘二人は、オムツをしている頃から台所をうろついていたので、さぞや家庭科の成績はいいだろう」と思ったら期待はずれ。補助的な仕事しかさせてなかったためか、全体的なバランスを考えた献立が立てられない。そこで二人にある時から自由にやっていいと全部を任せ、今では月・木を二人がそれぞれ担当し、土曜日は夫君の担当で、「楽になったよ」と由美子さんはホクホク。

栄養のバランスが多少悪くたって、それを補って余りある楽しい家族である。(河村)



みんながシユンノ習慣になると、今日は緑がない、緑のものはないかと必死で探して生のハウレン草

---

---

# パレスチナに ついでの 夫婦の対話

(91年2月末現在)

村田 直文

A アラブの恨みは百年残るって言われているけれど、いよいよこれからがたいへんでしようね。

Q 馬関戦争の裏切りについての長州人の小倉人への慙悔や、戊辰戦争の暴虐についての会津人の長州人への恨みは、百年以上も語り伝えられた。韓国やフィリッピンなどの人びとの日本帝国主義へのわだかまりは、もっと根強いものがある。

日米の「援助」に頼るアラブ体制派はともかく、人民の恨みはくすぶり続けていくだろう。それにこれからは、「復興援助費」やODAなどに群がる企業活動などを通じて、差別意識が再生産されていくことも心配だね。

A でもこれからは、ようやく、パレスチナに光があたりなくてはならないはずよね。国外には三百万人以上の難民を生み、国内では百万人近い人びとをひどいキャンプに閉じこめて、奴隷労働で搾取する。しかもその現実を原爆使用の威嚇で承認させようとする。

こうしたイスラエル体制派のやりかたは、ナチスや南ア政府のやりかたと全く変わらないじやないの。サダムを批判してあれだけの行動を組織したり、それに賛成したりした人びとは、それ以上の努力をパレスチナに注がなくては筋が通らないと思う。

Q 同感だ。ただし、その際、パレスチナ問題は、民族自決の原則に基づく民族問題として考えられる部分と、そうしてはならない部分とがあることに留意しなければならぬ。

A 民族問題にしてはならないってどういうこと？

Q 当面は、ユダヤ対アラブという図式が表にでることになるだろう。でもね、実は、民族という集団の定義も、ユダヤ人という存在の定義も、それほどはっきりとしたものでは

ないんだ。民族という枠組みにこだわると、却って問題の真相をはぐらかしてしまうところがある。

A でも、中東やソ連圏に限らず、中南米でも東南アジアでも、今あちこちで、民族独立の問題が火をふいているのは事実でしょう。

Q 民族自決の問題はあとでふれることにして、とりあえず、民族とは何かという問題を考えておこう。

いちおう、言語や民俗や宗教的幻想などを目印にして、それらを共通とする人びとの集団、という定義はありはするのだが、それぞれに多様で流動的だしね。

いちばん決定的と思われている言語にしても、今地球上で用いられている言語は、三千五百種とも七千種とも数えることができる。それらの独特の言語体系をもつ人びとの集団を「部族」ということもあるが、そうすると、部族と民族とのちがいが問題になってくる。

ひとくちにユダヤ人といっても、各地に住みついてユダヤの言葉を話せなくなった人たちもいるし、各国の政財界に影響をもつ大富豪もいれば、町の片隅で一市民として暮らしている人びともいる。いちがいにまとめることはできないんだ。

A 日本語しか話せなくても、韓国人として生きている人もいるわね。私なんか長野県育ちで日本語しか知らないんだ

けれど、長野県人会の会員とか日本民族の一員とかと言われるとビビっちゃう。地球人です、宇宙船地球号乗組みの宇宙市民ですっていう方が、ずっとしっくりするわ。

Q そういう人もふえてはいるが、一定の「民族意識」に頼って生きている人もいるのだ。ぼくだって、自分が「アジア人」だってことを意識して、気持ちが悪く落ちたりゆらいだりする場面であうことがある。

民族意識ってのは、ある種の帰属感、一体感、比較の上でのより親密な連帯感などを中核としているようで、そうした帰属感を民族意識としてもっているのが民族、部族意識としてもっているのが部族。と、まあ、こんな定義をしてしまうと、何も定義しないのと同じことになってしまう。それでも、民族というイメージが、生活の中で大きな要素をしめている人びとがいる、という事実は認めなければならぬだろう。

A なんだか、ずいぶんイイカゲンな感じだわね。

Q 諸行無常というわけで、人間のイメージが移ろいやすいものであることは事実だけれど、だからといってそれをイイカゲンと評価するかどうかは問題だろう。帰属感や一体感という観点からは、民族という集団も、家族と同じような幻想集団だということができる。

家族の絆だって、血縁だの国家の法律による認定だのを超

えて、家族同士です、家族として愛しあっていますという宣言が、家族としての社会的認知を生み出すことがあるだろう。

ナチスはユダヤ人差別を徹底しようとして、先祖にさかのぼって血統を重視した。ユダヤ教徒はもちろんユダヤだが、教徒ではない「普通の」市民でも、「ユダヤの血」が何分の一かでもまじっていればユダヤ、極端な例では、ユダヤだと思ひこまれたり疑われたりして密告されればそれでユダヤ、などということもあった。

A アメリカのマツカーシズムでも、それと同じようなことがあったよね。ブレヒトが追放されたり、チャップリンが逃げだしたりしたのもそれよね。

Q ところが、現代のイスラエルでも、ナチスと全く同じやりかたで、「ユダヤ人」としての国家の認定がおこなわれている。

イスラエルでは、ユダヤ人は非ユダヤ人にくらべて「入植権」その他のさまざまな恩典―特権を保障される。そこで各地からの移民にとつては、その認定をうけることが重要になる。しかし血統というものはあまりあてにはならないから、結局、ユダヤ教団に忠実なシオニストであるかどうかのポイントになってしまう。

イスラエルの先住移民は戦鬪的シオニストだったから、イ

スラエル国民は多様な個人の集団としてではなく、シオニズムに同調する戦鬪的思想集団として形成されていく。ちょうど皇民化教育が現代の平均的の日本国民像を形成したように。

(イスラエルだけでなく現代日本国家も、国籍認定の有無による住民差別を進めている。納税の義務だけを求めて住民としての権利を認めない差別政策を合理化する体制派は、ナチズムと同じ論理を再生産していることになる)。

つまり、民族意識が民族をつくるという定義からすれば、戦鬪的シオニズムが現代イスラエル国民をつくっていることが問題なので、これに同調しない多くの他のユダヤ人のことは別にして考えなければならぬ。

A シオニズムが戦鬪的ってどういう意味？ 各地に流浪して差別されてきたユダヤ人が、シオンの丘のふるさとに帰りたいて思いをもつのは当然のことじゃないの？

Q ところがね、19世紀半ばからのシオニズムには、はじめから二つの問題点がふくまれていた。

ひとつは、これが、ユダヤ人を差別し追放しようとする人びとに歓迎されていたということだ。ユダヤ人を西欧社会から閉めだせという排外主義の風潮が、一種の棄民政策をうちだしていく。この政策はその後長く、多くの「先進諸国」国家政策の基調となっていく。シオニズムは、こうした風潮とたたかうのではなくて、むしろそれに迎合する形で生まれ

てきたとも言える。

もうひとつは、シオンの丘のまわりとは「乳と蜜流れる」地中海性気候の沃地で、そこに多くの人びとの生活の営みがあったという事実を無視して出発したことだ。その沃地こそがパレスチナだった。

「パレスチナは砂漠で、少数のアラブとベドウィンがいただけだ」とするイスラエル政府の言い分は、一九六〇年代のイスラエル首相の口からくり返されただけでなく、一八九七年の第一回シオニスト会議にもふくまれていた。こうした考えのシオニストたちが、すでに19世紀の半ばごろから、パレスチナ、その中心都市としてのイエルサレムへ、運動としての「移住」を進めたのだ。

第一次世界大戦の時、イギリスは、一方では「アラビアのロレンス」の話などにみられるように、トルコ支配に対するアラブ独立支持をみせかけながら、他方では、ユダヤ財閥の協力をとりつけるために、一九一七年外務大臣パルフォアがユダヤ人のホームランド建設運動への支持を宣言し、シオニズムを加速した。ユダヤ人のホームランドとしては、当初はアルゼンチン、ウガンダ、北米、ロシア等々の候補があがっていたが、結局シオニストの要求通り、パレスチナに絞られることになった。

問題は、こうした決定が、当のパレスチナ人民不在のまま

なされたことだ。パルフォア宣言は、「非ユダヤ社会の市民的宗教的権利の侵害」を伴わないことという条件をつけてはいたが、こうした条件の設定がなされたこと自体、すでに「侵害」の事実があったことをうかがわせる。実際に、富と暴力とによるパレスチナ住民の排除と迫害が進む。

見逃してはならないことは、一九三〇年代にナチズムによるユダヤ人迫害が始まる以前から、シオニズムによるパレスチナ人迫害が始まっていたという事実だ。ナチスに迫られたユダヤ人の中には、パレスチナに逃れる者も多かった。彼らの運命は同情に価するが、彼らは先住シオニストの庇護を求めざるを得なかったし、その結果として、シオニズムの同調者にならざるを得なかった。

第二次世界大戦後、イギリスはパレスチナ問題の処理を国連に委任した。国連はアラブの反対をおしきって、47年十一月の総会でパレスチナ分割によるイスラエル建国を認めた。当時の国連にはまだ、のちの非同盟諸国の加盟はなかった。シオニストはアラブ人との紛争の中で国連決議の境界線をこえて縄張りを拡大し、48年五月イギリス軍撤退の三十分後には、国連決議違反の領土を事実上確定したといわれる。アメリカ支援の武力による建国だった。第一次中東戦争の勃発は、それから八時間後のことだった。

シオニストのパレスチナ人迫害は、ユダヤ対アラブの民族

対立という図式で解説される。その後の事態の推移は、そうした図式にあてはまる事例を次々に生みだした。けれどもねえ、ヒトラーも、そのユダヤ人迫害を、「純粹の」アーリア民族対非アーリアン、ゲルマン対その血を汚すユダヤ人の対立として描いた。

しかし今、ナチズムがゲルマン対ユダヤの「宿命の対決」だったなどと思う人はいないはずだ。パレスチナ問題を、ヒトラー流、シオニスト流の「民族問題」として受けとつてはならない、という理由がここにある。問題の核心は、イスラエル国家のシオニスト集団によるパレスチナ人民の人権侵害なのだ。「ユダヤ民族の権利」をもちだしてこれをパレスチナ住民の人権とつりあわせようなどという試みは、とんでもないことだ。

A 少なくとも、民族対立という図式だけでわりきつてはならない、ということね。

Q 今度の湾岸戦争も、キリスト教対イスラム教とか、西欧的合理主義対アラブ的非合理主義の対決とかとして描こうとしたり、パレスチナ問題をユダヤ教対イスラム教の対立として描こうとする者もいる。こうした議論は、モロッコやチュニジアではイスラム教徒とユダヤ教徒とが協力して対立をかちとつた事実や、パレスチナ人民の人権抑圧の事実を蔽い隠そうとするものだ。

Q さっきの「民族自決の原則」の話って？

A 自分たちの運命を自分たちで決めるという原則の堅持は重要だ。しかし、民族自決や民族文化の保全のためには、必ずしも各民族の主権国家を必要とするものではない。むしろ、天皇中心の国家神道が日本の伝統文化を歪曲し破壊した例をみても、民族国家ってのはかたりに怪しげなものだ。それに、これから三千とか七千とかの民族国家をつくりだすよりも、今ある百七十の主権国家の解体を進める方が、ずっと現実的だとぼくは思う。

A 現実的どころか、全くの夢物語に思えるわ。

Q 第一次世界大戦の最中に、ロマン・ロランは、「最悪の敵は国境の外にはなくて各国の内部にいる」と言い、諸民族の協和を説いた。仏独両民族の古い確執は、最後の激突から五十年もたたないうちに、融和の方向に進んでいる。希望が全くないわけではないんだ。

パレスチナや韓国・フィリッピンなどの人民の恨みを解くためには、イスラエルや日本の覚醒が必要だろう。日露戦争の時に幸徳秋水は、「禍いなるかな、戦争に酔える社会に生まれたる少年少女よ」と言つて嘆いた。日本は二日酔い状態の連続のように見えるが、酔っぱらいの議論よりは、夢物語の方がましというものではないだろうか。

(資料) 湾岸危機発生後の主な動き

◆世界

日付	内容
一九九〇年 8月2日	イラク軍 クウェート侵攻
6日	国連安保理・対イラク経済制裁を決議
7日	ブッシュ大統領サウジへの米軍派遣発表
8日	イラク、クウェートの併合を宣言
10日	アラブ緊急首脳会議でサウジなどへのアラブ軍派遣発表
12日	フセイン大統領 クウェート撤退の条件として米軍のサウジ撤退、イ スラエルのパレスチナからの撤退を要求(リンケー ジ論)
18日	イラク・西側外国人を人質とする方針を発表
9月1日	デクエヤル国連事務総長・アジズイラク外相会談― ―調停不調に終る
24日	ミッテラン仏大統領 国連総会で四段階の和平提案
10月14日	イラク・イラン国交回復
29日	仏ソ首脳会談アラブ諸国会議開催提案
11月29日	国連安保理対イラク武力行使容認決議(六七八号)

◆日本

日付	内容
一九九〇年 8月4日	イラク在留邦人四八九人と外務省発表
5日	政府対イラク経済制裁措置を発表
13日	海部首相、中東五カ国訪問の延期を決定
14日	ブッシュ米大統領、首相に電話
23日	掃海艇派遣など中東貢献策を要請 クウェート在住の邦人二四五人 バグダッドに移送、大半が人質に 小沢幹事長、首相と会談
26日	自衛隊派遣を迫る
30日	政府一〇億ドルの資金援助を発表
9月14日	多国籍軍に一〇億ドルまでの追加支援と周辺三カ国 への経済援助二〇億ドルの支出を決定
26日	首相・自民党四役に、協力隊に自衛隊の組織参加を 認める方針を説明、了承される
29日	ブッシュ大統領、自衛隊派遣に期待表明
10月9日	政府・自民党首脳協議で併任による自衛官の協力隊 参加決定
16日	政府が「国連平和協力法案」を閣議決定、国会に提出
24日	衆院国連平和協力特別委員会会で審議始まる

―'90年8月2日〜'91年2月28日まで―

30日	12月6日	1991年	1月9日	12日	15日	17日	25日	30日	2月15日	18日	19日	22日	24日	26日	28日
ブッシェ大統領、米・イラク外相相互訪問を提案 イラク・クウェート外国人人質全員解放を発表		ジュネーブで米・イラク外相会談 ——六時間以上の話し合いの末決裂 デクエアル事務総長バグダッド訪問 フセイン大統領と会談	国連安保理の決めたイラク撤退期限 多国籍軍 イラク・クウェートに攻撃「砂漠の嵐作戦」	イラク・ベルンシャ湾に原油流出 イラン・ラフサンジャニ大統領が和平仲介の意向を示す	イラク・条件付き撤退声明を発表 モスクワでアジズ・ゴルバチョフ会談 ——ソ連が新和平提案（八項目）	ブッシェ大統領がソ連の和平案を不十分と論評 イラク・クウェートからの無条件撤退を表明	多国籍軍地上戦を開始 イラク・クウェート撤退を声明 しかしブッシェ大統領戦闘継続を表明	ブッシェ大統領 戦闘停止表明							

11月6日	8日	30日	12月9日	12日	1991年	1月10日	24日
イラクを訪問した中曽根元首相らの要請で人質二五人を含む七七人に出国許可、うち七四人が八日帰国 与野党の幹事長・書記長会談で「法案」の廃案を確 認、確定	猪木議員らと人質の家族四六人が解放を求めてイラクへ出発	人質ら三九人が猪木議員や家族と帰国 人質の残り七八人を含む日本人一五五人が帰国	首相 東南アジア諸国連合五カ国訪問を中止 政府・自民党が首脳会議で湾岸支援策として①多国籍軍に対し九〇億ドル（約一兆二千億円）の新たな資金協力を九〇年度中に行う。②自衛隊法施行令を改正して自衛隊輸送機を派遣、被災民移送にあてるなど決定	この間民間レベルで航空機をチャーターし避難民移送が行われる			

■小学校では

新しい・家庭科を・創るために

## 子どもの現在にかみ合う家庭科を

村上 邦彦

(前堺市立大仙小学校)

産休・育休・病休講師として十二年。短い時は三カ月、長く一年、仕事がとぎれることもあり何度やめようと思ったことか。学校は、講師がいらないと成り立たないにもかかわらず、現実には、使い捨てなのだ。数多くの反面教師たちに出会えたことや、泣いたり、笑ったり、けんかしたりの子どもの世界に出会えたことが十二年もの講師生活の支えになったのだと思う。

子どもの世界についてさまざまな意見が飛びかっているが、それは正に、大人社会の矛盾の反映である。そうだからこそ、子どもによりそい、不断に自己変革を自らに問う教師でありたいと考えてきたつもりだ。

「家庭科教育」を問いつづけたこの一年、こま切れの家庭科

専科は二回したが、今回は、初めて一年間、家庭科専科をすることができた。

最初に考えたことは、

- 1、実習をできるだけ多くすること。
- 2、家庭科専科のわくにとじこもらないで、子どもたちの学級にも口だしをすること。
- 3、家庭科専科でしかできない利点を生かす(五・六年生

全員の協同作業のようなものを考える)。

以上のようなことをイメージしながら、思いつきも含めて取り組んできた。

〈六年生の一年間のカリキュラム〉(\*は自主教材)

一学期

(1) 計画的な家庭生活

— 家事労働を中心的に担っているのはだれか —

(2) みそづくり\*

— 市販のみそとの違いを体感する —

(3) エプロンづくり

— リフォームの世界があることを知る —

(4) 日常の食事

— ごはんとみそ汁と一品料理の実習 —

二学期

(1) 日常の衣服

— 石けんを使ってのせんたくとビデオ「石けんで生活し

ましょ」の視聴 — (五年生は、石けん運動に取り組ん

でいる人を招いて授業をもらった)

(2) からだによいジュースづくり\*

— 食品添加物の学習と体育大会の練習で疲れたからだを

いやす —

(3) 調理のくふう

— たまごときゃがいもの調理実習 —

(4) 切り文字\*

— 詩「オギヤー ヤッホー」(神沢利子)

五・六年生合作。一人一文字をつくり、全員のをあわ

せると一つの詩が完成する

(5) 健康な住まい

(6) 中学校でのお弁当を自分でつくろうI\*

— 自由調理、メニューを班で考える —

(7) わら細工\*

— なわづくりかしまなわづくり —

三学期

(1) 家族について考えるシリーズ

a 家族について考える「同じ空の下」\*

— 家族がバラバラになっていた私の十二歳のころのこ

とを語り聞かせ、家族とは何かを考える —

b 家族で使う物をつくる

— 家族みんなで使う物をつくる (クッション・カベか

け・ティッシュペーパー・カバーなど自由選択)

c 絵本『ひとりの正月』(斎藤隆介)の読みかせ\*

— 中学校でのお弁当を自分で作ろうII\*

— たまごを使ったメニューを班で考える —

e 「楽しい会食」

— お世話になった教職員を招いて会食 —

f 絵本『わたし』(谷川俊太郎)の読みかせ\*

g 切り文字「うそ」(谷川俊太郎)\*

h 家庭科の卒業式\*

①家庭科の学習の一年間をふりかえって

②卒業論文を書く(音楽と家庭の合同文集)

子どもたちは、授業をどう受けとめたか、卒業論文から紹介したい。

### ◆みそづくり

三好佳奈子

私は今まで『みそ』なんか作ったことがなかったので一番心に残っています。みそは何からできているのかも知りませんでした。『こうじ』っていう物を食べた時、おいしいなあって思いました。もう一度『みそ』をつくりたいです。

### ◆エプロンづくり

松嶋 智洋

ぼくは、エプロンのセットを買わないでも、古いワイシャツでできるかなあと考えた。古いワイシャツでできるなら、古いワイシャツでやってみたいなあと考えて、やってみることにしました。デザインは、セット物のほうがよかったけれど、苦勞して作ったエプロンのほうがいいと思った。

### ◆切り文字

小西 佑実

切り文字がすごく楽しかった。本を読んでくれたり、家庭科室のカベに切り文字をしたりした。調理実習の時だって、意外と私たちのしたいことをさせてくれた。

### ◆中学ではお弁当を自分でつくろう！

白野 美和

お弁当のおかずを作るという事で班で話しあっているう

ちに、「たこやき」になってしまった。でも、今年の家庭科で、一番心に残った事は、調理実習で「たこやき」をつかったことです。一番はじめに焼いたときは、ぼろぼろになったけど、二回目に焼いた時は、きれいにできました。だんだん慣れていくほどに、きれいに焼けていった。それに、職員室の先生たちも「おいしい」といつてくれた。また、作るきかひがあつたら、ぜひ作りたいと思います。

### ◆家庭科

竹下 友美

家庭科の授業で楽しかったのは、しめなわづくりです。友達と力をあわせて作る所がよかったです。

五年のときより、家庭科の授業はよくなったと思います。なぜかというところ、しょうもないことをいって、みんなに、「しようもなー」といわれるところがおもしろかった。

### ◆お弁当づくり

坂本摩衣子

調理実習で、一番うまくできたと思うのは、中学校でのお弁当づくり第2弾ノ だと思えます。

とくに、卵チャーハンのいり卵がうまくできました。こげもできず、こまかくきれいにできました。もう一つの料理、ソーセージのスクランブルもううまくできました。かたちは悪かったけど、ソーセージの味つけがうまいだったのでおいしかったです。

### ◆わたし

和田谷悦代

絵本の「わたし」は、おもしろかった。それに、「わたし」は、見る人によって、見方が、ぜんぜんちがうということがわかった。この宇宙の中で「わたし」は一人しかいない。だから「わたし」はめずらしいものだ。もっと大切にしなければならぬと思う。「わたし」という絵本は、子どもがみると、ただの絵本だけど、大人がみると大切な、一種の教科書になると思う。

#### ◆家庭科の授業

小森田光亮

ぼくは、家庭科の授業が一番心にのこった。みそづくりや、ごはんとみそしるの実習など楽しかった。とくに、卵をつかった、中学校でのお弁当をつくろう第2弾は、卵オムレツとチーズオムレツは、うまくできたし、おいしかった。でも、一番心にのこったのは、家庭科の先生が男の先生ということです。

#### ◆「同じ空の下」の話を聞いて

村上 可南

私が四年生のころです。お父さんが、私たちにないしよでお金をかりていました。これが一回じゃありません。それともとで、別居することになりました。初めはお父さんの実家にお世話になりました。そして、お父さんは、お金をかえすために、一生けん命働いていたんですけれど、たったの二カ月でやめてしまいました。

やめたのではなく、どっかにきえちやっただけです。そし

て、一週間でかえってきました。それがまたきえて、一カ月すぎて二カ月すぎてもかえってこなくなり、いてる場所さえわからなくなりました。それで、お父さんの実家にいつまでもお世話になれないので、お母さんといっしょにくらすことになりました。でもまた、お父さんともいっしょにくらしたいです。

以上、私が、この一年間取り組んできた家庭科の実践と、子どもたちの感想文である。

現在の「学校」が、そして「教師」が、「子どものため」と「熱心」になればなるほど、子どもたちの気持ちが悪く離れていくんだと思ひ知らされた私は、「だめ教師」になることを、心ひそかに誓い、子どもを解放することにエネルギーを注ぎこんだ。そして、今の学校教育現場から離れることを決意した。

家庭科専科としてなら生き残ってもいいな、と心ゆらいだ一年でもあったが、追いつめられた子どもたちと心をつなぐには、何も、教育現場にこだわらなくてもできる、とわかった。むしろ、現場を離れ、外から学校教育を厳しく問うていくことにエネルギーを注ぐほうが、ドラマチックな展開になるだろうと思う。そのために、地域に生活学校のようなものを組織しようと考えている。

新しい・家庭科を・創るために

少年・少女の現在に

かみ合う家庭科を

森 陽子

(大阪府高槻市立第四中学校)

1 はじめに

中学校が校内暴力などで「荒れた」頃、私の勤務校でも嵐のような毎日だった。一九八五年、私は三年生を担当していた。被差別部落の家に生まれ、家庭の状態も複雑で、幼少の頃からきわだつて荒れていたMやH。同じく、学校では教師に反発ばかりしていたO等、クラスに数人ずつ派手にツッパッている生徒がいた。

夜にOを家庭訪問した時、私は見てもらえる人がいなかったので、仕方なく三歳の自分の子どもを連れて行ったのだが、家に帰ればOの様子はまったく違うような感じだった。優しい目で私の子どもを見ていたのが印象的だった。

保育学習の実習として地域の保育所との交流を思い付いたのは、授業を抜け出したり、授業に乗り損ねている彼らが、生き生きできる時間を一時間でも持ちたいということからだった。

同和地区の生徒(この頃多くの生徒が「荒れ」ていた)が結構早く、卒業して数年で親になっていることから、こういうツッパリたちにこそ、地域の同和保育所との連携の上での、保育の学習をしてもらいたかったのである。

2 保育を学習

保育という領域は、将来親になるためというより、幼児の発達や生活の学習をしながら、中学生が自分の生い立ちをふ

り返ったり、客観的に自己を見つめることになる学習である。直接幼児への接し方、考え方を学習して、自分の生き方や、生活環境など総合的に人間というものを考えるきっかけも得られる。

また、子どもがいることに慣れていたり、子どもを世話した経験のあることが、親になった時に影響を及ぼし、男女ともに赤ん坊に対する関心が目覚めるといえる。また、年下の子どもとの世話に慣れている男の子の行動は、その経験のない子よりも仲間に対して攻撃的な面が少なく、手を貸す場合が多いという。

そして、人権意識の進んだスウェーデンやノルウェーでは、男の子育てへの参加と保育分野の仕事への男の進出の必要性が強調されている。

ともあれ、幼児と縁遠いと思われる中学生に、幼児と触れさせ一緒に遊ぶ機会を作る意義は大きいと思われる。これをきっかけに生徒たちが自分の心とからだを解放し、さらに命の大切さのようなものを感じてくれればと願っている。

### 3 ツッパリと幼児

自分のいた保育所へ授業で遊びに行けるとあって、彼女らは乗ってきた。他の時間はいいかげんでも、この実習をさぼった生徒は一人もいなかった。

実際に保育所へ行ってみると、彼らは自分たちの優しさを目いっぱい示してくれた。保育所では、ツッパリ生徒たちが一番人気があり、幼児にもみくちやにされてきた。それでも、かっとなったりする事は一度もない。優しく優しく幼児に合わせて遊んでやっていた。そういう姿を見たクラスの他の生徒は、教室とは違う彼らの一面に驚く子どもが多かった。幼児たちは、人の優しい面を引き出す力をもっている。

よく授業を抜け出していた、ツッパリS君は、保育所では本当に優しいおにちゃんだった。いつも四、五人の子に抱きつかれ、ぶら下がられて大騒ぎだった。それでもイヤな顔ひとつせず、汗だくで大奮闘していた。でも彼は、感想文など書かない。無理に書かせると、「なし。二度と行きたくない」なのだが……。クラスの生徒は、このようなSの姿をしつかりと見ていた。

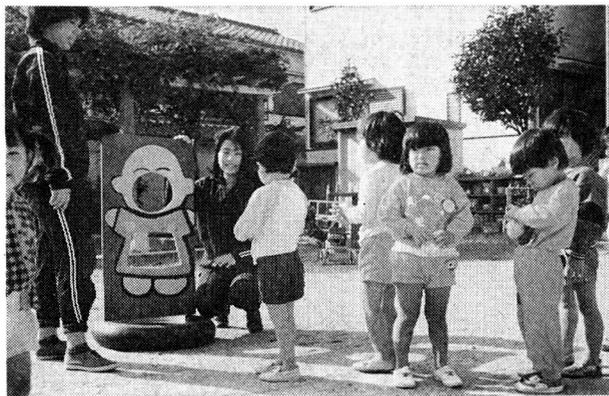
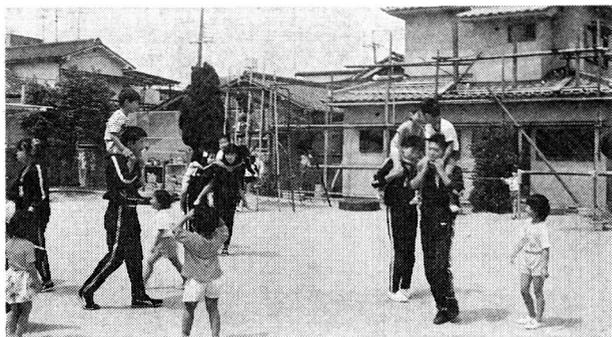
「Sって、やっぱやさしいねんな。男の子が四、五人、Sのまわりに集まって、『なんかせえー』ってかんじやった。Tもちゃんとみとつたし、みんな行く前は何やかんや言うっても、小さい子見たら変わってしまうんかな？」

「もう、意外な面をものすごく見た。信じられんぐらい。私信じられへんのは、Mやな。ものすごく人気あったし、ずーっと子どもたちは、Mのところへべたべたとくっついていった。そしてMも相手にしたりしていたから……。それと、F

です。ズーっとおんぶして走り回ったりして、かわいがって  
いたから……」。

#### 4 保育所交流

保育所では、日常のカリキュラムや時間帯を変えなければ



上一園庭で肩車

下—玉入れゲーム

ならないし、保母さんも中学生は扱いにくいし、幼児も、三  
歳児など特に、大きなおねえちゃんやおにいちゃんに目をば  
ちくりしているし、最初は、ぎこちなかった。もちろん、中  
学生もどうしていいかわからなかった。が、やがて、時間が  
経つと、少しずつ接触が起き、追いかけてあいや、ぶつかりあ  
いが始まって、大騒ぎになる。

しかし、保育所で実質活動できるのは一時間  
である。慣れた頃にバイバイしなければならな  
い。今度は、別れたくない生徒たちを帰らせる  
のが大変。どのクラスでも無理やり幼児と引き  
離して、やっと保育所を出る状態だった。

ともかく、生徒たちは大喜びし、こちらの予  
想以上に幼児と楽しく遊んだ。とりわけ「荒  
れ」ていた生徒が、学校では見せない優しい面  
を出し、幼児に好かれて大活躍だった。帰路で  
は、「ああしんど、疲れた」「もっといたかつ  
た」「○○ちゃん、かわいかった」「また行きた  
い」等の会話が飛び交う。この時は全勢力をぶ  
つけた、快感でいっぱいだ。

反省会では、保育所側からは、中学生が戸惑  
ったり、はずかしがって動かない点を指摘され  
たり、卒園した子たちの中学生としての十年後

の姿を複雑な思いで見たと、保育所時代の様子を話して下さったりした。

ともあれ、幼児も中学生もとても喜んだし、問題点はお互いに話し合いながら、両者にとってよい取り組みにしていこうと、次年度からも交流を続けることとなった。

## 5 もう一回行きたい

翌年から交流は年間二回とし、技術・家庭科の二時間続きの授業時間帯の中で行っている。一回目(六〜七月)は幼児と遊ぶこと、二回目(十一月〜十二月)は紙芝居を作って持って行き、それを見てから遊ぶことをしてきた。

中学生は、班毎に分かれて、幼児のクラスに入って各クラスのカリキュラムに従って、リトミックや遊戯、工作などをする。

できるだけ保育所のカリキュラムに支障のないよう、無理をしないようにということで、保育所側も自然体でやってもらっている。

中学生にとって、保育所へ行くのは二回だけの経験だが、幼児たちは、年間二回ずつ七クラスの中学生と遊べるし、年々慣れてくる。四、五歳児になると中学生を待ち受けていて、いきなり積極的にちよっかいをかけてくる。

最初の慣れない生徒たちも、幼児に誘われたり、保育さん

に上手に促されて、だんだん素直に幼児とふれあうようになってきた。幼児の中には、普段保育さんに対する以上に思いっきり大暴れしている子もあるという。

## 6 おもちゃを持って

一九八八年度からは、二回目に簡単な玩具を作って持って行くこととしたので、遊びがバラエティに富んだものとなった。

玩具製作は、班毎に、幼児と遊べるものを考えて、紙や廃物などを利用して、少ない経費で作る。クラスや班によっては、大変なこともあるが、この取り組みも、実は楽しい。

生徒たちはこんな事にも一生懸命になるんだなど感心させられるほど、放課後残ったりしてがんばる班もある。だいたいが、紙を中心にしたものなので、こわれやすいのだが、中にはよく工夫したものもある。紙芝居や、かるた、ジグソーパズル、びっくりりばこ、紙相撲、糸電話、玉入れゲーム(写真)等々。

これらの玩具は、保育所にプレゼントしてくる。生徒たちは、幼児があまり喜ぶとは期待していないようなことを言っている。が、その後も遊んでくれていると聞くとまんざらでもない感じだ。

「カルタを持って行って良かったな」と思います。一回目保

育所に行った時もいろんな遊びをやって楽しかったけど、今回自分たちの作ったもので楽しんでもらえて本当によかった。でも、あのカルタ、今ごろどうなっているのかな？」

「おもちゃで遊んでくれて良かった。喜んでくれた。すもうの台が一つつぶされた。すごく元気だった。肩車をしたとき一番喜んでた。前の保育所へ行ったときは、雨が降って外で遊べなかったけど、今度は外で遊べて良かった。保育所には、四人ぐらい知ってる子がいた。僕は幼稚園に行つて保育所は知らんから、二回保育所に行ったからどういふ所かわかった。保育所に行くまでの時間が思った以上にかかり、遊ぶ時間が少なかった」。

始めて二、三年間は、クラスによつては、保育所から一部の生徒の態度（照れて、動かない）に苦言をもらつたりしたのだが、年々順調になり、今ではそのようなこともない。みんなが、すなおに幼児と遊んでいる感じである。

この保育所との交流も定着してくると、一回目に行く前は、「なんで保育所で遊んだらなあかんの」と言う生徒もいる。が、一回行つたらほとんどの生徒は「また行きたい」と言う声に変わる。その後のおもちゃ作りも、二度目の訪問にも、もはや、文句や変な抵抗はない。生徒の意識でも当たり前のこととして、喜んで実施している。

## 7 保育所の話から

幼児がとても喜んでるのでさらに交流は続けたい。保育所側にとつても、修了生の中学生としての姿が見れるのでいいと思う。

子どもたちにとっては、おにいちやんおねえちやんは、親しみがありあこがれであり、とても喜んでる。遊ぶときも手加減なく、思いっきり体ごとぶつかつて、ふだん保母に対する以上だ。おにいちやんにもらつた小さな紙切れ一枚を大事に持っていたりする。

春休みに、おねえちやん三人が遊びに寄つてくれたとき、子どもはとても喜んだ。

また、高校生がクラブ活動で紙芝居を作つて持ってきてくれたこともあった。中学校での経験があつたからだと思う。

いろいろなゲームやおもちゃを持ってきてくれるので、子どもはとても楽しみにし、喜んでる。

ただ、時間が短いので、盛りあがつたところに「さよなら」をしなければならぬのがとても残念。

この交流には、校区の二つの保育所に積極的に協力してもらつており、今後とも幼児にも中学生にもよい結果をもたらすようにしたいと思つている。

新しい・家庭科を・創るために

まず授業を楽しむところから

蔵本佳子

(東京都立稲城高校)

一年前の四月号で、「授業にならない授業の中から」を、またマス・メディアの特集では、「授業のヒント」を書きました。未熟な私がWeに出ることは早すぎると思っていました。が、半田先生の依頼文には弱くてついひきうける自分を笑っています。でもきつとWeの読者の中には、私と同じように悩みつつ悪戦苦闘していらっしやる方も多いのではないかと考え、同じ立場の方よりご批判をいただきたいと思えます。

ところで一月号の「何でも言おう」欄の梶原公子さんのことばがとて心に残っています。「生徒の現実、すぐれた実践や文章ではどうにもならない。ここをテーマにできるのはWe以外ではないか」。まったく私も同感です。

家庭科の教材はそれを深めるほどに興味はつきず、まったく魅力的な教材です。生徒の興味関心をよびおこしそうな教材を発掘し、あの手この手で深め、時には作業や実習、調査研究等により頭だけでなく他の感覚をも総動員し、さらにその一つ一つの断片をつなぐことで、大きな構造が、つまり自分の気づかなかった現在の世界が目の前にひらけてくる。

そうして開かれた知性は未来に向かつてさらに開かれ、生きていく上での活力につながっていく……とまあ理想だけは高きかかげ、いつかは生徒をこの新しい知性にわくわくさせてやるぞと、日々自分にムチうっていたわけです。

でも梶原さんいわく、やっぱり現実には厚い壁でふさがれて

いる。それほど学校は大きな矛盾をかかえ、ボロボロの状態なのです。我が勤務校は比較的自由(?)な校風で生徒の顔には険しさは感じないかわりに、何かを求める輝きというのでしょうか、若いエネルギーの燃焼が感じられない。その場その場をおだやかにすごしているようです。このままでは見えないウミをソフトにくるみ、SOSサインを出すことも忘れ、学校ごっこをつづけて、何とか三年間我慢し、資格だけもらって、自分の成長をさほど自覚することなく、「さようなら」ということになりかねない。

現実私が担当している子供の中には、もうすでに自分の状況の本質を感じとり、その中でどんな生き方をしていくことが自分にとって得(?)かをしっかり頭にやきつけた子もいます。遅刻はしても欠席による欠時はふやさぬようにする、指導しようとする態度を露骨に示す教師に対してはできる限り無視を決めこむ、自分に合わないクラスに対して集団活動の参加はしない、この年代に楽しめることはアルバイトも含めできるだけやっておく、放課後はすぐ帰る、などなど……。

この方針は担任が変わろうと、学校が変わろうと同じで、さらに卒業したらようやく自分の人生が始まると言うのです。どんな人生か……ある程度の給料を得たら旅行や習いごとなど好きなことをして、結婚したら家庭に入る。

『かげろうの家』の中で佐々木賢さんが言っていました。「子供たちはどんな仕事をして同じで賃金さえもらえればいい。その賃金で何をするか、遊びの方が問題だ」。納得できません。こんな話もあります。高校中退しても仕事がないわけではないが、その場合「中流どころか日本人にもなれない」そうだ。

バイト先で外国人労働者といっしょに働く子供たちの実感です。またある先生はこうも言っていました。どうしても学校についていけない子供の傾向の一つとして、「イメージの世界で生きていて現実になかなか目覚めない」と。

私は職業と結婚に夢をもてない若者は、とても不幸な状態であると思っています。個の確立などできるはずがありません。それでも彼らが明るくて元気に見えるのは、モノやサービスを買う自由があるからだと思います。イメージの世界もそのサービスなしには成立しません。

生徒が貸してくれる少女マンガを読むとクラクラします。現実の深刻さをギャグとおちゃらかしで明るくふわふわしたイメージでぬりかえる。子供たちが非行でなく、イメージの世界に逃避することだからうじて安定している例を、いくつ見てきたでしょう。小説・マンガ・音楽・雑誌・ショッピン・ゲーム……。

実践も書かずここまで書いてきました。書けない理由が

あるのです。以前私は生徒たちの世代感覚に学び、それを引き出していくことが大切であると言いました。でも彼女たちの未来を同じ目の高さでよく見てみると、やり方次第では、ますます教師と生徒の溝をつくってしまふことになりかねない：そう気づいたのです。この原稿締切のぎりぎりまで頭をたたかれてしまいました。そのことをこそ書きたいと思いましたが。

三月三日、高生研授業研究集会、国学院大学の竹内常一さんの講演と都立四商の吉田和子さんの家族法の自主編成の分科会に参加しました。持っていた問題意識とピットリ一致し集中しつづけた五時間でした。そこで得た私のめざめとは：「どんなに生徒の文化をさぐり、彼らの現在にかみ合うであらう、家庭科教材を用意しても、教師が教え授けるといふ形を守る限り、生徒の知性は開かれない。へたをすると、こんなことも気づかないおまえたちはバカだという無意識のメッセージを送ることもなりかねない」ということ。

例えばさきほどのイメージの世界を教材にして子供たちが影響をうけるマスコミを批判する授業を組んでも、教師が出した結論にはしらけてしまう生徒が少なくないということ。要するに、生きる活力になる知性ではなく、ますますあきらめ、逃避させるための知性になってしまうということです。

教師がまず世界を認識しなくては始まらないのは言うまでもないことですが、それを伝える、いわゆる授業をやめ、生徒自身が主体になる場を創造することこそ教師の役割であると言うのです。

吉田和子さんの実践はそれを着実に実行に移したものでした。「離婚」をテーマに弁護士や裁判所をも巻き込んだ研究・発表、映画「チャンプ」を鑑賞したあとのグループ討論。すごいのは、吉田さんの思い込みをはるかに越える生徒たちの現実の世界が、彼女たちの言葉で表現されていることでした。導き出した結論は「日本の男と女は各世代を通じて男女の友情を育てる能力に欠ける」です。私たち教師は「不倫として表現されたもの」から何を引き出すでしょうか？

ここまで表現できる能力を育てるには：何よりも知りたいことですが、これが一番大変なことでしょう。読むこと、書くこと、聞きとること、まとめること、分析すること、そして討議すること：いろいろな能力の訓練があつて初めて成立する「生徒がつくる授業」です。竹内常一さんは、「授業のマニュアル化」「授業のプレイ化・戯れごと化」は力のない教師のその場のがれと痛いことを言いきっています。何と耳の痛いことばか：。まさに私はマニュアルと戯れごとで進めるダメ教師だなあと思います。

しかし、ささやかな前進も書かせていただきたい。力ない者のあがきをWeなら受けとめてくれると甘い期待を持ちつつ…。一年前に書いた保育の実践を、今年さらに昨年の反省を生かしながらすすめてみました。男女のよりよい関係とは何かを考えること、そしてその関係を抑圧する社会的な構造、男女の意識などを明らかにすることを二つ目標にかかげて、またアンケートより入っていきましました。内容もWeの批判などふまえて、一ツ橋の現代社会資料集「愛と性」の部分プリントして昨年とは違う形に：（この資料はかなり生徒に反響がありました）。

一つは男女間の友情と恋愛のちがいについて、二つめは女子高生校生のセックス観について、三つめは自分のやりたいこととのため男性と別れる選択をする女性の詩を読み思うこと。思った以上に生徒の意見にワクワクしました。八クラスの主な意見を書き出し、六枚のプリントにとじ、これを使って授業をすすめました。

おもしろいことに私を興奮させた意見は、進級できずもう一度一年生をやることになった女子に多く、悩み苦しむ、それを男子にぶつけてきた彼女たちのいつわらない言葉がとても説得力をもって迫ってきました。

四商の生徒が導き出した「友情を育てる能力が恋愛も豊かにしていく」ということのヒントになる意見も多く、ある程

度の関心と呼ぶことには成功したようです。また、性<sup>セックス</sup>を扱う時は、男性のつくった週刊誌的なからさまな言葉を授業に登場させぬよう、あつけらかんとしたムードづくり<sup>ムードづくり</sup>に気を使いました。

避妊や中絶もビデオやスライドにより事実を科学的に語らせ、しつこくしないよう、あとで要点のみをまとめました。（一ツ橋のビデオはおすすめてです）。二、三月号の自由の森学園の女子が書いた感想文もプリントしましたらとてもよく読んでいました。同世代の書いたものの説得力は大きいものです。

性を明るく語るムードづくりが成功したなあと感じたエピソードを。避妊のところ「ペッサリーはサイズがあり洗って又使える」「まるでコンタクトレンズのよう」（爆笑）、コンビニエンスストアでアルバイトしている子が「先生、おばさんとか男の人が買っていくんだよ。もう売るのが恥ずかしいって：」、授業内容は女子高生向け雑誌に書いてあるという話から、「でもぬけ落ちていく視点は、母親になるかもしれない、子供に対する責任だよ」とか：。

また、今年も『松田聖子論』に挑戦。テーマは「百恵と聖子の愛し方」分析。テープ編集は生徒も協力してくれました。フロムの『愛すること』を参考に、「自己犠牲的

な無償の愛」にひそむ偽り、と「交換価値を前提とした消費的な愛」の偽りを導き出し、「愛する」ということについて考える授業です。これはけっこう目を輝かせる生徒が多かったようです。

フェミニズムはどうも「男と女の権利の奪いあいというイメージ」が強く、私自身、夫への短期的(?) 説得力に欠けると思っているものですから、むしろ男女ともに忘れている愛し方をもち出すことで、つくられた性差の弊害をクローズアップしようとしたつもりです。生徒も百恵や聖子の歌を歌いながら、好きなことを発言しながら楽しくすすめました。

小倉千加子さんの『女の人生すごろく』を余談に、テレビドラマ「ふぞろいの林檎たち」、武者小路の『友情』を引用し、また『かげろうの家』にみられる日本の夫婦のコミュニケーションと個の確立の問題を多方面より組み立てたつもりだったが、どうも断片的に楽しむに終わったという感じがします。

強いて今年の前進は何かと問えば、ともあれ、私自身が毎時間教室に行き、今日はどこまで迫れるかを、ある意味で楽しみながらやれたということかな? 苦痛から少しでも元気をとりもどしつつある…ということだろうか。竹内常一さんもおっしゃっていたのだが、「楽しくやる」ことがまず大切だなあと思います。学ぶことは本来楽しいはずで、そのムー

ドだけでも伝え、そしてその上で彼女たちに、ともに、かしくなっていく喜びを味わってもらえたら…と思うのです。

時間はかかっても、やはり討議のできる力を子供たちに育てたいものです。実はこのことは前から私自身が言っていたことなのですが、班やリーダーの指導等、これはやり始めると並の努力では追いつかないしろものであることは事実です。講義を組み立てることは、それに比べればずっと教師にとつて楽な仕事。発問のしかた、また生徒に発問をつくらせることなど、竹内さん・吉田さんは私に多くの可能性を下さいました。

生徒が主体的に生きていく能力を育てる、真のかしこさを育てるには、やはり生徒自身が授業に対し主体的に取り組む手だてを講ずるしかないのだと思います。

We の昨年秋のつどいより妙に私の中でくりかえし響いている、佐藤洋子さんの「説得力」ということば。同じことを言っているのに現場の人が言うと言得力がある。友達が言うと言得力がある。自分でできこうとすると説得力をもつ。教師は肩に力の入った運動家になろうとせず、説得力のパリエーションを探した方が、案外近道なのではないかと。

We の輪でともに考えていきましょう。

## 『』の胸の嵐

## —英国ブラック女性アーティストは語る—

萩原弘子 著

(現代企画室)  
(二四七二円)

この書は、英国で活動する五人の非白人の女性アーティストと著者が、抑圧の文化と解放の文化についての対話を重ねた中から生まれたものである。一対一の対話形式をとっているが、著者は単なる聞き手ないし記録者ではなく、相手と「なにほどか共通の課題を担う者として話をし」、彼女たちと「胸の嵐」を共有する自らの立場を明示しており、この「共有」のモチーフが全編を貫いている。

登場する五人はいずれも移民一世または二世であるが、うち一人はパレスチナ人、一人はインド人で、ふつう言われるブラック＝黒人ではない。白人による帝国主義的支配と闘う政治的立場表明として積極的に「ブラック」と名乗ったのだ(それにひきかえ、あの情けない「名譽白人」!)。「インド人、アジア人が、(アフリカ系黒人と一緒に)ブラックと言われることに反発するのは、被抑圧の

経験の質が違うからではなく、インド亜大陸には昔から立派な文化があり、未開ではない、という変な優越感から、という場合がある」と語る、インド人チャイラ・クマリ・パーマンをはじめ、五人がこもこも語る英国・ヨーロッパによる文化支配の体験的証言は、日本の近現代史のすがたを映し出す両面の鏡のようにも思える。「脱亜入欧」と民族的伝統の誇示、欧米への屈従とアジアに対する支配と収奪……。

そして、もっと内的な、個人的な痛覚も。白人＝支配者の文化を内面化して育った自らの体験を鋭く検証するシモーヌ・アレクサンダーの話に、ほとんど同じような欧米志向の文化の中で幼少年期からの長い自己形成を上げてしまった私の半端な自意識がうずく。西洋美術史をある程度学んでいながら、「召使でもなく、芸人でもない黒人」を描いた作品

がその史上に存在しないことを、リタ・キーン(五人の中でも私はとりわけ彼女が大好きだ)に指摘されるまで気づかなかった、この鈍さ。

このように、この本は現在の日本の文化状況に生きる者にとって多くの示唆とうながしに満ちており、それは正直なところ、かなり重たい。しかし私がこの本をWeで紹介したいと思うのは、何よりもまず、冒頭でふれた「共有」への信頼が全編で熱く語られているからだ。「経験を交換しないことにはなにも始まらない」(リタ)「みんなの経験ならば、もっとちゃんと共有されないといけない」(チャイラ)と言い、グループ展など共同の仕事に力を注ぐ彼女たちのアート観は、「私は基本的ににはだれでもアーティストたりうろと思っている。アートは生命、生活と同義語……人はみな自分を表現しているのよ」(リタ)

## —編集室からあなたに—

### ◆あなたの声を We にお寄せ下さい

今月号は「Weに何でも言おう、何でも聞こう」のページを設けることができませんでした。「Weの読者会だより」の欄もなく物足りない感じです。お互いの日常が、日に日に忙しくなっていますが、「忙」とは、心を亡くすこと、とも言われるように、あわただしさの中でこそ、ほんのひとことでも感想や意見を伝えあう行為を大切にしたいものです。開かれている We の場を、もっともっと皆さんに活用していただきたいと願っています。

前月号にも書きましたが、「新しい家庭科を創るために」の書き手を募っています。We のテーマの中に、あなたが家庭科で取り組んでみたいものはありますか？ また、すぐれた授業をしていらっしゃる方のご紹介でも結構です。自薦・他薦ぜひ名乗りでてください。

We 10周年記念イベントについての楽しいアイデア、ご要望もお寄せ下さい。

### ◆We 10周年記念セール、ご活用下さい

前月号でもお知らせしたように、4月から8月末日まで、ウイ書房の単行本を3冊以上ご注文の方は、ウイ書房に直接お申し込みの場合に限り、定価の1割引きとさせていただきます。お申込は、なるべくハガキで。到着次第、振替用紙を同封して、すぐお届けいたします。

5月初旬には、半田たつ子著『木犀の匂う朝に』が刊行されます。ぜひご購入を。We 10周年記念イベントの一環になります。

### ◆10年目の We、動いていますよ。あなたもどうぞ、一緒に！

●91年夏季フォーラムは、既にお知らせしていますように、8月2日から4日まで、東京・八王子の大学セミナーハウスで開催します。次回の実行委員会は、4月20日 p.m.2:30～ 都婦人情報センターです。お気軽にご参加下さい。

●We の会主催「初夏のつどい」は、5月12日、東西呼応して開催されます。このご案内は28ページです。

◆3月8日の国際婦人デーのつどいで、半田はミモザ賞をいただきました。青山のクレヨンハウスを会場に、麻鳥澄江さんたちの「女ばんど」でにぎやかに盛り上がりました。

「100号を越すまで、よくがんばったね」と、魅力的な女たちから贈られた晴れがましい賞は、ミモザの花束！ 冷たい雨の夜でしたが、心ほのぼのとあたたまりました。

◆訂正 4月号41ページ2段目左から4行目「なれあい」は「ふれあい」の誤りでした。お詫びして訂正します。

「なににも創造しない人なんかいない」(チャイラ)というものである。  
つまり、励ましと元気づけの本としてこそ読みたい(飛躍するようだが、読書会をするのだから創造的な行為なのだ!)。著者も「あ

とがき」で「アートにとりわけて関心がない読者にも、この本が役立つ点があるとすれば、それは、五人の話から、課題をとともに担い共闘することの意義を確信できるということだろう」と述べている。

著者は筆者の十数年来の友人であるが、課題の共有・共闘を一貫して行動の原理としてきた彼女に最もふさわしい仕事の結実である本書の誕生がうれしく、読者仲間のふえることを願っている。

# 荒野のバラ

田中裕一

「雑草」という

草はない

——子どもたちの今——

## 1 学校は面白くないか

人には、やりたくなくてもやらねばならぬ事もあるし、やりたくてもやっつてならない事もある。そうした分別を学ぶ場面が教育にはあるから、面白くないれば学校でないとまでは言わないが、この学校のくそ面白くない現状は何とかならないものかと思う。もっとも学校がつまらないのは、今に始まったことではない。シェークスピアだってそういうのだ。

「相逢う恋人の喜びが、退校時のあの学童どもの心なら、別れる時の悲しさは、登校時のひどく浮かないあの顔か」

(「ロミオとジュリエット」第二幕第二場 中野好夫訳)  
バルコニーでのデートの別れぎわに、ロミオは、今日日本で

十二万人の高校中退者や急増中の不登校の、大人どもが謎とするその一角を衝いたのだ。学校や大人たちが、少年少女たちをもっと悲劇的に追いつめる姿を戯曲化したものに、ヴェデキントの「春の目ざめ」がある。男生徒モリッツは自殺し、女生徒ヴェンドラは妊娠のあげく墮胎薬で死ぬ。そしてこれらを「非行」として追求する校長と職員——何とその会議室の壁に、ペスタロッチとルソーの肖像が掲げてある(第三幕一場)。これは小道具でなく、痛烈な皮肉である。「教育」の名のもとに、大人はいかに子供たちからその人間らしい生気に満ちた心を奪いとってきたことか。

師も友も知らず責めにき謎に似るわが学業の怠りの因

石川啄木もまた、「教室の窓より通じて」「お城の草に寝」転んだりして、「空に吸われ」る「十五の心」を失うまいとした。

私が入学してきた子供を調査したら、八割が社会科を嫌いか苦手と言った。彼等は指導要領準拠教育の被害者だった。私は授業のやり方を変え、一学期ほどでこの比率をほぼ逆転した。文部省の指導要領を全文通読するには、よほど忍耐強いか、よほど出世しようと思われないと読めないものだ。馬鹿らしいほど当たり前だったり、馬鹿らしいほど白々しかったり、そして恥ずかしいばかり傲慢で押しつけがましかったりする。私など読み始めると、「マクベス」第一幕の魔女の歌が聞こえ始める、荒野で火を焚き、魔法の薬を鍋で煮し

めながら魔女が繰り返す歌から悲劇が始まる。

“Fair is foul and foul is fair.”

「正しいことは間違いで、間違いが正しい——またしても子供たちが**あつ**わしくもいとおしくなつてくるではないか。

教育理論や教育制度がいかに論じられても、子供の世界がいつこうに明るくならないのはどうしたことか。入試制度や教育課程に至つては、改変の度毎に「きめ細かく」子供が追いつめられ、窒息させられる。現場から見ればこれらの施策はまさに「公務執行妨害」であり、学習嫌いや学校嫌いを生じた施策の責任者は極刑に値する。「改訂」などと人体実験の失敗を糊塗する言いかえは、医療行為なら当然その被害者の子供・保護者から告発されるべきだ。行革とか小さな政府とかいうのなら敗戦直後のように文部省廃止を検討すべき時期だ。それが過激とならば、その肥大化した権限を、教育的外的事項はもちろん、内的事項では大幅に削減すべきとさえ思う。

必要もないのに無免許で子宮摘出までしたF病院があつたが、今や子供たちは定見も経験もないイデオロギッシュな文藝教族と官僚に魂まで抜かれようとしている。中退・不登校・非行は続々と構造的に増加してやむまい。学校が変わらぬ限り、子供が変わるほかないではないか。子供たちのこうした抗議や警告のシグナルを解読もできず、まだ「毅然とした態

度で指導」などと世迷い言をいう。だが、文部省はだめでも私は学校に子供が存在する限り、子供たちに学校再生の希望をつなぎたい。

## 2 「雑草」という草はない

人間は、勝手に世界を見る。もしも蛙が、人間が自分につけた名が「食用蛙」とわかつたら激怒するだろうという話がある。気易く「雑草」などというが、「雑草」という草がある訳がない。人間が名を知らないだけの話で植物が内陸にはなく、高山植物が都会にある訳がないことが見えてくると、海辺のすべては整然たる秩序に従つて生きているのがわかる。

その上動物の子供はすべて可愛らしくセットされているが、「遊びせむとや生まれけむ」と歌われたあの無邪気な声、あの澄んだ瞳が、どうして暗く、生気のない、猜疑に満ちた濁つた大人の目に変わるのだろう。そうならねば生きられないのか。「みんな仲良く」と「人に負けるな」を平然と要求して子供たちを悩ませ、学歴や偏差値で人格まで選別する「教育悪」の故か。

あれだけ批判されながら、関係名簿には学歴を付ける。東大合格校番付けは猛威をふるう。それは、高校格差の中の制服制度が、いくら愛校心とか誇りとか有名デザイナーとかで問題を外らしても、差別的屈辱でまとう歴然たる偏差値格差

の「汚染衣」であるのと一体である。ある高校生は、「雨の日は嬉しい」という。コートで制服の偏差値が隠せるからだ。教育でも戦場でも「無名のものたち」は雑草として扱われているのだ。私たちの年代には、シュヴァルツコップといえ、魅力的なドイツの歌姫のイメージしかなかったが、今やシユワルツコフの米名はハイテク兵器工学と熊と血と知能指数170の神話付き司令官しか浮かばぬ不幸な時代なのだ。彼は言う。「死者の数を数えるのは我々の仕事じゃない。そんな事はほかに行っている」と。危い人はエリートにも一杯なのである。

### 3 世界の子供たちの今

死にたくない、殺したくない、死なせるのは嫌だ、という「無名のものたち」(エッグ・リントン)とその家族の思いは、エリートたちの始める戦争に雑草の如く踏みまじられる。聖書(旧約)は「剣を打ちかえて鋏くわとなせ」と教え、トルストイは「悪を以て悪に抗しないということ」を書き、ケーテ・コルビッツ



アルビン・エッグ・リントン  
「無名のものたち 1914」

は「種子を粉にしてはならない」を描く。フセインが描いた秩序は闇であつたが、ブッシュが戦争で作る「新秩序」も一寸先きはブッシュ(敷)なのである。ダブルスタンダード(二重基準)と力の勝利は、より新たな亀裂と失望と困難を生んだ。パレスチナの子供たちがどんなに苦境に立ったことか。戦火の中にミルクが欠乏しても、乳児のミルクさえ食料品だと国連の搬入を拒否した米側、救急措置ができずに死んだ子、…こうした現実、サダムの暴虐とともに裁かれねばならない。子供の武力紛争時の権利を保護する「子供の権利条約」38条でその罪過は明白だ。世界七十一か国首脳が出席した九〇年子供サミットでは、二千年に向けて乳児死亡率を三分の一、乳幼児死亡率を三分の一に、乳幼児栄養不良を半分に、妊産婦死亡率を半分に減らし、最低八〇%の子供に初等教育を、と計画している。その為必要な二百億ドルは、ベトナム戦争費千五百億ドル、「砂漠の嵐」作戦総額二千八百億ドル(米側資料)、日本の支援九〇億ドル、一日の空爆費二千五百万ドルから見れ

ば、一切の「正義」が吹飛ぶ少額なのだ。九一年世界子供白書では、病気で死亡する子供が毎年八百万人、九〇年代に一億三千万に達するという。

世界の戦費を五%削減するだけで、

世界の軍事費の十日分で、苦しむ少年少女たちを救うことができるのに。世界の子供たちが、今自分たちを苦しめている現実を率直に学び、未来に向かって意見を表明すべき時、教育の使命は自ら明らかだ。



ケーテ・コルピッツ  
「種子を粉にしてはならない」 1942

#### 4 動かぬ水は腐る

現実には確実に動く。動かぬ水は腐るほかない。

私が県教組教文担当専従だった一九六一年、県教委との交渉で、高校受験での発熱などの際の保健室受験が初めて実現した。

一九七二年には、障害者と健全者を同じ母集団で段階評価し、「1」を実技で割り振る不合理を行政差別と捉え、PT

A全員の署名を添え、県教委交渉した。その結果、障害者の入試差別を禁ずる各高校校長宛文書通達が出され、翌年映画で有名なサリドマイド禍の辻典子さんが、公立高被服科に入学できた。一九七四年には、給食、パンに添加される合成リジンの科学論争を職員会議で展開、給食の無期限ストップを決定。県はやっとリジン添加を廃止したが、他の添加剤が入る限り、保護者申請によるセンター給食自由化(弁当可)も決定した。一九八六年には、入試英語のヒアリングが加わったことで、難聴生徒の特別措置を要望して実現。一九八八年、全国的な問題となった丸刈り裁判で、中学生側証人として出廷。判決文は憲法違反とまで言えないという消極的なものだったが、保護者と私の証言に基き、「丸刈りを強制するに足る合理的理由はない」と判示した。私の赴任した学校は丸刈りだったので、社会科での人権学習を強化しながら生徒会討議を基本に、従来の丸刈り規則を撤廃した。そして今、不登校生の評価・受験・卒業認定について、ガイドラインを行政に示して交渉中である。

少年と少女たちが、自立し、この世に生まれてよかったと輝くために、私たちは困難なあらゆる条件を除去しなければならぬ。現実には既成事実ではない。理想は空想ではない。だから現実には理想によって動くのだ。再び言おう。動かぬ水は腐る、と。(＊ ニックネーム)

# 家族と家庭科

## ● 酒井はるみ

### 「家族」から「家庭」への大転換

—— 個人から団体へ ——

'56年中学校学習指導要領の「家族分野」は保育・家族と家庭看護になり、家族は前半部分の三分の一を占めるにとどまった。同年の高等学校学習指導要領で、家族は保育・家族という合併領域になり、家族への配当時間は大幅に減少した。また憲法二四条をふまえた両性間の愛情の重視は親になることを重視する家族観に変わった。さらに、この後'58年中学指導要領では家族領域は完全に姿を消してしまい、'60年高校要領でも同様に家族（関係）という領域は消え、家庭経営領域で、家族ではなく家庭や家庭生活が多用されるようになる。これらの変遷から、家族に関して二つのことを指摘しよう。一つは家庭科における家族の占める位置が大きく低下したことである。またもう一つは家族から家庭に用語を変える

ことで、従来の家族の内容を消し去り、新たな意味を付与しようとしたことである。

第一点に関しては、一月号でもふれたが、科学技術教育の振興で、家庭科の技術的・技能的な性格が強化されたため、家族は視野の外におしやられたといえるのかもしれない。だが、そればかりではなかったのではないか。この点は第二の点とともに、つぎのような疑問になってくる。

なぜ、この時期に民主主義の家族を教える領域が不要とされたのか。なぜ育児や休息・慰安という家族⇨家庭の機能が強調されるようになったのだろうか。

'56年の家族制度に関する意識調査によると、東京・戸山団地では五一・四％が新制度を、一六・〇％が旧制度を支持し、農村部の東京・西多摩郡では逆に新制度支持は二七・四％で旧制度支持が四二・六％であった。新憲法・改正民法十年の結果がこれである。家族の民主化への努力はまだまだ必要であることを物語っている。このような状況にあつて、家庭科教育にたずさわる人々は「現在の戸主と家族、姑と嫁などの人間関係は、目上と目下の従属関係が強く、人間の尊厳、男女の平等など、とんでもない」こととする現状が多く（産業教育研究連盟編『職業・家庭科教育の展望』'55年）、家族領域の継続を望んでいた。それにもかかわらず、家庭科から消えてしまったのだから、別のところに理由があるはずだ。

ところで、保守勢力は、56年の日本の独立以来、改憲運動をすすめてきた。「アメリカ帝國主義による日本の軍事的統合と日本のアメリカ帝國主義への国家的従属」(清水慎三『戦後革新勢力』)のもとで、吉田内閣は旧独占資本を核とする経済構造を再建し、これに対応させた内政に勢力を注いだ。その結果、教育を含む戦後民主主義の再編、いわゆる逆コース(反動化)をすすめたのである。

家族制度改革は、「二四条の規定は個人の尊厳と両性の本質的平等の二原理を掲げているのみで……苟も家庭なるものが存在する以上は家庭の平和、家族の幸福を目的とする第三の原理を表明すべきではなからうか」(改進黨)などにみられるように、新しい家族観は否定せず、ゆきすぎを改めるため、伝統的家族制度のよい部分を接合するもので、親子の義務、家庭の平和、家族の幸福、家族の和親結合などを盛りこもうとした(山手茂『現代日本の家族問題』)。しかし、個人の尊厳や両性の本質的平等は民主主義の原理であり、そこでは何よりも個人が尊重されるのに対し、接合したいのは家族全体なり家庭なりがまとまることで、いきおい個人の意向や個性は押さえざるをえない。つまり、盛りこもうとしたものは全く異質のもので、民主主義の原理を形骸化させるに他ならない性質のものなのであった。

家庭科が家族領域を教えることをやめたのは、保守派の家族政策の変更のためだったのである。個人が自分という顔をもたず、再び家族の中に埋没するためには、「家族」という個人からなる集団をあらわす用語はふさわしくない、個人が浮上しない、空間をも含む「家庭」という用語の方が合っている。そして、子育てとか、休息・慰安など家族Ⅱ家庭の機能へと視点を移すことにより、家族の理念を語らなくてもよくなったのである。そのような家族は教えない方がよい時代になっていたのである。

家族政策は変わった。為政者は家族の民主化をおさえ、団体としての安定性を強調しつつ、安定した家庭に様々な機能を課して、これを教える。そしてつぎのようなことを展覧してもいたのである。「国民が日本の平和的経済的自立など考えないで、盲目的な産業人として働くようになることを望んでいるのである」(産教連、前掲書)。家族が経済や政治に從属してゆくのである。

しかし一方で、この十年間の家庭科家族の蓄積は、たとえば次のような近代家族理念を支持する一文をうみ出したことを肝に銘じたい。「家庭生活の理想を『家族の人々みんながそれぞれ力いっぱい自由に活動でき、しかもお互いどうしなごやかに生活を共にするところにある』(前半部分、前月号)。

# 男性学への契機

魔男の宅急便

■ 諸 橋 泰 樹

## 異化するハンド天国

自動化し・制度化した日常をつきくずし、活性化する（＝異化する）ような仕掛けとは？。日常は、おおむね成人男性によって自明視された世界、男性のまなざしや行為に適合的な世界だから、それを異化するということとは、それ以外の人びとの視座を導入する、ということでもある。

目隠しをして街を手を引いてもらい探索するブラインド・ウォークをしたり、言葉や文字を使わずに伝え合うゲームなどを授業に取り入れて、自明視された学校空間を超えたいものだが、なかなか機会がない。街の音・匂い・手ざわり、風、坂道、段差や留置物、街や人のもつ表情の豊かさに気づくことは、ふだん我われが見ているものがいかに一面的か、視覚と定型的な言葉にたよっているばかりでありのままをみていないか、などについて教えられることでもあるからだ。

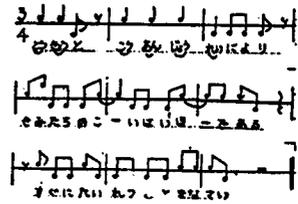
日常世界の「現実」がこうも違ってたちあらわれてくるものかという実感は、たとえば、車椅子に腰かけてみたときの視界、坐り込みをした時に回りに見える光景などからも得られる。通り慣れた道路や、広場といった人びとの移動と立ち止まりと寄り集まりのための公共スペースで、デモ行進や集会をして、歩き、立ち止まり、声をあげ、踊り、集う時にみえてくる景観にも、クルマで道路を走ったり、歩道を急ぎ足で目的地に向かったり、デパートでベンチに坐っているのとは違う異化効果があらわれる。ダイ・インもまた、土やコンクリートの地面にじかに接して自らの身体を横たえることによつて、ふだんは「観客」として「見る側」でしかなかった自分が舞台上で「見られる側」となる。この非日常性の中で、樹木や死者にアイデンティファイでき、時には警官隊や機動隊の濃紺のズボンと黒いブーツの脚の林立と白くにぶく光る盾の群れが容赦なく襲いかかるといふ権力の暴力に気づかされ、自らの生きていく鼓動に耳をすますこともできる、有益な身体的異化装置であると思う。ごろりと寝転ぶと、立っている人間、特に脚の林が大変に脅威に映じるものだが、ぼくがターミナル駅の地下通路を毎朝通る時に横たわっている人びとには、通勤者の脚のジャングルも、群衆の権力のように見えてはいないだろうか。デモ隊を足蹴にした脚や棘いた車と同じように、大挙して襲ってくる秩序維持の群れとして。

ぼくは、権力側が、手をつないで道幅一杯に拡がるフラン  
スデモやスクラムを組んで蛇行するジグザグデモ、地下広場  
での集会やコンサートなどを規制し弾圧したがるのは、少し  
視座や立場を変えてみるとたちまち見えてくる日常の欺瞞と  
秩序維持の管理性を発見すること、つまり「異化」を恐れて  
のことだと確信している。駅の地下広場は「通路」と呼び替  
えられ、道路はクルマ優先の政治・産業および人間殺傷と環  
境破壊の道具として、公園は単なる予算消化と緑化の既製事  
実の場として、みな本来の目的が剝奪されカムフラージュさ  
れている。その事実、立ち止まったり人と話をしたり、歌  
を歌ったり地べたに坐ったり、横並びで手をつないで歩いた  
り寝転んだりすることによって、人びとが気づくことを、権  
力側は危惧しているのだ。

だから権力は、人びとが公共物の本来の目的や使用価値に  
そった身体行動をとると、超強力スピーカーのついた濃紺の  
ジープの高みから、次のようなアナウンスをして、やめさせ  
ようとするわけである。

——東京都公安条例により、きみたちの行為は違法であ  
る。すぐに隊列をときなさい。

これを早口で語る機動隊員の、緊張感をあおり、得意そう  
で甲高い、独特のイントネーションは、譜のような具合にな  
る。それにしても何という紋切型であろうか。権力を持つ



者、すなわち今までの男たちの言葉  
は、よく言えば説得のことば、もつと  
事実、に即して言えば命令および処罰の  
ことばである。それが永い間政治的な  
いし教育的言語としてぼくたちを指図  
してきたし、コミュニケーションもそ  
ういうこと（上意下達）だと思ひ込ん  
でもきた。だから、日常を、異化しよ  
うとする人びとの身体的な言葉に対し  
ては、このような命令と処罰のドウカツ、空疎でステレオタ  
イプな頭で考えた政治的言語か直截な身体的暴力しか、権力  
のある者（男性には、思い浮かばないのであろう。考えてみ  
れば、男たちは、生徒に、妻に、会社の女性に、ずっとそう  
やってきたのではなかったらうか。しかもこの「呼びかけ」  
は、はなから「隊列をとく」ことなど期待していない。何百  
ワットもの拡声器を使つての一方的な言葉は、命令の形をと  
ることによって自分たちの権力を示威しながら、次にとりか  
かる暴力のための正当化の口実でしかない点でも対話拒否的  
である。

男の暴力的言説は、このようにしばしばあらわになる。こ  
ういった「本性」をあばく契機があるだけでも、異化する仕  
掛けに参加する楽しみは、やめられない。さあお手をどうぞ。

# 橋田の夢

## 続・静謐とらうじとじつて

武田 秀夫

人の出入りする学校の教室や私と向き合っている塾の部屋ではなく、人通りのまったく絶えた静かな道においてさえK君は耳を抑え何かをこらえるようにして行くことがあるのだと知った私は、それからのち、K君のその姿が気になって仕方なかった。なにかというとその日の情景が心に浮かんでくる。そうしているうちにそれはいつか宗教的寓意をこめた銅版画のようにさえなっていた。

真直ぐな道。黄葉した木々が息をひそめて落葉の瞬間を待っている。姿を見せない獣たちが、やはりその木立の奥で息をひそめている。静かな、しかし切迫した、そんな晩秋の道を、少年がひとり耳を抑えて歩いて行く。

K君が銅犬のさくらにおびえていっこうに馴れないことは前に書いたとおりだが、K君

に限らず、ことばがうまく出なかったりして私が一対一で教えてきた子どもたちの多くは、どういいうわけか小さな生き物にひどくおびえた。

先日も、養護学校高等部で元気にやっています、青梅マラソンにも出場しますとひさしぶりにたずねてきたN君は、玄関脇に犬の姿を見出すや猛烈な勢いで道路に逆戻りし、お母さんがいくら呼んでもこちらにやってくるとうしなかったし、今は通信制の高校に学んでいるS君のように、雀を見ただけで身体がすくんでしまう子どももいた。

一対一の授業を終え、お母さんの車に向かって玄関を出かかったS君は、雀が二、三羽、ちよんちよんと飛び跳ねながら餌をあさっているのを目ざとく見えます。と、それだけでもう大恐慌をきたし、送りに出た私の手に

しがみついてきたものだった。

「Sちゃん、大丈夫だから早くおいで」

お母さんがいくら車から声をかけてもS君はその場を動かさずとしない。結局私が、「大丈夫だよ。雀は君に何もひどいことをしやしないから」と車まで連れていくことになる。

雀ごときをこわがるなんてと私はおかしくて仕方ないが、S君は笑うどころではない。

必死に私の手を握りしめ、なおも無心に餌をあさる雀どもを横目でうかがいつつ、足をかくかくふるわせて車にたどりつく。大急ぎで車に乗りこみ、ドアをしめる。そのあわてぶりがまたおかし。くちびるの色まで失っている。

「まったく困ってしまいます、こんなふうで」とお母さんは笑う。

「この前も学校の遠足で鎌倉に行ったんですが、八幡宮の境内に入ったとたん、この子がスタスタとあらぬ方へ逃げ出したので、先生方は大あわてだったそうです。鳩がこわかったんですよ」

「鳩がねえ。どうして雀や鳩なんかがこわいんですかねえ」

「どうも、自分の予想をこえた、思いがけない動きをするものがこわいらしいんですよ」

「なるほど。雀はたしかに人間の思惑なんか考えないで勝手に動くからなあ。次の動きが予期できない。だから安心できない」

「そう。安心できないらしいんです」

そう言えば、私の娘がまだ小さかったころ、模型の汽車を買ってやったことがある。大喜びするだろうと愉しみにしていたのに、あにはからんや、汽笛を鳴らし白い煙を吐きながらおもちゃの汽車が走り出したとたん、娘たちは二人とも火のついたように泣き出し、大あわてでベッドの上にはい上がってしまった。

「大丈夫だよ。噛みつきやしないから。ほら」と汽車を二人の方に向けようものなら大変。激しい悲鳴を上げ、妻や私の胸にしがみついて離れようとしな。あまりのこわがりように私の方がびっくりしてしまったことがあるが、あのとときの娘たちもK君やN君、あるいはS君同様、自分の手で押しやれば動くミニ・カーとちがって、こちらの支配に従わず勝手に煙を吐きながら動きまわるそれが——端倪すべからざる動きをするそれが、世にも恐ろしい魔物と感じられたのだろう。

「そうなんですよ。うちのSも、先生の娘さんの小さいころと同じなんですよ、きつと。

ただ、普通だったらそうしたことにはすぐに馴れるのに、この子はとても時間がかかる。そういうことなんだろうと思います」

黄色い目をピカピカ光らせ白い煙を上げ、我がものの顔に部屋を走り回るそれ。そいつは、ポーポーと異様な声まで上げて真黒な、小犬ほどもある身体を運ぶ——。考えてみれば、それはたしかに、なにかしら剣呑な光景である。私たちは早くそうしたことに馴れてしまったが、よくよく考えてみれば、そうしたものに容易に馴れることのない感受性を持たされた存在というものがこの世にあったとしても不思議ではない。そうした感受性によって、日々のくらしは激しい変化に満ちたものであってはならず、時はゆっくりと歩むべきものなのである。

Weの夏のフォーラムで語られた最首悟さんのことばが思い出されてくる。

「バイタリティがある」と星子がまいってしまふということがある。まわりが活気づくと落ち込んでしまふ。バイタリティ、生命力等しい価値なんだろうが、あなたがそれを家庭にもち込めないというところがあります。もう少し静かな生活が欲しい。静かなくり返しが欲しい」

最首さんのこのことばは私に深い印象を残したが、私と一緒に始めてフォーラムに参加した娘の綾子も同様だったらしく、「私には最首さんの言っていることがいちばんよくわかったなあ」と、帰ってきてからもしきりに言っていた。

「高校二年のころの私は、ほんとうにそうだったもの。回りでワイワイやられると、静かにはうっておいてエーって叫びたくなったもの。星子さんと一緒だよ」

私はまた思い出す。K君が私に対して激しく怒りをぶつけたときのことを。最初のこと彼は、「狼と七匹の子山羊」をくりかえし読んでいた。それをある日、私が「そろそろ別の本を読もうよ」と『カラフト犬物語』を持ち出したところ、突然彼は手を上げてその本を机の上から払い落とし、耳のところに持っていた手を激しくヒラヒラさせながら、高く険しく何事かを叫んだ。発達ダカ成長ダカ知ラナイガ、進歩ダカばいたりていダカ知ラナイガ、ソツチノ勝手ナ価値観デ、コノ俺ノ静謐ヲ乱スナ！ 啓蒙ナンカンテクレルナ！ K君はあの時、そう叫んだのではなかったろうか。



え・加藤由美子

ぶん・福田 緑

— ウンコ・タイム —

「先生、早くう！」

「ちよつと待ってよ。先に連絡帳書きちゃうから」

「いいじゃない、あとだつてえ」

「だつて、タツちゃんとボール投げした後だ

と、先生の手がふるえちゃうんだもん」

「じゃ早く書いて！」

………

「まだ？」

「そんなにすぐ書けないよ」

「あと何行？」

「あと五行」

「早くしてよオ、まったく……。先生、オレ

ウンコしてくる。ね、時間はかつてて」

「よし、わかった。ヨイ・ドン!!」

タツちゃんは、元気一杯の男の子。でもはじめからこんなに元気だったわけではありません。最初の日は、ボンボンと私の質問に答えてくれたただけでした。タツちゃんは「ス

イカ」が「シェイカ」に、「えんぴつ」が「えんぴちゅ」になってしまいました。

「スー」「ツー」の息だけ出す練習、次にも出す練習へと進むうちに「ちゅ」が「つ」と言えるようになってきました。それとともに、残りの時間の遊びの中でもくやしがつたり、うれしそうに笑つたりするようになってきました。

二カ月ほど経つたある日のことです。たまたま近くにあったボールを手にしたタツちゃんは、私とボール投げを始めたのです。小さなからだに忍者のように動き、ビシッパシッとボールを投げてきます。こんなにボール投げの上手な二年生はなかなかいるものではありません。小学生時代から大の体育嫌いで、成績表が「2」だった私には歯が立ちません。タツちゃんは、ヘタクソな私を叱咤激励しながら「もっと強く投げてよ」「もっと、もっと」と要求してきます。

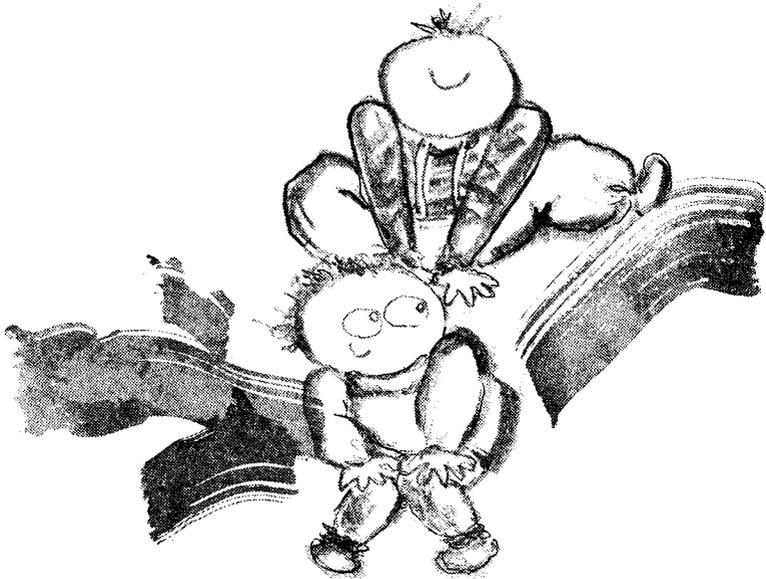
私はヘトヘトになりながら一生懸命投げる

のですが、何せヘナチヨコ球なのでタツちゃん  
は満足してくれません。最後にようやく「あ  
と一回ボクを当てたら終わり」と言ってくれ  
るので、死にもの狂いで当てたと思うと  
「いまのはなし」という具合です。やっと納  
得するあたりで終わってから連絡帳を書こう  
としたら、手が震えてしまってミミズがのた  
くったような字になってしまいました。

それ以後は、毎回ボール投げをしたくてム  
ズムズしているタツちゃんを何とかなだめす  
かして十分位発音の練習をし、急いで連絡帳  
を書いてからボール投げをクタクタになるま  
でやりました。

そんなある日、ストップウォッチで「ウン  
コ・タイム」を計ってくれと言われた時は笑  
ってしまいました。

初めて会った日のタツちゃんと、「先生、  
何分だったあ？」と、目を輝かせてトイレか  
ら戻ってくるタツちゃんとはまるで別人のよ  
うです。



## 登校拒否を考える会

〈奥地 圭子〉

年々調査のたびに数を更新している登校拒否ですが、当事者の子どもや家族はつらい思いをされていることが殆どです。学歴社会の日本で、学校に行かなくなることは、大変否定的にみられるからで、中には、思いつめて、自殺や子殺しまで起こっています。

登校拒否って何でしょうか。子どもが登校拒否したら、親や教師・まわりの大人たちは、どうしたらいいのでしょうか。孤立して、一人で悩んでいないで、仲間と出会って、学び合い、支え合い、状況をよくしていくために必要なことをやっていたら、という主旨で、七年前この会が生まれました。

会員数千名、年会費三千円です。会員には「登校拒否を考える会通信」が年十回程度送られ、例会に出席できなくても読んで学べる内容が色々載っています。

東京関係の例会ですが、月一回、第三日曜日に、講演とグループ懇談会を交互に行っています。子どもの部屋も用意します。出会って友達になったりしています。水曜日には電話相談を十時半〜四時半までやっています。夏には、合宿研究会も開きます。入会はお電話でどなたでもできます。

事務局・〒114 東京都北区東十条3-16-8

☎03-3914-6193

## 自己紹介ぶるうぶイキイキ

## にんじん文庫

〈梅村 浄〉

にんじん文庫は、一九八一年から、近所の子どもたちに、本の貸出しを始めました。絵本を中心に、読物、マンガなどごちゃまぜに置いてあります。初期のころは、本を読んだりおしゃべりをしたり、月一回の物づくり(とうふ・みそ・こんにゃく・石鹸・紙・はた織り・キャラメルなど)に、小学生を中心に、様々な子どもの出入りがありました。

年一回の夏のキャンプには、「障害」をもっている子どもも参加。どうやって、一緒に生活しあえるか、その年毎に工夫を重ねてきました。

昨年より、私が診療所を始めたので、それまで自宅の居間にあった本を、プレハブのにんじん文庫として独立させました。この一年間、診療所に来るお母さんと子どもが、帰りに絵本を借りていくことが多くなりました。読みかきせをする大人の側の関心から、絵本の会をもち、赤羽末吉・レオール・オーニなど、作家ごとに読みあわせをしています。「障害」をもっている子どもたちと、週一回のリズムあそびの会も、続けています。冬の間は、火の気のないプレハブは、静かでしたが、春の訪れとともに、また、子どもたちのたまり場として、にぎやかになっていくようです。

連絡先 〒188 田無市南町5-17-2 ☎0424-65-2481

# 買りて来りて使ひ

■山本謙吉

## 菜切庖丁

おなかがすいたから目が覚めるのか、目が覚めたからおなかがすくのかよくわからないが、いずれにしても、朝はごはんと味噌汁が僕は楽しみだ。

越してきて初めて迎える朝。けさはじゃがいもの味噌汁にしよう、と、いもの泥を落とそうとして、庖丁がないことに気がついた。まな板は友人が買ってくれた物があるのだけれど、これは困った。いもはそのままころがしておいて、夕方に庖丁を買いにゆくことにした。神戸・三宮高架下商店街の西の端、鯉川筋に面して金物店がある。ガラス越しに、のみ、かな、彫刻刀といった木工具、庖丁、はさみなど刃物が並んでいる。店内にも道具がぎっしりと陳列されており、ドキドキする。おばさんがふたり、客は僕だけ。さっそく庖丁を眺めていると、年配のおばさんが、「修業中ですか」と僕にたずねた。「いいえ、家で使ってます」と答えたが、はて、僕が見習い中の板前に見えたのだろうか。小学生のころ、台所に菜切庖丁があった。鈍色と鉄色の混ざったような鋼のその庖丁は、最初からそうであったのか、あるいは研ぎ込まれてそうだったのか、

刃の薄っぺらい庖丁だった。台所に行けばいつもあったその庖丁をおばあちゃんがトントンしている脇で、できあがったばかりのにしめのれんこんをよくつまみ食した。そんな懐かしさが菜切庖丁にはある。

修業中ですか、のおばさんは、「これくらいから使い始めはつたら」と言って、一番安いのをすすめてくれた。これで味噌汁がこしらえられる。

けさころがしておいたじゃがいもを拾ってきて皮をむいてみる。音無しくすべるように切れる。刃金の重みだけで切れているように感じる。鍋の中は交替の頃合らしくいいにおいがしてきた。茹だつた煮干が上がつて乱切りのじゃがいもが入ると鍋が静かになった。今のうちにまな板に水を流して庖丁をしまし。鋼の庖丁は錆びやすい。特に刃の根元から柄の中の見えない部分は錆びてもらっては困るので、乾いた布巾で念入りに水をとってやる。また鍋がうなりだした。知らん顔して刃金をにらんでから引き出しをあげ、そろっと菜切庖丁をねかせてしまっておいた。わっ／＼泡の山／＼ 慌ててびっくり水をさした。やれやれ次は味噌を……

庖の字には、台所とか調理場という意味があります。  
(宝塚市伊子志一—四—四三—一五にすむ山本謙吉)

## 「立ち止まる子」の可能性



波

半田たつ子

小田急喜多見駅から三分、医院の一階のしやれたスタジオに、10代の少年少女たちが元氣よく集まってくる。ここは保坂展人氏が開いた「熱血創造・保坂展人塾」だ。一九七二年、「内申書裁判」を起こした保坂さんらしい命名。彼のメッセージに、意気込みがみなぎる。

「人間には誰でも可能性がある。

その可能性は、短い思春期の時期にどんな出合いのチャンスがあるかによって、大きくふくらむこともある。しぼんでしまうこと

もある。

今、学校で傷ついたり、はてしない点数競争の前で立ち止まっている子は多い。学校に行っている、行っていないの『形』はどうであれ、ぼくは今『立ち止まる子』の可能性に注目している。なぜなら第一に、ぼく自身が14歳(中2)の頃に学校と衝突して『立ち止まる』体験をもっているからだ。その後、20歳の時に青生舎を設立し、若者の自己表現として16年間続けてきた。

「熱血創造・保坂展人塾」では、ぼく自身が20年間をかけて作り続けてきた(文章)〈発想〉〈創造〉の全テクニクを参加者にプレゼントすると共に、すぐれたゲストを招いて楽しくゆかいな時間をともにすごしたいと思っ

ている。

ぜひ、ふるって参加して下さい!

塾の日程は、一月十二日から三月三十日までの毎週土曜日の午後、学校に行っている子も行っていない子も参加できるように、三時から五時半までとし、全十二回。うち六回は保坂さんが担当し、他は縄文文化研究家、漫画家、フランメンコアーティストなどを招く。

私が訪ねた二月二十三日は、今日オーストラリアから帰国した保坂さんが、撮ってきた

ビデオを見せ、地球儀を回しながら語った。

「今回の旅は、土井たか子元氣大賞」を受賞し、そのごほうびでオーストラリアに行った西川君と森川さんを訪ねるのが目的だった。

二人とも18歳。西川君は彼の地で牛乳パックを使った紙すきをやりたかったし、森川さんは広島出身だから、核の問題を訴えたかった。

二人はハイスクールも訪ねて交歓の時を持った。西川君は紙すきの授業もしたが、家庭科室にミキサーがなかったので、実演できず残念がっていた。皆で「タスマニア物語」のタスマニアに出かけようと衆議一決。タスマニアは北海道位の大きさ、オーストラリア本土よりも緑が多く、乾燥している。ここでは、動物と自然を考えさせられた。さまざまなお動物が、一日に百匹位、車にはねられて死ぬ。その死骸を片づけながら島を縦走した。

オーストラリアには、年間四〇〇万人日本人が訪れているが、旅行中一人も会わなかった。日本人はお定まりの場所に群れているだけで、原地の人たちに心を開かない。若者二人は、コアラと遊び、ゴーストタウンを訪ね、元氣いっぱい、色んな所を飛び歩いた。

僕も18歳頃、無性に旅がしたかった。片道の旅費二万円を懐に北海道に行った。向うで

新聞配達でもするつもりで。共同保育所に半年住み込んで小さい子をあやし、農家でも一月働いた。車の免許をとり、北海道から帰ってからは、長野のレタス農家で働いた。

20歳で青生舎を作ったが一年半位で、みんなのリズムと合わず、歯がゆくなった。そこで荷物をまとめて沖繩に行き、自分の必要な島を探そうとした。

沖繩の心を歌う歌い手の店でライブに感動した。それは内地に帰る三日前。予定を延ばすか、さんざん迷った。二か月位の旅だったが、沖繩行きが僕の人生を変えた。西川君森川さんもオーストラリア体験はきつとこれからの自分をつくる糧になるだろう。

僕の息子は六歳、この四月に一年生になる。あいうえおだけは、読めて書けるように、と学校から言われている。ニュージールランドの小学校では、六歳の誕生日に入學する。当然、学習進度がまちまちで、学校はやりにくいだろうが、そんなこと問題外らしい。クラスの人数が多く日本では、考えられないが。

さあ、*「旅」*について文章を書いてみよう。旅は、自分にこだわっていると書けないよ」「ああ、きれいな」「かわいいソ」「いいなア」

など声をあげながら、ビデオに見入り、話に聞き入っていた少女たちは、配られた紙にサラサラとペンを走らす。一点をじいっと見詰める沈黙黙考型も。保坂さんは、ハミルトンで買ったタスマニアの民芸品を配る。

今日来た塾生は13人、男女は半々。学校に行っている子、行っていない子も半々だという。先週は「世の中の不思議学」、来週は保坂さんのお父様武義氏による「現代版『連歌あそび』」。武義氏は、私に続いてスタジオに入ってから、令息の話に耳を傾けられた。子どもたちの様子を見て、講義を練るそうだ。

保坂さんは言う。「週三回位で長期にわたる学校っぽいやり方にもひかれるが、学校には付帯しないことに時間とお金を割く親子がどの位あるか、つかめなかった。まず『セブンティーン』『明星』に記事を出したが、電話の問い合せはあっても申込みにはつながらない。朝日新聞に記事が出て、申し込みが始まった。週一回のピアノや英語のお稽古ごとなどの位月謝を出すかを基準に十二回で二万四千円とし、22人の申込みがあった。

ここに子供を行かせようとした親も、来たかと思つた子も、保坂塾に行けば国語の成績が上がる、という期待はしていない。僕は、

学歴社会の裏をかき、抜け穴を作ろうとしているが、学歴社会に媚びるのでなければ、教科の学習を加えてもいいと思つている」と。

保坂塾では「楽しく面白く文章に親しみ、熱血的にモノを創造する」がモットー。だから毎回文章を書き、文集にまとめる。保坂さんを慕う少年少女たちの一人を紹介しよう。

「(前略)グツグツと煮えたぎる自分の中に、恐る恐るハシをつつ込んで何かをつかみ出してみる。そうして私という鍋の中からつかみ出されてくるものといったら、ごく平凡な感情から普通では考えられないものまで、涙であつたり、笑いであつたり、苦しかったり甘かったり、本当にさまざまなのです。

そんな自分自身に、ずいぶん悩まされて生きてきたけど……私の中から出てくるそれは、良いものにせよ悪いものにせよ、全て私の中にあるものだから、恐がらずに全て受け止めようと思つてからはずいぶん楽になりました。まだまだ自分の中に何が眠っているかわからない。またこの闇鍋がグツグツ、グツグツと言ひ出した時は恐れずに自分の中にハシをつつ込んで、グツグツ、グツグツと煮えたぎっていた何かを精一杯受け止めようと思ひます。(後略)」(小林江利奈)

## 今月の 読書から



半田 たつ子

高野 生  
『追い風に吹かれて』  
朝日新聞社刊

小学校入学時から登校拒否を続け、中学中退後単身アフリカに渡った高野生少年のことは、いつも心にかかっていた。『敗者よ再び挑戦者たれ』、『15歳、マイナスからの旅立ち』、『20歳のバイブル・北朝鮮の200日』と、常に歴史を素手で切り拓く生き方を選択してきた少年は、『18歳、リング無き10代たちへ』と呼びかけたメッセージマガジン『ヒストリーズラン』も出した。それらの挑戦は、いつも敗北だった、と彼は言う。

その彼が、都議選、衆議院選と、日本社会党で働いた。時給七〇〇円のアルバイトで。第二次大戦はもちろん、東京オリンピックも、高度成長も、学生運動も知らず、政治が嫌

い、政治家が嫌いな彼が、東京四区で……。

リアルな選挙戦の描写よりも、私は、彼と彼の同世代の若者との会話にひきつけられた。五つの信販会社から百万円以上借り、優雅な服装をして宝石を埋め込んだ時計をはめ、マクドナルドの「サンキュー・セット」をバクつくヤスタカ。シカゴの高校に留学していたひろみは、自分を大切にするなら、傷つく日本に無理して住むことはないと言う。彼女はこれからニューヨークで母親の友人の家に下宿し、政治を学ぶ予定だ。自動車教習所で出会った中国人の女子学生は、国家として、党として、民族としてこうあるべきだということよりも、わたしはわたしをしっかりと生きたい。だから国には帰らない、帰りたくない、と言う……。

そして25歳になった高野さんは？

「70年代から80年代の混沌に10代であった人々よ、我々はもう世界の子供達から地球の未来を問われる父母の世代になったのだ。できることは、やろう。それは無数にある。新しい生命に対してリベラルに、古い状況に対してはラディカルになるろう。自分が生きている歴史に誇りをもちたいと願う者は、人類の戦いに参加してほしい」と。

「東京シューレ」の子どもたち

「学校に行かない僕から」

学校に行かない君へ」

奥地 圭子

『東京シューレ物語』

ともに教育史料出版会刊

小学校の教師だった奥地圭子さんが、学校に行かない子どもたちの居場所として「東京シューレ」を作って五年。そのまことに試行錯誤の日々を語る『東京シューレ物語』。教師のまもった衣を一枚ずつはいでいく奥地さんの姿が、実にはすがすがしい。それを彼女は「子ども達に導かれつつ」と書いている。今「子ども達とつきあう日々の幸せ」とさりげなく言えるまでの苦闘のさまは何のてらいもなく、胸を打つ。

その子どもたち——「大人は憲法第二二条職業選択の自由アハハーンを振りかざして、堂々と愛想のつきた会社を辞めることが出来ますが、なぜ子どもは堂々と愛想のつきた学校を辞める事が許されないでしょう」と。この問いに答えられる大人がいるだろうか？ 本屋に並ぶ本物の本を作った彼らは言う。

「最初は出来ないと思ってても、やってみれば意外出来る事っていうのはあるもんですね」。

横川和夫／保坂渉

『かげろうの家』

共同通信社刊

89年三月、女子高生を四十一日間にわたって監禁し、性暴力によって惨殺した上、遺体をコンクリート詰めにして捨てた事件、世を震憾させたあの事件を起こした四人の少年は、どのように生い立ち、父子・母子関係を持っていたか、また学校とのかかわりは？ 共同通信の二記者が、少年たちと家族の法廷での証言を中心に、48回にわたって新聞に連載、大きな反響を呼んだ記事に加筆したもの。

わが家の二階に女子高生が監禁されていたことを知らなかった父親が、法廷で、家庭や育児のことを母親に任せっきりにしていたことを認め、がっくり肩を落とした。この時、筆者は自分の姿が彼とダブリ、自分が証言台に立たされても、同じ答えしかできなかったのだらうとゾッとすると、正直に書いている。四人の少年たちの家庭は、いろいろな意味で、現代の日本の家庭を象徴する。また、学校の教師が彼らを切り捨てたありようも、現代社会のひずみそのものである。これが、取材を進める中で筆者らがかんた核心であった。

丸山友岐子他

『女子高生コンクリート詰め殺人事件』

社会評論社刊

「彼女のくやしさがわかりますか」と副題にある。『かげろうの家』は、記者、父親という男の目で記してあり、女子高生については「人権問題に配慮し」、まったく触れていない。これに対して、本書は、被害に合った女子高生の目で全マスコミ報道をチェックした。

私たちは「報道された犯罪事件（社会的政治的事件も）」を物を考える出発点にせざるを得ない。その情報が、性的偏見について無配慮だったら……。著者らは、同性としての深い悲しみと憤りをもって、少女はマスコミにより、さらにおとしめられ、けがされたと告発する。

三月八日、国際婦人デーに、ミモザ賞を贈られた丸山さんは「事件の報道のすべてを読み返すうちに、少女の霊が乗り移ったかのよう、毎夜二時、三時まで夢中になって書いた」と言われた。この本の印税は、少女の死を永久に忘れないため、「女の人権基金」として積み立て、報道被害に泣く人びとの支援にあてる、という。報道被害に対するアメリカ・イギリス・日本の市民運動の紹介もある。

魔女っ子くらぶ

『女だから』のふしぎ』

発行／逋書房 発売／青雲社

「がんばれ女の子シリーズ」その①、10代の少女たちに、なんとも愉快な応援歌が生まれたヨ。文も絵も、キミのフィードバックにピッタシ。I学校ってボーイファースト？ では、先生たちの「女の子応援度」をチェックし、IIあなたの家はバラダイス？ では、「正しい口答え」をススめる。IIIへんだな、ザ・ワールドでは、魔女っ子メガネで世の中見てみよう。チャーんとヘンがヘンに見えるから、と。

シリーズは「ロマンチック大好き？・愛と性のおはなし」「ウエディングベルのむこうに・結婚？ キャリア？ それとも……？」と続くとのこと、うれしいネ。

魔女っ子くらぶとは、やさしいおばあちゃん魔女駒野陽子、行動派のしっかり魔女坂本ななえ、にぎやか魔女長谷川美子、おっとり魔女村田晶子さんのこと。

「女だら」 「女のくせに」 こんな言葉をなくしちゃおう。それにはキミが、クヨクヨしたりガマンしたり……にサヨナラして、この本読んで、元氣モリモリになること、ネ。

# 泉

この頁はあなたと私の情報交換の場  
小さなスペースですが、ご利用ください。

## ◆東京都、新たな行動計画を策定

このほど、東京都は「女性問題解決のための東京都行動計画—二十一世紀へ—男女平等推進とうきょうプラン—」を策定しました。都は、'78年に「婦人問題解決のための東京都行動計画」、'83年には「婦人問題解決のための新東京都行動計画」を策定し、多くの女性関係施策を実施してきましたが、今後の都政における女性関係施策の一層の推進を図るため、新たな行動計画を策定したものです。

女性問題解決のための課題を次の五項とし  
I 男女平等観に立った人間形成の推進と社会的風土づくり

II 働く権利の保障と労働の場における男女平等の確保

III 高齢化社会に向けての福祉の向上と健康の保持・増進

IV 国際社会への参画と連帯の推進

## V 社会参加から参画への転換

I では、ひき続き中学校「技術・家庭」の男女共通履修、高校「家庭」の男女必履修の推進に向けて、学習内容・指導方法の検討充実をはかる他、新事業として次をあげています。★私立学校への男女平等教育に対する情報の提供★生涯学習情報センターでの情報提供★社会教育・体育・文化施設における保育機能の充実★「東京都女性白書」（仮称）の発行★男女平等へのみちすじガイドラインの作成★女性問題に関するマスコミとの懇談会の開催★講師養成講座「女性問題科」の設置

。問合先 東京都新宿区西新宿二ノ八ノ一  
東京都生活文化局婦人青少年部婦人計画課  
TEL 03-3389-3189

## ◆朝鮮映画祭'91

この地球上で日本のパスポートを持って訪れることのできない唯一の外国「朝鮮」。

「最も近くて遠い不思議の国」と多くの日本人に認識され、今まで一度も日本で公開されなかつた六十年代・七十年代・八十年代の代表的な朝鮮映画を紹介する初めての映画祭です。朝鮮の代表的な映画七本（劇場未公開）を一挙にパッケージ公開し、映画祭の期間中に、朝鮮からゲストを迎えてシンポジウムを

行います。

。上映作品の中には、本誌'90年十一月号「私の朝鮮史」で岡百合子さんの紹介した「安重根と伊藤博文」などもあります。

。日時・場所へ大阪▽五月十八日(土)〜六月十四日(金) / シネマ・ヴェリテ TEL 06-361-4310  
。京都 六月二十二日(土)〜七月五日(金)  
。京都朝日シネマ TEL 075-265-6760

。料金・毎回入替制 当日千六百元・前売千三百円

。問合先 〒167 東京都杉並区井草三ノ二二  
二ノ三 ニュー井草ハイム101 ジェイ・フィルム内 TEL 03-3399-0526 貞末・船見まで

## ◆オットコ一座「寸劇」の出張・出前案内

「男の子育てを考える会」では、十年位前から活動の一環として、会の主張を盛り込んだいくつかの「寸劇」を上演して来ました。

今回、いよいよ本腰を入れて「寸劇出前全国キャラバン」に取り組み事になりました。全国どこへでも、声がかかれば駆けつけます。上演をきっかけに新しい出会いを!!

。問合先 男の子育てを考える会「オットコ一座」係

〒184 小金井市本町三ノ十一ノ十八  
星矢付 TEL 0423-81-5327

## わたくしから あなたに



◆日ざしの中にも春の気配が感じられるようになりました。家庭一般男女必修も、あと三年後。家庭科にとつての春ももうすぐそこです。高校の教員になって六年目。千葉県では経験者研修（五年）があり、研修の一貫として研究授業をすることになりました。授業は、三年生選択の食物（女子22名）で、「食器」について取り上げました。研究授業が終わり、ホッとしていた時、We 12月号「食べもの文化史」で、秋岡芳夫さんの「食器の買い方、選び方」の紹介があり、あっと驚きました。実は、私も秋岡さんのこの本を参考して、授業をしたのです。調理室にある汁椀のプロポーションをはかったり、一咫の長さを生徒一人一人がはかったり。いつもは授業にのせることに苦労している生徒たちが、積極的に授業にのってくれました。食器から日本文化に

ついて考える機会を、この本は与えてくれました。授業の教材研究のために、何度も読み返したこの本を、Weの中に見付け、うれしくなってつい書いてしまいました。三年後の男女必修にそなえ、選択食物を91年度から男女共修で行います。（千葉・中山雪江）

◆帰国後半年、本棚にたまっているWe等を、外出ごとにバッグに入れて、車内で読む日々です。一月号「波」の「次のステップ」は、

殊にうなずきながら読みました。私もアメリカに留学中「家事労働が簡単なこと」が、性別役割流動化といかに深くかわるかを実感しました。ただ「アメリカ風の簡略な暮らしは、生活文化という意味で私にはわびしい」という言葉には「オヤッ？」と思ひ「私は別のゆたかさを感じたな」と思ったのです。そして、実は私にとつての「次のステップが見えてきた」アメリカ滞在の記録を、より多くの方々と分かち合う方法はないものか、と思ひました。（川崎・山口里子）

◆We二・三月号を子どもたちに渡しました。みな、とても喜んでいました。なかには、自由の森の柴崎和恵さんの文章をチラッと見て「これはキケンな本とちがうん」と言った子どももいました。なかなかスルドくWeの本質

を見ぬいていました。（堺・村上邦彦）

◆寒のうちは、マイナス10度を越える朝が多く、台所の野菜が凍りますので、凍らないように冷蔵庫にしまおう。家のほうが冷凍庫、という状態です。

長い間、本当にお世話になりました。いずれまとめるつもりで、ズルズルと余分なこと書いておりましたが、そんな機会をお与え下さいまして、感謝しています。

断わりきれずに、講師として再び学校へ出はじめたということもあって、相変わらず忙しがっております。仕事をさせて下さることは、ありがたいことでもあります……。94年に共学の授業が始まるまでは、がんばらなといけませんね。

足もとでくたくたく寝ている拾い猫の寝姿を見ながら、ペルシャ湾の原油流失で、油にまみれた水鳥の姿を思い浮かべて、人間とおろかしい動物だと思ひことしきりでした。（長野・湯沢静江）

◆オレンジページ・Weの問題、うまく片付いてなによりでした。100号後の取り組みで気力を充実させておられることと存じ上げます。どうぞおたいていせつに。

（相模原・長谷川孝）



# 十 字 路



〈埼玉〉新視点前面にゴルフ場反対―自由の  
森学園の学習環境権訴訟（毎日2/23）

「僕たちの学習環境権を守ろう」――。二十  
二日浦和地裁川越支部に飯能市小岩井、自由  
の森学園の生徒、父母らが出した「西武飯能  
カントリー倶楽部」の工事差し止め仮処分申  
請は、学習環境権の保障という新しい視点で  
ゴルフ場反対を訴えた。

同ゴルフ場は、八九年六月に県から開発許  
可を受け、約一四〇ヘクタール、18ホールを  
造成中。同校をU字型に取り囲む形で計画さ  
れている。学習環境権は、憲法一三条（幸福  
追求権）および、二六条第一項（教育を受け  
る権利）で保障された学習権が、その中に含  
む学習環境を奪われない権利としている。

（長谷川宏）

〈神奈川〉教授辞職で横浜市議会 点検体制  
問う発言（読売2/20）

横浜市大医学部で医療機器の機種選定にか  
かわっていた教授（56）が突然辞職していた  
問題に絡み、十九日開かれた市議会企財総務  
委員会で、一部委員から医療機器購入につい  
ての市大及び市のチェック体制のあり方を問

う発言があった。特に、辞職した教授が病院  
内で機種選定に関係する二つの組織（医療機  
器検討部会と機種選定委員会）の委員を兼ね  
ていたことについて、「避けるべき」との指  
摘があり、また、「機種選定に当たっては、  
市だけでなく、例えば衛生局でもチェック  
する体制が必要ではないか」などの意見も出  
た。

（青木昭美）

〈宮城〉消える米飯・パン給食（河北新報3  
/17）

気仙沼市の学校給食が、新年度からおかず  
だけの副食給食に変わることになり、教育関  
係者の間に波紋を広げている。パンと米飯の  
主食を納入している業者が「子供の数の減少  
などから採算が合わない」などを理由に、給  
食業務から手を引いたためで、同市教委は来  
年度一年間は児童、生徒に主食を持参しても  
らうことにした。業者の都合で完全給食が簡  
単に崩れた例は県内では珍しく、今後尾を引  
きそうだ。

（小野七瀬）

〈和歌山〉備長炭守ればホタル繁殖（朝日3  
/6）

「備長炭の生産を振興するとホタルが生息で

きる」――田辺市秋津川、市立秋津中学校の  
朝井正喜教頭（47）は一昨年六月から一年半  
にわたって秋津川地区でホタルの実態を調査  
した結果、こんな報告をまとめた。同教頭は  
「保水力のある雑木林の存在はホタルにとっ  
て絶対条件。この地区は昔から備長炭の生産  
地でウバメガシなど炭の材料になる雑木林が  
豊富に残っている。だから備長炭の生産を守  
り、人工的に水を汚さない限り、ここではち  
よっと配慮すればホタルが守れる」と話して  
いる。

地場産品の備長炭を打楽器にしてユニーク  
な教育をしている同中学校は今年からこの研  
究報告をもとに、打楽器教育を継続させるこ  
とと、ホタルの観賞会を一連のものとする教  
育を考える、という。

（雑賀寛子）

〈京都〉「日本の過去 思わずにおれぬ」―  
西本願寺、戦争責任を告白（朝日2/28）

湾岸戦争をきっかけに、浄土真宗本願寺派  
（本山・西本願寺、京都市下京区）が、二十  
七日開いた宗会で、先の太平洋戦争に協力し  
た宗門の戦争責任を告白する決議をした。

決議は、湾岸戦争について「かつて米国を

中心とする連合軍を相手として太平洋戦争を引き起こした悲しい日本の過去を思わずにはおれない」と表明。太平洋戦争を「聖戦」と位置付け、「戦時教学」や「報国法要」で門徒を戦争に駆り立てた宗門の責任について「軍部を中心とした国家の圧力があつたといえ、結果的に戦争に協力したこと、また教学的にも、浄土真宗の本質を見失わせた事実も仏祖に対して深く懺悔しなければならぬ」としている。（塚崎美和子）

〔大阪〕海外合弁企業の放射性廃棄物投棄―「公害輸出」と内部告発（毎日2/13）

マレーシアのイポー市郊外で操業する三菱化成（本社・東京）の合弁企業エイシアン・レア・アース社が、放射性トリウム廃棄物を野ざらし投棄、住民に深刻な健康被害が出ているとされる問題で、三菱化成の女性社員が公害輸出を「内部告発」、列島縦断キャンペーンに乗り出す。

この女性は同社黒崎工場勤務の村田和子さん（44）。村田さんは黒崎工場に二十五年間勤務。市民グループ「アジア・女・北九州」の代表でもあり、昨年四月に現地を視察、白血

病で死んだ子供たちの親から「お金はいらない。操業を止めてほしい」と訴えられ、「内部告発」の意思を固めたという。

生ごみから肥料―地域ぐるみ有効利用（朝日2/13）

松原市若林町の住民が地域ぐるみで生ごみの有効利用に取り組んでいる。きっかけは、市が町内に計画した焼却場建設をめぐる反対運動だった。「ただ反対するだけでなく、自らもごみを減らそう」と生ごみを肥料に変える共同のたい肥センターをつくって、今年で十四年目。収集は毎週土曜日。軽トラが道路に出された生ごみをたい肥センターに運び込む。市のごみ収集日に、生ごみがほとんど出なくなったという。

できた肥料は近くの水田約四十アールに使われる。化学肥料を使う町内の水田に比べて約一割収穫量が多いという。（黒田智一）

〔沖繩〕「白旗の少女」大学を卒業（琉球新報3/17）  
沖繩大学（佐久川政一学長）の九〇年度卒業式が十六日午前、同大で行われ六百六十四人が卒業した。その中に「白旗の少女」とし

て知られる比嘉富子さん（53）の姿もあった。比嘉さんは銀行に勤めながら泊高校通信制で学び八五年、沖繩短大部英語科2部に入学、八七年、同科を卒業後、同大法経学部法学科2部に編入学した。

沖繩戦のさ中、白旗を掲げ米軍に投降する「白旗の少女」の姿は、七七年、琉球新報紙上に連載され、のち出版された『これが沖繩戦だ』（大田昌秀著）の中で初めて登場。八七年、当時七歳だった少女は比嘉さんであることが明らかになり、たちまち時代の人に。

比嘉さんは戦争体験を通じた講演、戦跡ガイドなど「平和行脚」を続け、平和の大切さを訴えた。しかし、家庭と学業の両立、マスコミとの対応の中、多忙のあまり八八年夏に休学、一時は学業を断念しかけたが、八九年春、復学。比嘉さんは「平和を考える中で、自分の体験だけでなく、沖繩戦全体にも関心を持ち、学ぶようになった。また、法律を学んだことで私たちの暮らしと法律の関連を知ることができた」と、曲折を経た卒業に感慨深い様子だった。（大嶺麗子）



## 十字路



★育児休業、1歳まで認める

労働省は14日、民間労働者に育児休業の請求権を認める育児休業法案の要綱をまとめ、労相の諮問機関である婦人少年問題審議会（渡辺道子会長）に諮問した。法案要綱は①労働者（男女）は子どもが1歳になるまで休業することができる ②事業主は育児休業の取得を理由に解雇することができない、ことを明記したのが最大の特徴。ただ、焦点の休業中の所得保障は盛り込まれず、罰則規定も見送られた。同省は20日にも答申を得て法案を参院先議で今国会に提出する。ただ、代替要員の確保が困難な従業員30人以下の事業所については3年間法律の適用を猶予するとしており、来年の4月の施行を目指す同法の適用者は、全労働者の半数程度にとどまる見通しだ。（3.14日付 読売）

★単身赴任は人権侵害

「単身赴任は家族と一緒に生活する権利を妨げ、人権侵害にあたる」——東京弁護士会（山田茂会長）は11日、単身赴任して4年になる（財）鉄道総合技術研究所の職員の人権救済の申し立てを認め、同研究所に対し「速やかに家族と同居することが可能な勤務地に配置する」よう求める勧告を行った。同弁護士会によると、単身赴任状態を人権侵害と認めたのは初のケース。弁護士会による勧告は強制力を持たないが、「家族が共に生活する権利」を大きくクローズアップした勧告内容は、単身赴任族の共感を呼びそうだ。（3.12日付 読売）

★セクハラ、氏名公示や懲役も

セクシュアル・ハラスメント問題を調査、研究している第2東京弁護士会（加藤康夫会長）が11日、「性的嫌がらせの防止に関する法律案要綱（試案）」を作成、今月中に政府や各政党などに提出し、同問題に対する法制度化を要請する。同要綱は「性的嫌がらせの定義」「救済機関及び救済方法」「罰則」など7条で構成。職場で性的要求を拒否したことから雇用上の不利益を被ったり、

性的な言動などで不快の念を味わわされている場合、「特別委員会」に救済を申し立てられると規定。同委員会はこれに基づき、嫌がらせの相手方に中止勧告をしたり、使用者を通じて配転勧告をすることができ、最終的な命令に従わなかった場合には、氏名、処分内容を官報に載せたり、懲役刑を含む刑罰を科すこともできる。（3.12日付 読売）

★「女の職場」へ「男」も

社会の高齢化に伴い看護婦らの人手不足が深刻化していることに関して、厚生省の保健医療・福祉マンパワー対策本部（本部長・坂本龍彦事務次官）は18日、2000年までに約120万人の労働力が必要とする中間報告をまとめた。若年労働者そのものが減少しているため、放置すれば極めて深刻な事態になりかねないとして、これまで女性が中心であった職場への男性の導入や、給与の引き上げが必要と、大きな方向転換を「宣言」している。（3.19日付 朝日）

★開発援助の見直しを！

政府開発援助（ODA）に女性の視点をと、国際協力事業団（JICA）の「開発と女性」援助研究会（座長代行、目黒依子上智大教授）は金額は世界一の「援助大国」の日本が、援助の企画から評価まで、すべての過程に女性が参加すべきだという提言をまとめた。しかし、日本の巨額の援助が相手国の女性にどのような影響を与えてきたかという点検がなされていず、第三世界の女性にどれだけ役立っているのか、本当の意味での援助を問う批判もでている。「開発と女性」の実行には「企業利益や国益優先」と批判が強いODA全体の改革が必要と、市民グループは「ODA市民憲章」をつくって、公開の原則、平和・人権・民主主義・環境保全の原則などを求めている。日本の場合、女性団体も開発・援助への関心が薄いのが実情で、市民による監視を今後、どう強めていくかが課題という。（3.6日付 朝日）

## ★女性兵士の本格的進出で進む「平等化」

今回の湾岸戦争では、これまでに多く多くの女性兵士が作戦に参加し、補給や修理操縦、医療などで重要な役割を果たしたが、この数は、3万2千人近くに上るといわれる。昨年NOWがまとめた調査では、女性兵士は米軍全兵力の10.8%。空軍の13.5%を最高に、海兵隊の4.9%まで、各軍に及んでいる。

さる1月、ニューヨーク・タイムズとCBSテレビが行った世論調査では実に72%が女性の戦闘配備に賛成した。また、「シングル・ペアレントおよび、乳幼児を抱える兵士を戦闘配備から除外すべきだ」との法案が地上戦直前に議会に提出されたものの「子供を持たない兵士への差別だ」との反対の声が上がり、葬りさらされた。

徴兵制下のベトナム戦争では、男性といえども、乳飲み子を抱える人を徴兵対象からはすすなどの考慮が払われた。しかし今回の湾岸戦争では、すべてが「職業軍人」と見なされるだけに、こうした優遇措置はなく、子供を孤児にしかねないという危険を背負って湾岸へと出兵した兵士は少なくとも、女性の進出、家族形態の変化など、米社会が投影される問題が浮き彫りになったが、流れは「言い訳無用の平等」という方向に向かい始めているとの見方も。(3.12日付 読売)

## ★連邦制維持を問う国民投票

ソ連邦の維持を問う国民投票は18日夕までの開票の結果、モスクワ、レニングラードで賛成票が過半数ぎりぎり、ウクライナ共和国の首都キエフでは44%と5割を切るなど、主要3都市で低い賛成率にとどまった。しかし、中央アジアの共和国を中心に連邦支持票が圧倒的な高率を占めており、連邦全体での過半数獲得は確実で、ゴルバチョフ大統領がめざす刷新された連邦の構想は一応の信任を得ることにはなる。しかし、政治意識の高い大都市での低い賛成率は、大統領構想に批判と注文を突き付けることになった。(3.19日付 朝日)

## ★学習成績、絶対評価中心に

小・中学校の通知表(通信簿)などのもとなる指導要録の改善を検討していた文部省の調査研究協力者会議(主査・奥田真丈東京都立教育研究所長)は13日、児童生徒の成績評価について、クラスや学年の中での位置を示す従来の相対評価から、それぞれの子供が学習目標にどこまで到達しているかをみる絶対評価中心への転換を主眼とする報告をまとめた。小学校の低学年では戦後初めて相対評価を廃止、中・高学年でも現行の5段階評定を3段階に緩和する。

この結果、「絶対評価が基本、相対評価は補完」に理念が逆転する。また、学習状況や行動などを記述する「所見・欄などでは基本的に従来のマイナス評価をやめ、長所を積極的に記述する形に改める。文部省は中学校は91年度入学者から、小学校は92年度から全学年で、この新様式の指導要録に切り替えることにしており、各校の通知表や、日常の指導にも影響を与えそうだ。

また、プライバシー保護のため、指導要録の保存期間を、学籍に関する部分を除きこれまでの20年から5年に短縮するが、開示問題については判断をさけ、内申書との関連についても、この日の報告ではほとんどふれなかった。選抜が目的の内申書は相対評価中心の記載が変わらないと見られる。(3.14日付 朝日)

## ★3歳児の幼稚園入園奨励

幼稚園教育の振興について検討してきた文部省の調査研究協力者会議(座長・辛田三郎・公立女子大学長)は、「2001年までに希望するすべての三歳児が幼稚園に入園できるようにすべきだ」との報告をまとめた。同省は'91年度から就園奨励費制度を3歳児にも拡大、市町村には3歳児クラスの増設を指導し、3歳児の就園奨励に10年計画で本格的に取り組む。こうした背景には、幼児人口の急減で「サバイバル時代」に入った幼稚園経営側からの強い要望もあるという。(3.2日付 朝日)



# 家庭科 NETWORKING

ネットワーキング

## あなたも是非お仲間に

「家庭科新時代」がついそこまで来ているというのに、家庭科の先生の顔色は冴えません。黙って手を束ねていれば、私達が願う家庭科とは全く異なるものが上から降りてきます。現場では、日々新しい問題が生まれ、一校に一人か二人の家庭科の先生は、相談する仲間にも恵まれず、研修の時間もままなりません。いきおい、成果の上がった他の人の実践を真似ることにもなりかねません。

今必要なのは、家庭科を何故男女共に学ぶのか、その理念を再確認し、目の前の生徒に噛み合う授業を創る力を育てることです。自分の問題から出発して、解決の道を探る中で仲間を得、連帯感を強めながら力をつけることを願うのが「家庭科Networking」です。会員の投稿中心の会報を年10回発行し、下記のチューターが相談に乗ります。年会費…3500円、入会費…500円、詳しいことは、ウイ書房内務局にお問い合わせ下さい。(☎03・3326・1380 郵便振替 東京3 413347)

### 〔チューター〕

- |                         |                     |
|-------------------------|---------------------|
| 飯野 こう (小学校家庭科)          | 田中 恒子 (家庭科教育、住教育)   |
| 石川 尚子 (高校家庭科)           | 土川 礼子 (中学校技術・家庭)    |
| 井田 恵子 (人権、法律問題)         | 寺内 定夫 (感性を育てる教育)    |
| 一番ヶ瀬康子 (社会福祉、生活問題)      | 寺島 紘子 (高校家庭科)       |
| 入江 一恵 (高校家庭科)           | 西内みなみ (教科教育としての家庭科) |
| 小沢 牧子 (教育の中の心理学)        | 福島 澄香 (高校家庭科)       |
| 小沢 有作 (民衆の教育史、差別問題)     | 福田三津夫 (小学校家庭科)      |
| 奥地 圭子 (不登校のこどもの問題)      | 朴木佳緒留 (家庭科教育とその歴史)  |
| 香川 敦子 (中学校技術・家庭、生物学)    | 牧野カツコ (家庭科教育、家族)    |
| 加藤 真代 (コンシューマリスト)       | 宮崎 礼子 (家庭科教育、経済)    |
| 金森トシエ (女性問題、社会一般)       | 村瀬 幸浩 (人間と性の教育)     |
| 櫛田 真澄 (中学校技術・家庭)        | 村田 泰彦 (教育学、家庭科教育)   |
| 桑畑美沙子 (地域と結ぶ家庭科)        | 森 幸枝 (高校家庭科)        |
| 児玉すみ子 (生徒とのコミュニケーション)   | 湯川憲比古 (教育行政、情報化社会論) |
| 駒野 陽子 (中学校教育、女性問題)      | 湯沢 静江 (高校家庭科)       |
| 酒井はるみ (家庭科教育、家族、フェミニズム) | 善積 京子 (結婚、女性学、家族問題) |
| 佐々木 賢 (学校に魅力を失った生徒の問題)  | 吉田 紘子 (家庭科教育、衣生活)   |
| 庄司 和晃 (民俗学、全面教育学)       | 他 (敬称略)             |